

非住宅・木造低層小規模建築物 施工管理図書作成の手引き

～発注者の満足度の高い現場運営と
施工管理図書の活用に向けて～



はじめに

本資料は、林野庁「民間建築物等における木材利用促進に向けた協議会」（ウッド・チェンジ協議会）における低層小規模建築物グループの活動をまとめたもので、木造建築の推進に際して直接的に建設に関わる関係者向け、特に、これまで非住宅木造建築の建設経験の少ない地域の工務店、施工者等を対象としています。

非住宅用途の木造建築のうち、規模が小さく、住宅の仕様や施工方法を準用して建設できる建物の場合、そこで用いられる構造体の建築資材は、住宅と大きく異なることはありません。

ただし、建物の工事内容に応じて、①資格や届け出等が必要となる。②規模や用途に応じた施工管理に係る仮設等の設備が必要で、その調達・施工管理を行う必要がある。③スパンが大きい場合や階高が高い場合は、一般の住宅では使用しない資材（集成材、LVL、トラス等）が必要となり、それらの部材・部品の調達・施工管理を行う必要がある。④基礎の大型化や②③の資材の搬入方法、及び使用重機の手配等の管理が必要となる。等、住宅とは異なる対応が必要となります。

こうした住宅とは異なる建物の施工管理を確実かつ効率的に行うためには、工事に関わる発注者・設計者・施工者の三位一体の連携作業が不可欠となり、連携のための情報共有ツールとしての施工管理図書の整備が必要となります。

今般、本グループでは、地域工務店等が実際の非住宅木造建築の施工管理図書整備時に参考となる「非住宅・木造低層小規模建築物 施工管理図書作成の手引き」を取りまとめました。手引きには、非住宅用途の木造低層小規模建築物の施工管理時に必要となる施工管理図書の様式（フォーマット）とともに、実際の施工管理図書作成時に参照してなぞることができる、設計モデルを対象とした図書の作成例と作成時の留意点等を掲載しています。

本手引きを活用することで、発注者に喜ばれる非住宅の木造建築が増えていくことを期待しています。

大橋 好光

ウッド・チェンジ協議会／低層小規模建築物グループ

工務店等支援体制の構築事業検討委員会

主査・委員長

東京都市大学名誉教授

非住宅・木造低層小規模建築物施工管理図書作成の手引き

～発注者の満足度の高い現場運営と施工管理図書の活用に向けて～

目 次

はじめに

第1章	本手引きの目的・内容と活用方法	1
第2章	重点施工管理図書の様式一覧	7
第3章	重点施工管理図書の作成例に用いた設計モデル	11
第4章	総合施工計画書	25
第5章	木工事（構造）施工計画書	35
第6章	施工計画書添付図書	65
第7章	施工管理図書作成にかかる記載事項及び留意事項等	117
	参考文献	130

第1章

本手引きの目的・内容と活用方法

第1章 本手引きの目的・内容と活用方法

1.1 本手引き作成の背景

近年、脱炭素社会・持続可能な社会の構築のため、「持続可能な開発目標 (SDGs)」への対応、「環境、社会、企業統治の要素を考慮した投資 (ESG 投資)」の推進が強く意識されるようになりました。

今後この二つの流れに沿うものとして、建築物の木造化・木質化を図ることが評価されていくことが予想されます。

こうした背景の元、地域産業の振興を通じた地域の活性化、木材活用を通じた森林資源や地球環境の保全を目的として、全国的に木造建築の整備推進の追い風が吹いています。それを実践するために、地域のつくり手による地域に根ざした木造建築の推進が求められています。

また、住宅需要が減少傾向にある現在、住宅建設に加えて、事務所、店舗、高齢者施設などの非住宅の木造建築の需要も高まりつつあります。地域の活性化と、さらなる非住宅木造建築の推進には、今まで地域の住宅建築を支えてきた地域工務店等の幅広い参画が望まれています。

(1) 工事関係者の情報共有にもとづいた確実な施工管理の必要性

非住宅木造建築の工事は、公共建築や事業用建築であることが多く、発注者、設計者、施工者（元請業者、協力業者）の三位一体の連携作業が不可欠です。

発注者の要望を確実に実現するには、「品質」、「工期」、「工事費」、「安全」に関する情報を適時適確に共有・確認し、間違い・手戻りのない効率的な施工管理を実施することが必要です。

(2) 手戻りのない確実な施工管理を効率的に行う情報共有ツールとしての施工管理図書の整備

発注者、設計者、施工者の三者が効率よく連携するための情報共有ツールとして、RC造・鉄骨造等の公共建築や事業用建築の工事实施の際に整備されている「施工管理図書」の活用が有効であることが認識されています。

非住宅木造建築の工事に際しても、施工管理図書を情報共有ツールとして活用することが施工管理の効率化の上で有効と考えられます。

本手引きでは、施工管理図書の活用方法と効果を図1のように位置付けています。

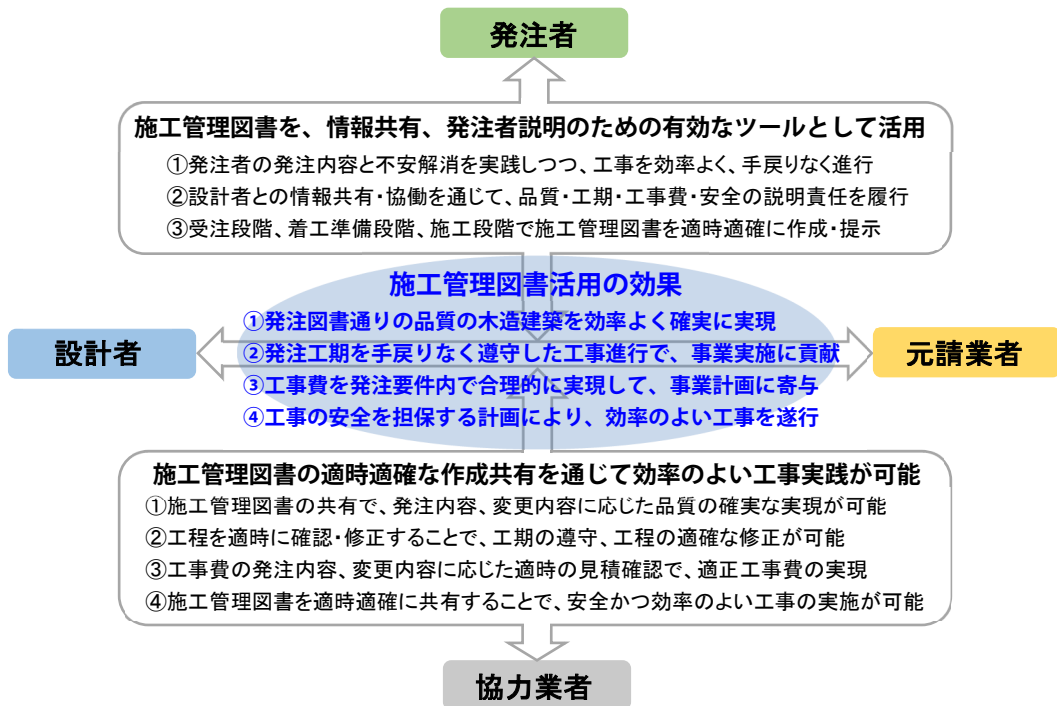


図1 施工管理図書の活用方法と効果

1.2 本手引きで扱う施工管理図書

本手引きには、非住宅木造建築の施工管理に携わる上で不可欠な図書を、重点施工管理図書として簡潔に整理し、着工前準備時の「総合施工計画書と関連図書」及び施工管理実施時の「木工事（構造）施工計画書」の2つの様式（フォーマット）とその作成例を掲載しています。

本手引きで扱う施工管理図書は表1の通りです。Ⅰ. 着工前準備段階で必要となる図書と、Ⅱ. 施工計画段階で必要となる図書に分けて解説しています。

表1 本手引きで扱う重点施工管理図書

工事段階	目的	施工管理図書	内容
Ⅰ. 着工前準備	工事全般にかかる体制・工程・仮設計画・安全管理等の計画	総合施工計画書及び関連図書	I-①工事全般にかかる概要・体制・工程・安全管理等の計画 I-②着工前に計画が必要となる仮設及び施工関連の図書
Ⅱ. 施工計画	各種工事の管理体制、工事の管理内容を定めた施工要領等の計画	木工事（構造）施工計画書	Ⅱ-①木工事（構造）にかかる概要・体制・工程等の計画 Ⅱ-②木工事（構造）にかかる施工要領 Ⅱ-③木工事（構造）関連の安全管理等の計画

1.3 本手引きの活用方法

戸建て住宅に特化した施工管理においては、一般的に施工管理図書が整備されることは少なく、これらの施工管理図書の整備に慣れた地域工務店等は多くないと考えられます。

本手引きの施工管理図書の作成例は、地域工務店の設計者が計画した設計モデル（第3章に掲載）を元に整備していますので、施工管理図書の整備経験が少ない方でも、実物件の施工管理の場面において、作成例を透写（トレース）することにより、最小限の労力で非住宅木造建築の施工管理図書の整備が可能です。

1.4 本手引きの対象とする範囲

(1) 敷地・建物

本手引きでは、以下のような敷地、非住宅・木造低層小規模建築物を想定して施工管理図書を整備しています。

敷地は、防火上の制約が比較的少ない敷地を想定し、建物の用途・規模は、波及効果が高いと考えられる、延べ面積 1,000 m²未満程度の2階建て事務所を想定しています。概要を表2に示します。

表2 本手引きで対象とする敷地、非住宅・木造低層小規模建築物

項目	内容
(1) 敷地	全国（法22条区域またはその他の地域の一般的な敷地（1,500～2,000 m ² 程度）を設定）
(2) 用途	事務所
(3) 階数・規模	2階建てまたは3階建て・延べ面積1,000 m ² 未満程度
(4) 工期	6～7ヶ月程度
(5) 構法	製材・集成材による軸組構法
(6) 材料	①木材 ・柱 120×120程度まで（製材及び集成材） ・梁 H240までの規格流通材の製材と中断面以下の集成材 ※住宅用プレカット加工機による加工が可能な部材寸法及び加工形状とする。
	②金物 ・既製品を基本とする。
(7) 防耐火性能	その他の建築物 ※法22条区域、その他の地域において、事務所は3階建て3,000 m ² まで「その他の建築物」にて建設可能ですが、規模拡大に伴い施工管理すべき事項が増え、施工管理体制の強化が必要となるため、本手引きでは1,000 m ² 未満程度を対象としています。

(2) 本手引きを活用する地域工務店等

本手引きは、非住宅木造建築物の実績は多くはないものの、元請として受注し、一定の施工管理を行うことが可能な地域工務店等が活用することを想定しています。

地域工務店等の実績、保有資格、現場管理体制等についての類型(表3)のうち、No.2~4、特にNo.3、4のタイプを主な活用対象として想定していますが、その他の地域工務店等の活用を拒むものではありません。

本手引きの活用対象とする地域工務店等

 : 主たる対象

表3 地域工務店等の類型と本手引きの活用対象

No.	①非住宅 木造建築物の 元請/下請の別	②非住宅木造建築物 の施工経験	③公共工事 の受注実績	④建設業許可の 取得状況	⑤現場管理者の 在籍状況
1	元請	多数の実績あり	多数あり	特定	監理技術者 が在籍
2	元請	非住宅木造建築物の設計・施工の一定の経験あり	一定の実績あり	特定	監理技術者 が在籍
3	元請	住宅の仕様・構法を準用できる非住宅木造建築物の建設の経験あり	実績はあり	特定	監理技術者 が在籍
4	下請	主に住宅生産に従事しており、非住宅木造建築物の建設にこれから取り組む意欲あり	なし	一般 (今後、特定を取得予定)	主任技術者 が在籍
5	下請	現時点では住宅生産に従事し、非住宅木造建築物の建設に取り組む予定をしていない	なし	一般	主任技術者 が在籍

なお、施工管理図書の作成にあたり、設計事務所等による設計図書(意匠・構造・設備に係る全ての設計図書を含む)があることを前提とし、設計業務は含まないこととしています。

第2章

重点施工管理図書の様式一覧

第2章 重点施工管理図書の様式一覧

本章では、重点施工管理図書として位置付けた「総合施工計画書と関連図書」及び「木工事（構造）施工計画書」の様式（フォーマット）とその作成例の一覧を掲載しています（表 4-1、4-2）。

重点施工管理図書は、工事段階（木工事（構造）における施工管理の段階）ごとに以下の項目で整理しています。

- ・重点施工管理図書の名称
- ・本手引きで取り扱っている項目
- ・図書の区分（図面、リスト等、図書の内容に応じて類型化した区分）
- ・添付図書の有無（設計モデルを元に作成した添付図書）

なお、本重点施工管理図書の様式の一覧は、あくまで一例を示したものであり、全ての工事に共通で使用できるものではありません。建物規模や工事内容等に応じて、図書や項目の追加・省略・代替等の検討が必要です。

また、本手引きで取り扱っていない木工事（構造）関連以外の工事や、大規模工事等で必要となる施工管理図書等については、住宅生産者、プレカット事業者、及び建設事業者の団体等が発行している資料をはじめとする既往施工管理図書の事例の活用が可能です。

表 4-1 重点施工管理図書の様式の一覧（着工前準備）

凡例 図書の区分

図面	各種計画図、施工図等の図書類
リスト	各種仕様、精度基準等のチェックリスト
図	工程表、各種手順、体制図等
書類	見積書、合法性確認証明書类等
管理基準	各種基準、仕様等の遵守事項

No.	工事段階	重点施工管理図書の名称	本手引きで取り扱っている項目		図書の区分	添付図書の有無	
1	I.着工前準備	総合施工計画書 ※第4章を参照ください。	1.総則	1.1 適用範囲	管理基準		
2				1.2 適用図書			
3				1.3 疑義、変更			
4				1.4 その他			
5					2.工事概要	リスト	
6					3.工程表	図	●
7			4.施工管理体制	4.1 管理体制図			
8				4.2 非常時連絡体制図			
9			5.工程管理・品質管理	5.1 工程表の作成	管理基準		
10				5.2 作業時間			
11				5.3 工程打合せ			
12				5.4 施工計画書に基づいた施工管理			
13				5.5 材料の品質管理			
14			6.作業員の安全管理	6.1 安全衛生責任者の専任と業務	管理基準		
15				6.2 安全ミーティング			
16				6.3 墜落・落下災害の防止			
17				6.4 工事用機械・設備の安全対策			
18				6.5 有資格者による作業			
19				6.6 交通安全の確保			
20				6.7 整理整頓			
21			7.近隣の安全確保・環境配慮	7.1 近隣への安全対策	管理基準		
22				7.2 騒音・振動・粉塵・臭気等の対策			
23				7.3 場内からの汚泥等の持ち出し対策			
24	総合施工計画書 関連図書	8.仮設計画	8.1 総合仮設計画図	図面	●		
25			8.2 足場計画図		●		
26	※第6章を参照ください。	9.プレカット図	凡例図	図面	●		
			仕様書		●		
			1階床伏図		●		
			2階床、1階小屋伏図		●		
			1階母屋伏図		●		
			小屋伏図		●		
			2階母屋伏図		●		
			1階・2階耐力壁、柱頭柱脚金物図		●		
			2階床面材配置図		●		
			下屋面材配置図		●		
			大屋面材配置図		●		
	1階・2階窓台伏図	●					
	断面図(軸組図)	●					
27		10.木構造工事見積書	構造材、羽柄材、金物の種類・規格別の計上	書類	●		
28		11.施工図	基礎伏図	図面	●		
			アンカーボルト伏図		●		
			基礎詳細図		●		

表 4-2 重点施工管理図書の様式の一覧（施工計画）

No.	工事段階	重点施工管理図書の名称	本手引きで取り扱っている項目		図書の区分	添付図書の有無	
29	II. 施工計画	木工事（構造）施工計画書 ※第5章を参照ください。	1. 総則	1.1 適用範囲	管理基準		
30				1.2 適用図書			
31				1.3 疑義、変更			
32				1.4 その他			
33		※添付図書は第6章を参照ください。	2. 工事概要		リスト		
34		3. 工程表		図	No.6と兼用		
35		4. 施工管理体制					
36		5. 材料調達	数量調書		書類	No.27と兼用	
37			材料の合法性確認書類				●
38		6. 施工要領	6.1 施工フロー		図	●	
39			6.2 構造材の施工数量		リスト		
40			6.3 木材の品質管理	6.3.1 使用する木質材料			
41				6.3.2 木質材料の品質管理方法			
42			6.4 木材の加工	6.4.1 木材加工の品質・仕様			
43				6.4.2 木材加工の品質管理方法			
44			6.5 接合金物等	6.5.1 使用する主な接合具・接合金物			
45				6.5.2 接合金物等の品質管理方法			
46			6.6 アンカーボルトの施工	6.6.1 アンカーボルトの施工精度の基準			
47				6.6.2 アンカーボルト施工の品質管理方法			
48			6.7 建て方の施工計画	6.7.1 建て方フロー		図	
49				6.7.2 建て方計画図		図面	●
50				6.7.3 搬入計画		管理基準	
51				6.7.4 使用重機		リスト	
52				6.7.5 建て方			
53				6.7.6 建て入れ測定		管理基準	
54				6.7.7 社内検査			
55				6.7.8 安全作業基準			
56		6.7.9 養生計画					
57		6.8 建て方の施工精度		6.8.1 建て方の精度基準	リスト		
58	6.8.2 建て方の品質管理方法						
59	6.9 接合部	6.9.1 接合部の施工管理の内容					
60		6.9.2 接合部の品質管理方法					
61	6.10 耐力壁	6.10.1 耐力壁の仕様					
62		6.10.2 耐力壁の施工管理の内容					
63		6.10.3 耐力壁の品質管理方法					
64	6.11 水平構面	6.11.1 水平構面の仕様					
65		6.11.2 水平構面の施工管理の内容					
66		6.11.3 水平構面の品質管理方法					
67	6.12 防腐・防蟻	6.12.1 防腐・防蟻の仕様					
68		6.12.2 防腐・防蟻の品質管理方法					
69	7. 安全・衛生管理	7.1 一般共通事項	管理基準				
70		7.2 現場の管理体制					
71		7.3 工事現場の安全・衛生管理					
72		7.4 火災防止					
73		7.5 巡視					
74		7.6 事故発生時の措置					

第3章

重点施工管理図書の作成例
に用いた設計モデル

第3章 重点施工管理図書の作成例に用いた設計モデル

本手引きでは、(一社) JBN・全国工務店協会 (JBN) + (一社) 中大規模木造プレカット技術協会 (PWA) が提案した汎用性の高い木造事務所の設計モデル (令和4年度本グループにて検討。以下、JBN+PWA モデルという。) を対象とし、重点施工管理図書の作成例を整備しました。

本章では、JBN+PWA モデルの概要と設計図書 (一般図) について紹介します。

3.1 JBN+PWA モデルの概要

(1) 諸元

JBN+PWA モデルの諸元を表5に示します。

表5 JBN+PWA モデルの諸元

階数		2階		
建築面積 (㎡)		407.42		
延べ面積 (㎡)		797.00		
階高 (mm)	1階	3,510		
	2階 (軒高さ)	3,090		
天井高 (mm)	1階	2,600		
	2階	2,600		
防耐火性能		その他の建築物		
スパン割 (m)		5.46 × 4.55 及び 一部 5.46 × 5.46		
架構形式	2階床	大・小梁 (小梁市松状配置)		
	屋根	和小屋		
主な構造部材	土台	ヒノキ製材	無等級材	120 × 120
		柱	ヒノキ製材	無等級材 120 × 120
		ベイマツ集成材	E135-F375	120 × 120
	大梁	スギ+ベイマツ異樹種集成材	E120-F330	120 × 270~390
		ベイマツ集成材	E135-F375	120 × 390
	小梁	スギ製材	無等級材	120 × 150~240
		スギ+ベイマツ異樹種集成材	E120-F330	120 × 300~390
	小屋梁	スギ製材	無等級材	120 × 150~240
スギ+ベイマツ異樹種集成材		E120-F330	120 × 270~390	
構造材における製材の使用比率		53.27%		
構造材使用量		69.7 m ³		
構造材による炭素貯蔵量		44t-CO ₂		

(2) 平面計画

- ・4.5×5.4mスパンまたは2.7mスパンを組み合わせ、地方都市の賃貸オフィス需要を考慮した約75㎡の事務室を各階に4室配置。
- ・建物の中心に5.4×5.4mスパンの木質化した温かみのある共用のホールを配置。

(3) 構造・構法計画

- ・住宅プレカット技術を活用した、在来軸組と汎用金物工法を併用。
- ・規格流通材の寸法内に納まるよう、柱は3m以内、梁桁は6m以内となる階高、スパンを設定。
- ・耐力壁は、壁倍率2.5倍の面材耐力壁を使用。

(4) 計画のポイント

①木造らしさを体感できる木質感のあるしつらえ	・外壁の木板張りにより、経年変化後も美観を保てるシンプルな外観 ・日本人になじみ深く木の香りが心地よい国産木材の内外装への多用
②多様な規模・レイアウトの執務スペースに対応できる構造システム	・住宅プレカット技術を利用した、在来軸組と汎用金物工法の併用
③建設地で調達しやすい地域材・国産材の活用	・調達容易性に配慮して極力国産材を活用 ・土台・柱は製材（一部集成材）、梁桁は製材及び集成材を採用
④地域工務店等が取り組みやすい材料・加工や施工法	・大工が取り組みやすく、取引のあるプレカット工場も対応可能な軸組構法とし、職人確保の容易性に配慮
⑤建物工事費及び工期の縮減	・住宅用資材を活用しやすい910mmモジュールの採用による材の分留まり向上 ・小規模建物用エレベーターや内部木製階段を採用し、コストを低減
⑥多様な建物要求性能への対応	・高い外皮断熱性能を確保し、省エネ性や就業環境を向上 ・2階床の遮音性向上のためALC板を用いた床構成
⑦その他	・木造躯体の現し、内装木質化などによる執務環境の向上や、CO2削減への配慮等の企業理念のPRによる企業価値向上の効果

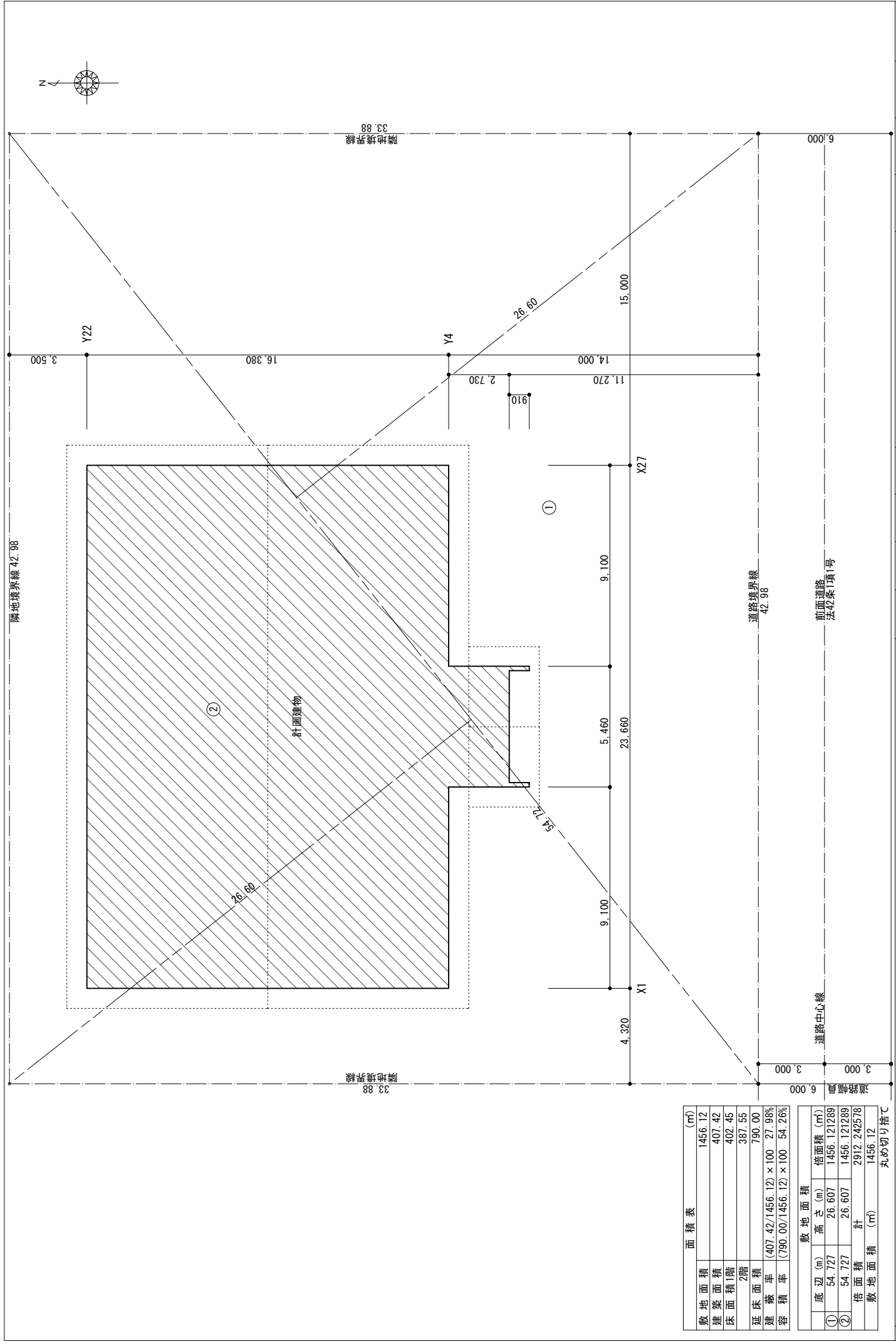
3.2 JBN+PWA モデルの設計図書

次ページ以降に JBN+PWA モデルの設計図書（意匠図のうち、一般図）を示します。

非住宅低層小規模建築物
木造事務所モデル
(JBN+PWAモデル)

(一社)JBN・全国工務店協会
+
(一社)中大規模木造プレカット技術協会

A-00	表紙
A-01	配置図
A-02	1階平面図
A-03	2階平面図
A-04	立面図1
A-05	立面図2
A-06	断面図
A-07	矩計図
A-08	パース

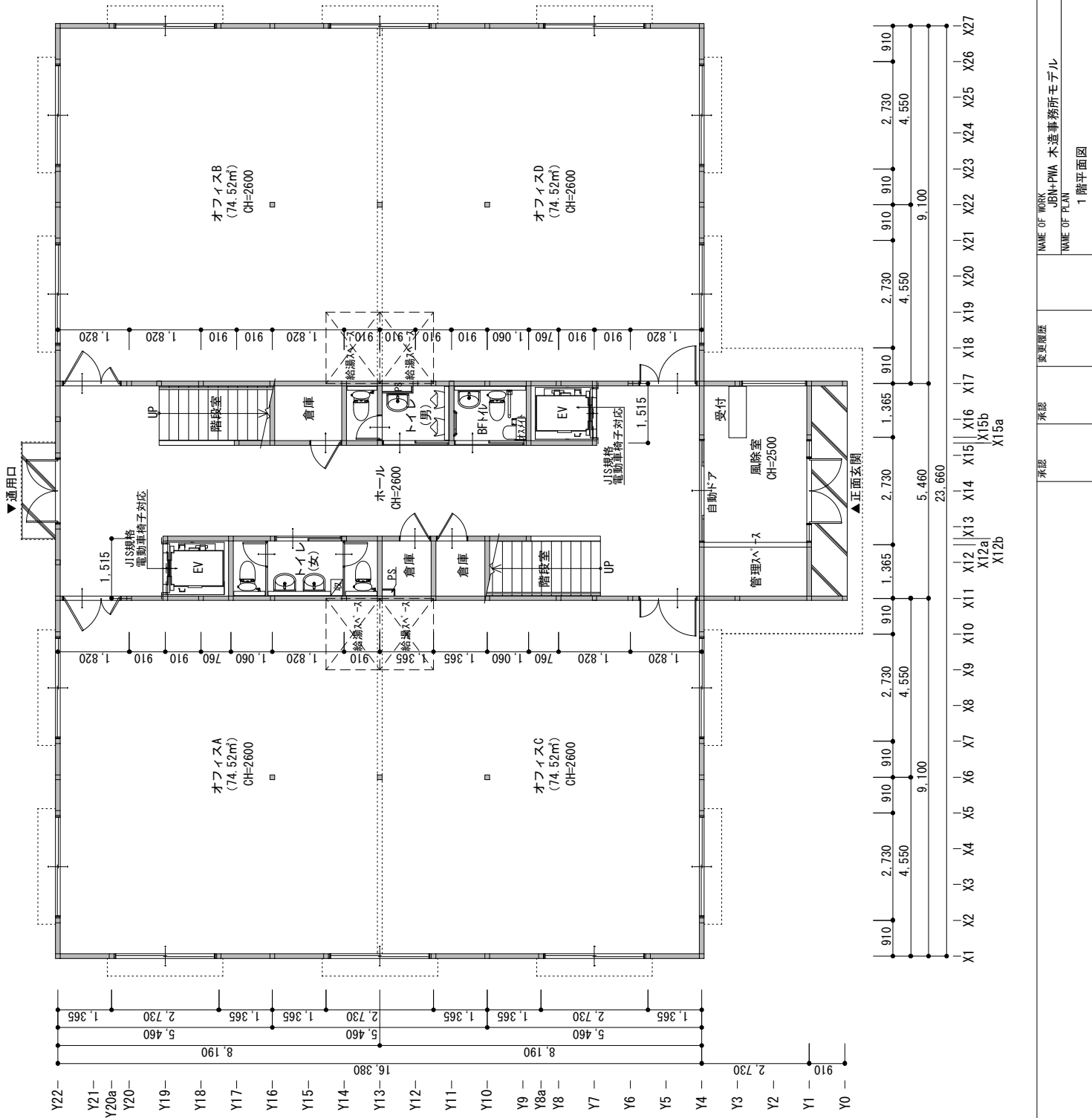
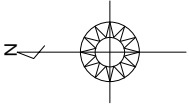


SCALE	A3 S=1:150	NO	A-01
SIGN		DATA	2022.12
NAME OF WORK	JBN+PWA 木造事務所主エビル		
NAME OF PLAN	配置図		
変更履歴			
承認			
承認			

敷地面積	1456.12
建築面積	407.42
床面積1階	402.45
2階	387.55
延床面積	790.00
建築率	(407.42/1456.12) × 100 27.98%
容積率	(790.00/1456.12) × 100 54.26%

底辺(m)	高さ(m)	倍面積(m ²)
① 54.727	26.607	1456.121289
② 54.727	26.607	1456.121289
倍面積計		2912.242578
敷地面積		1456.12

丸め切り捨て



SCALE A3 S=1:100
SIGN
DATA 2022.12
NO. A-02
JBN+PWA

NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル
NAME OF PLAN 1階平面図

変更履歴

承認

承認

承認

承認

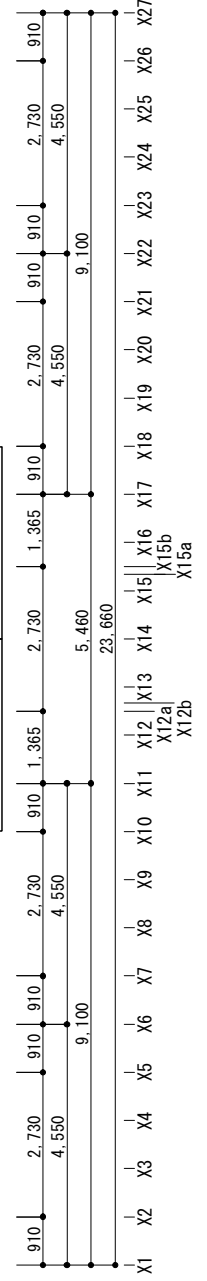
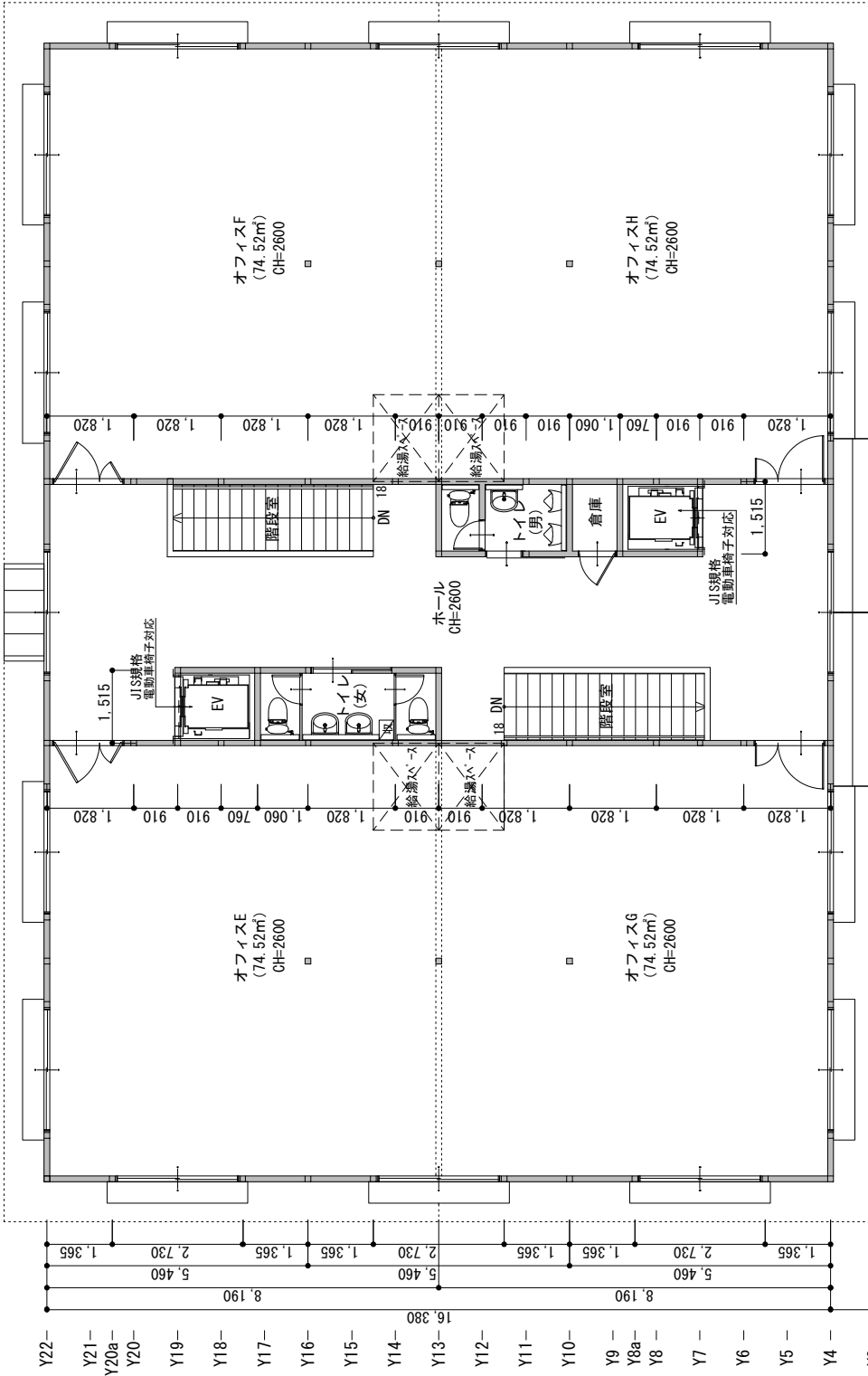
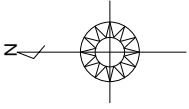
承認

承認

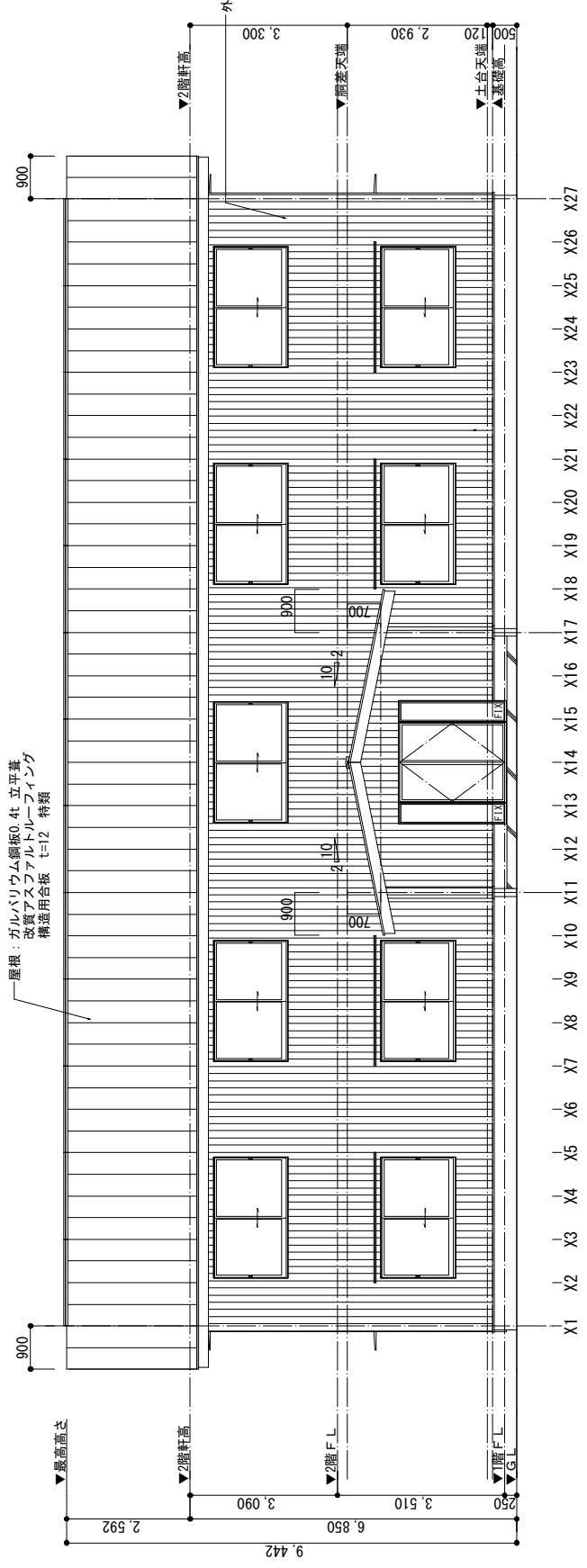
承認

承認

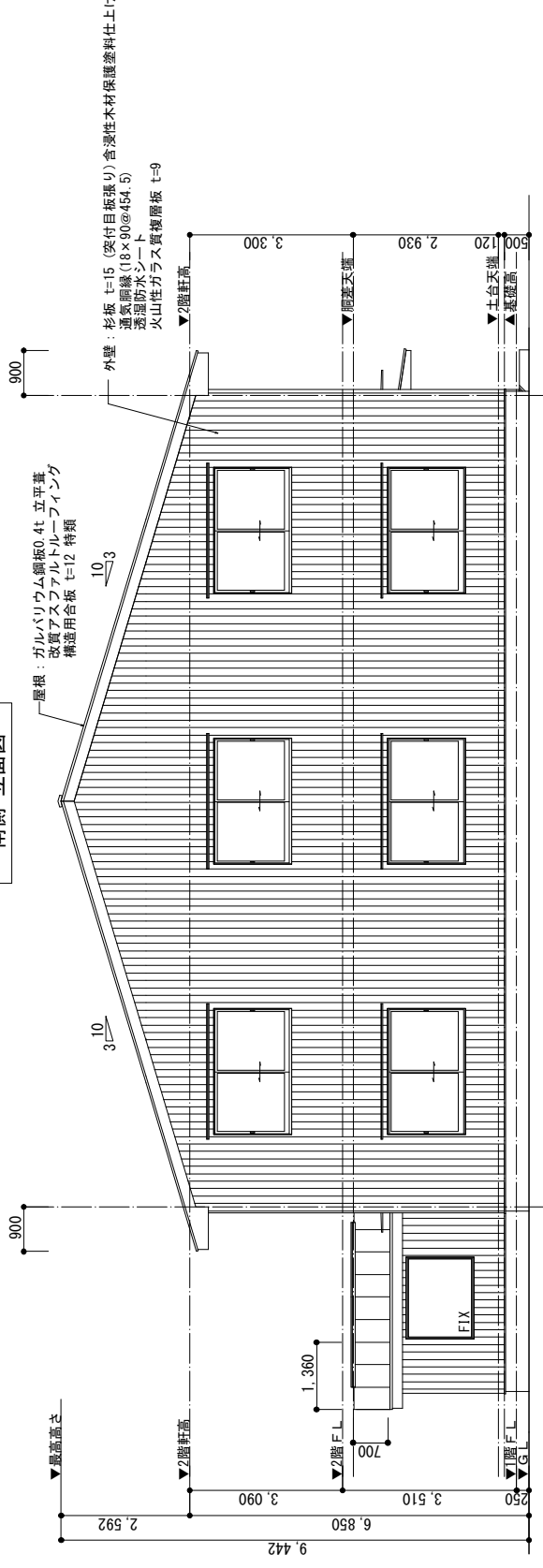
凡例



凡例	承認	承認	変更履歴	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル	DATA 2022.12	SIGN	SCALE A3 S=1:100	NO. A-03
				NAME OF PLAN 2階平面図				JBN+PWA

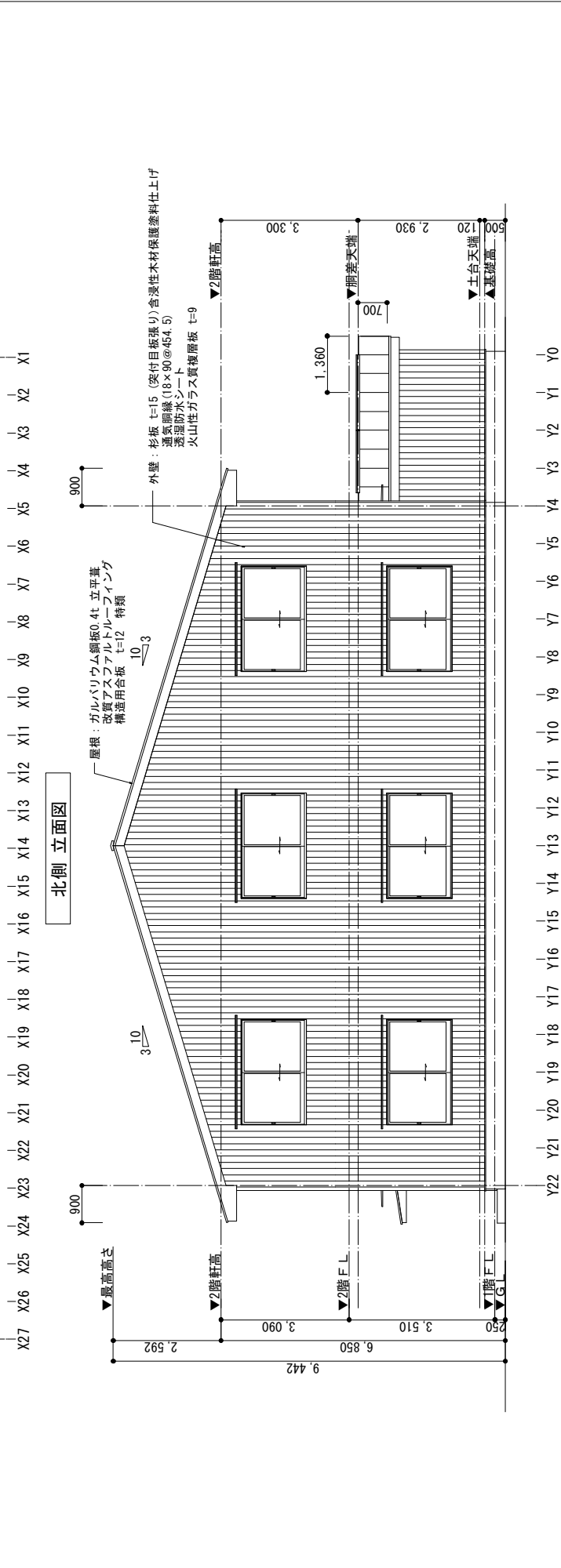
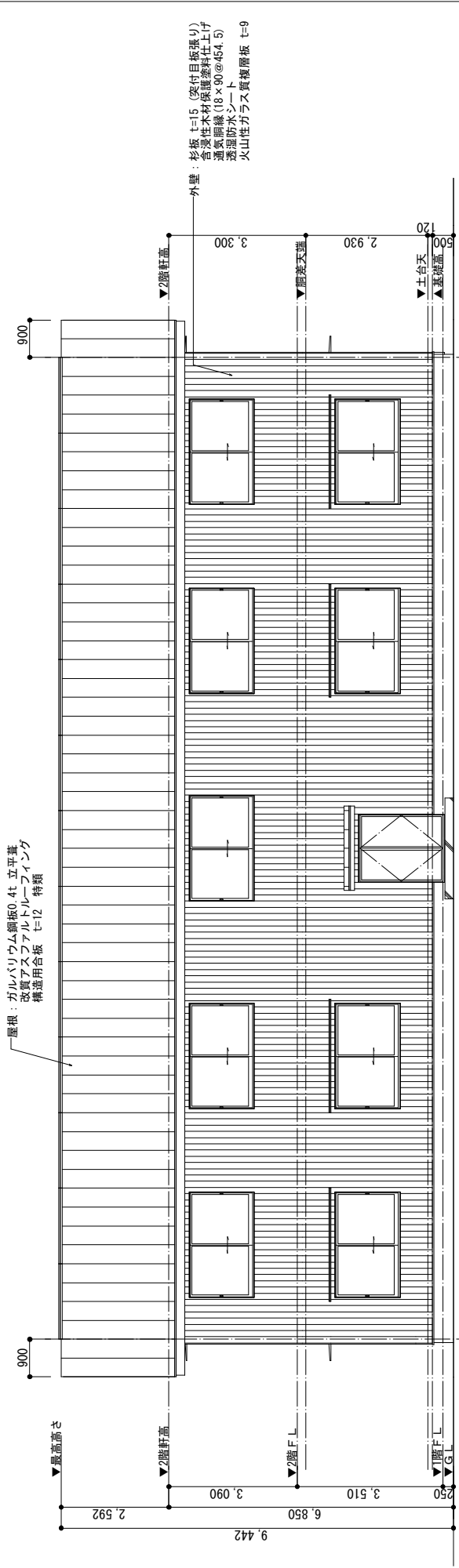


南側立面図



東側立面図

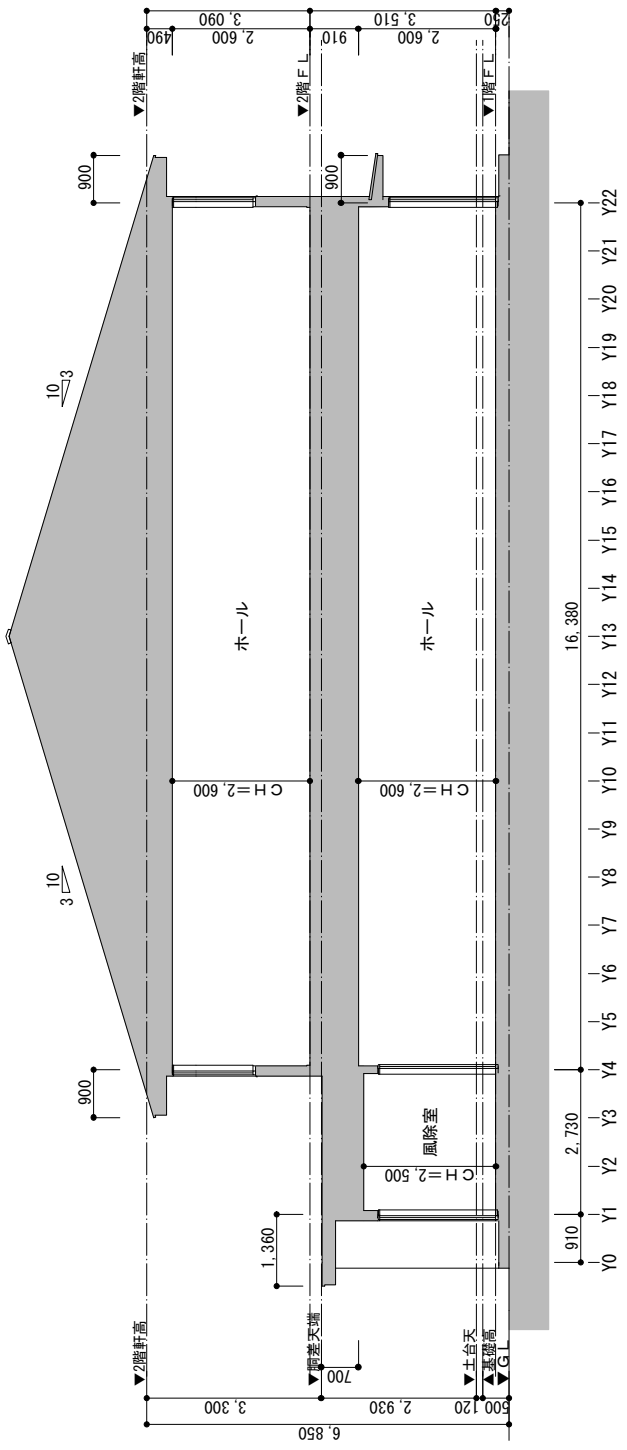
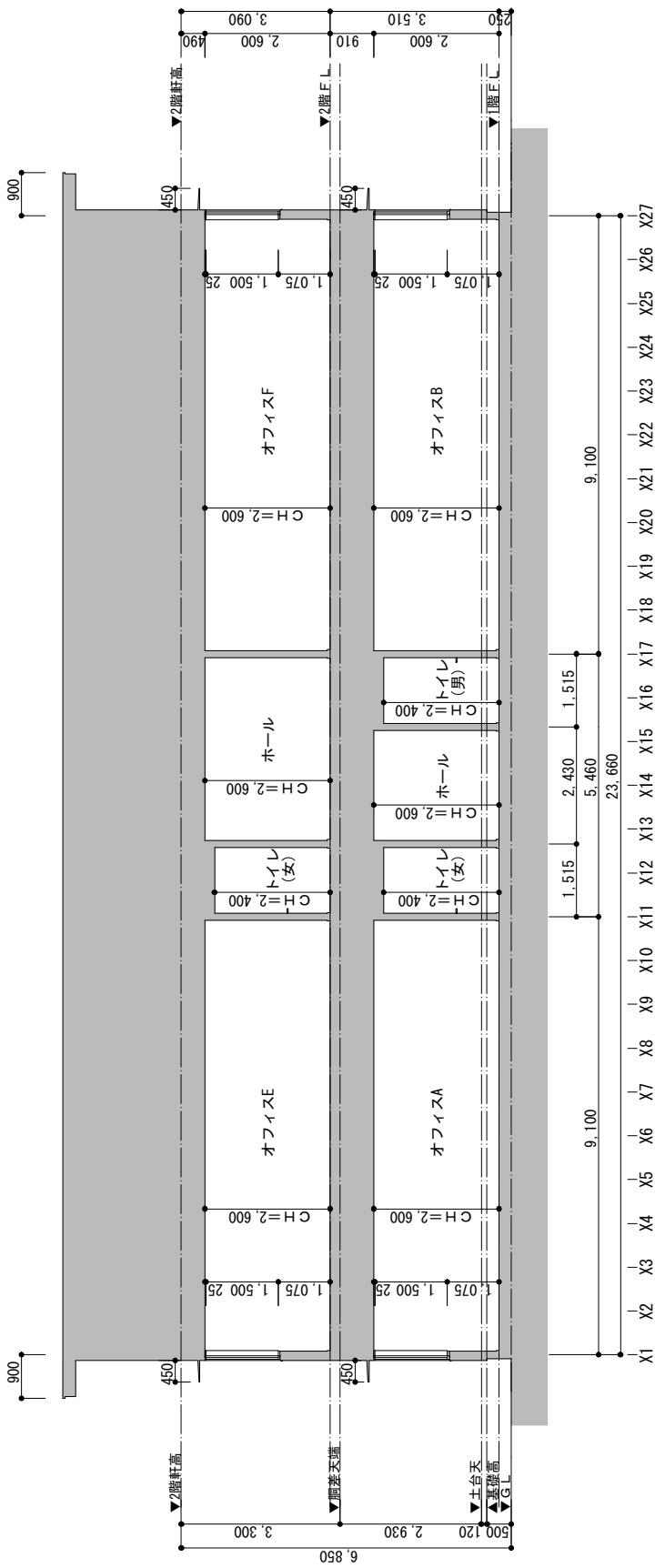
凡例	承認	承認	変更履歴	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所主ビル	DATA 2022.12	SIGN	SCALE A3 S=1:100	NO. A-04
				NAME OF PLAN 立面図 1			JBN+PWA	



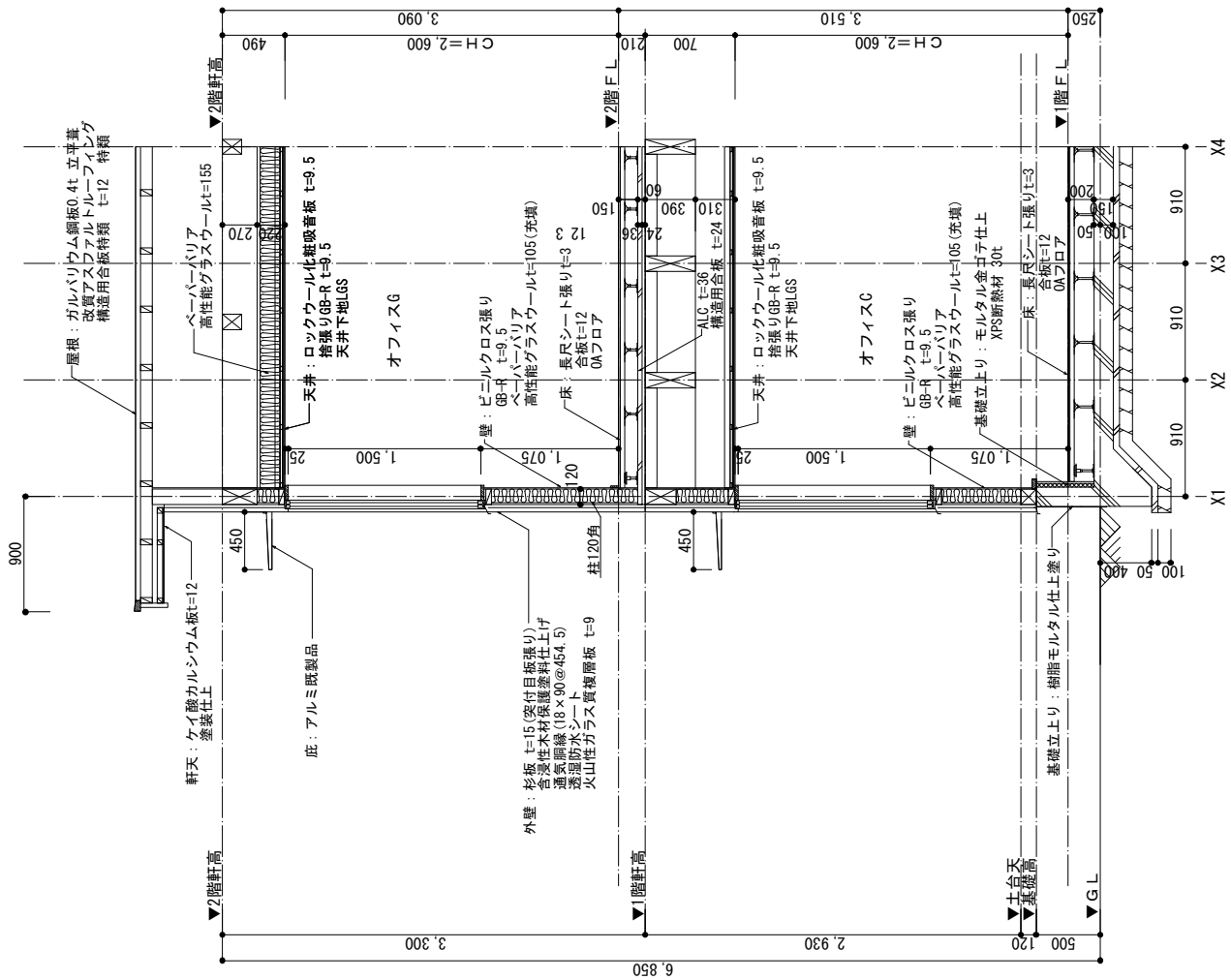
北側立面図

西側立面図

凡例	承認	承認	変更履歴	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所主1ビル	DATA 2022.12	SIGN	SCALE A3 S=1:100	NO. A-05
				NAME OF PLAN 立面図 2			JBN+PWA	



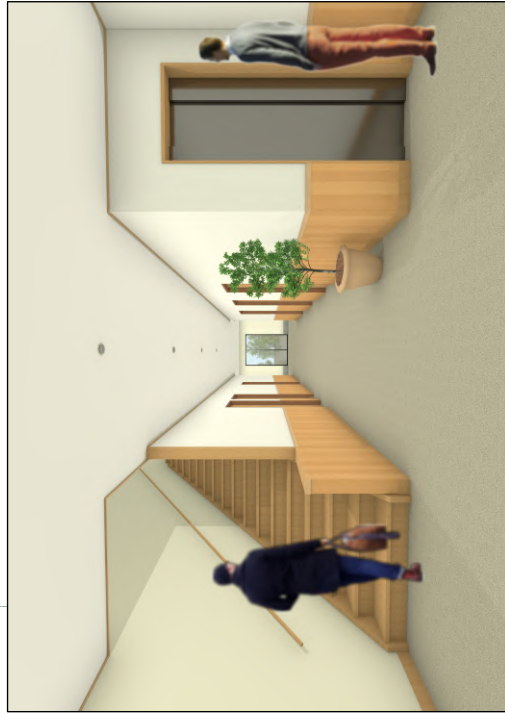
凡例	変更履歴	承認	承認	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル	DATA 2022.12	SIGN	SCALE A3 S=1:100	NO. A-06
				断面図			JBN+PWA	



凡例	承認	承認	変更履歴	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル	DATA 2022.12	SIGN	SCALE A3 S=1:40	NO A-07
				NAME OF PLAN 矩計図			JBN+PWA	



外観パース



内観パース

凡例

承認	承認	変更履歴	NAME OF WORK JBN+PIA 木造事務所モデル	DATA 2022. 12	SIGN	SCALE —	NO. A-08
			NAME OF PLAN パース				JBN+PIA

第4章

総合施工計画書

第4章 総合施工計画書

本章では、非住宅・木造低層小規模建築物の着工前準備で有用な「総合施工計画書」の作成例を紹介します。

なお、本作成例はあくまで一例を示したものであり、全ての工事に共通で使用できるものではありません。建物規模や工事内容等に応じて、図書や項目の追加・省略・代替等の検討が必要です。

無記入の様式は、(公財)日本住宅・木材技術センターのWEBサイトからダウンロードすることができます。

<https://www.howtec.or.jp/files/libs/5249/202405161136585092.xlsx>



●●●●新築工事

総合施工計画書

令和●●年 ●●月

承 諾	

請負者 ●●建設 株式会社

現場代理人	

※本計画書は「JBN+PWAモデル」を対象とした場合の作成例(青字)を示します。
※無記入の様式は、(公財)日本住宅・木材技術センターのWEBサイトからダウンロードすることができます。(予定)

目 次

総合施工計画書

- 1 総則
- 2 工事概要
- 3 工程表
- 4 施工管理体制
- 5 工程管理・品質管理計画
- 6 作業員の安全管理計画
- 7 近隣の安全確保・環境配慮
- 8 仮設計画

総合施工計画書関連図書

- 9 プレカット図
- 10 木工事見積書
- 11 施工図

1 総則

1.1 適用範囲 (No.1)

※本手引きでは解説の便宜上、図書一覧のNo.を付しています。

本施工計画書は●●●●新築工事における現場施工管理方針として適用する。

1.2 適用図書 (No.2)

本工事は下記の仕様書及び設計図に基づいて施工する。

その施工に当たっての優先順位は、下記による。

- (1) 質問回答書、現場説明書、現場説明事項及び追加変更指示書
- (2) 本工事の建築設計図書及び特記仕様書
- (3) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共建築木造工事標準仕様書(令和4年版)
- (4) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)

1.3 疑義、変更 (No.3)

本施工計画書に記載なき事項や、記載事項の質疑変更に関しては監理者・工事担当者との協議の上で承諾を得て施工する。

1.4 その他 (No.4)

本施工計画書に基づく工事内容及び作業の進め方等について、協力会社及び作業員に周知徹底させて施工品質の確保に用いる。

2 工事概要 (No.5)

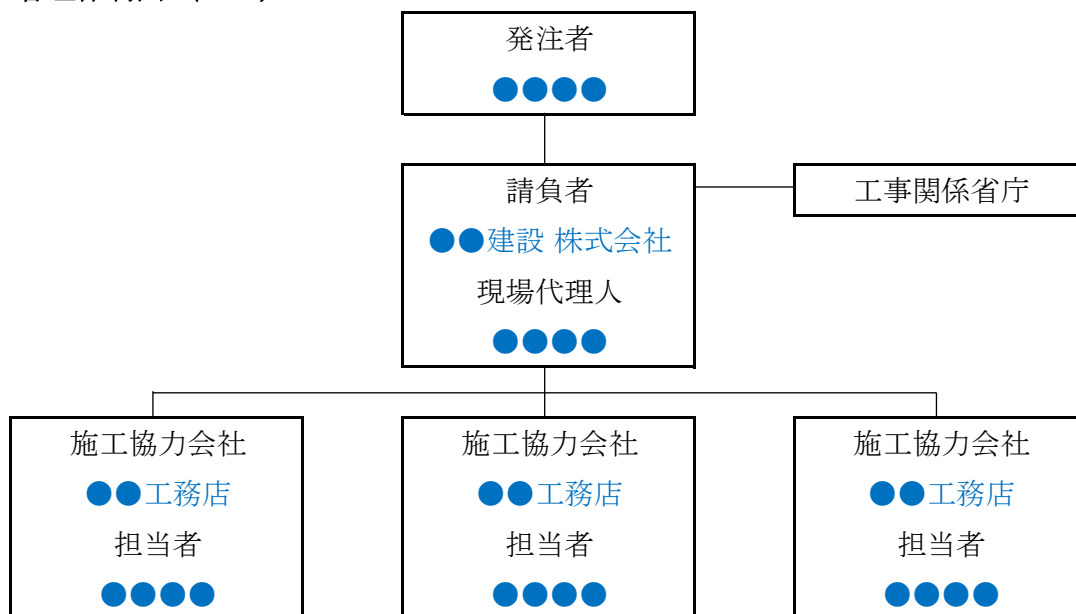
工事名称	●●●●新築工事
工事場所	●●県●●市●● ●—●—●
発注者	●●●●
設計者	株式会社 ●●設計事務所
監理者	株式会社 ●●設計事務所
請負者	●●建設 株式会社
工期	令和●●年●●月●●日～令和●●年●●月●●日
主要用途	事務所
敷地面積	1,456.12㎡
建築面積	407.42㎡
延床面積	797.00㎡
建物規模	地上2階
建物の構造	木造

3 工程表 (No.6)

別紙の工程表による。【第6章 施工計画書添付図書参照】

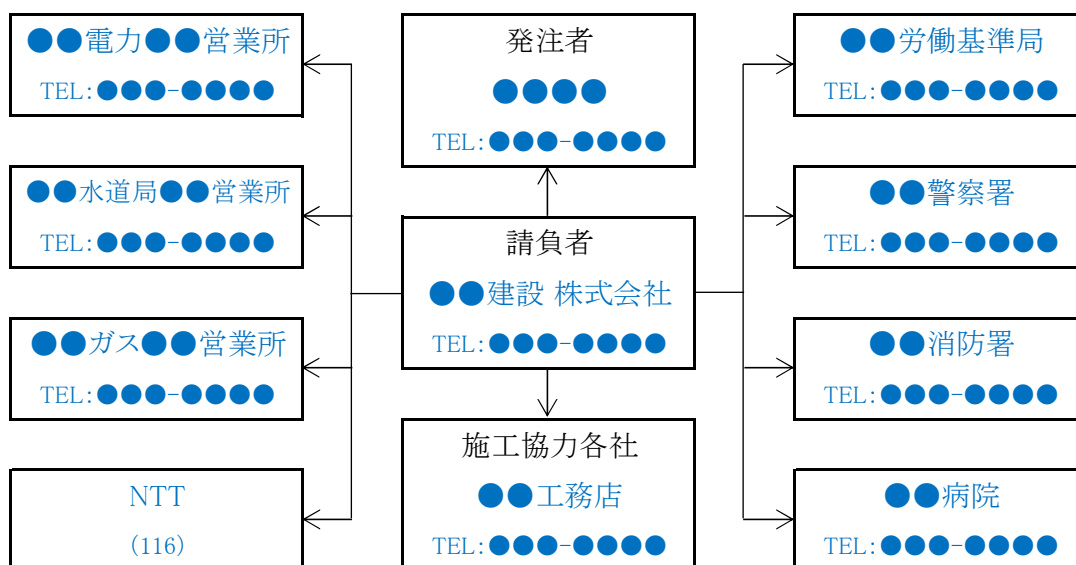
4 施工管理体制

4.1 管理体制図 (No.7)



4.2 非常時連絡体制図 (No.8)

- ・緊急事態が発生した場合は、その状況・原因・当事者・場所・時刻を的確に把握して関係先に速やかに連絡すると共に応急処置をし、各関係部署に連絡を取り適切な指示を受ける。
- ・労災事故が出た場合は、速やかに状況を把握し、関係者に連絡(報告)を行う。



5 工程管理・品質管理計画

5.1 工程表の作成 (No.9)

- ・別紙の工程表による。
- ・週間工程表については、毎週●曜日に翌2週間分を作成する。
- ・工程表に検査予定日を記入し、これを検査計画とする。

5.2 作業時間 (No.10)

- ・作業時間は原則として●:●●から●●:●●とし、作業時間延長は●●:●●までとする。
- ・原則として土曜・日曜・祝祭日は作業を行わない。
- ・作業時間延長時及び現場休日は、振動・騒音等、近隣に影響のある作業は行わない。

5.3 工程打合せ (No.11)

- ・工程打合せは随時行い、各工事の関係者及び監理者と打合せを行う。
- ・打合せ内容は以下の通り。
 - ①工事の進捗確認及び各工事取合いの調整
 - ②前回打合せ内容の確認
 - ③翌週または翌月の工事内容、工事日数、実行月の検討
 - ④作業場の意見、注意事項、要望事項等
 - ⑤工事が予定通り進捗しなかった場合の原因究明と対策

5.4 施工計画書に基づいた施工管理 (No.12)

- ・必要な工種の施工計画書を作成し、施工計画書に基づいて施工管理を行う。
- ・施工計画書を必要としない工種については、チェックシート等を用いて施工管理を行う。

5.5 材料の品質管理 (No.13)

- ・搬入資材は必要に応じ、現場搬入時に仕様・性能等の受入検査を行う。
- ・工事で使用する搬入材料の保管は、種類別に整理する。
- ・外部に置く場合は、直接土に触れないように台木等を敷く。また、雨水に濡れないよう養生シート等で覆い、ロープその他のもので結束する。

6 作業員の安全管理計画

6.1 安全衛生責任者の選任と業務 (No.14)

- ・安全衛生責任者を選任して、労働基準法、労働安全衛生法、その他関係法令並びに本作業所の安全衛生規定を遵守して、作業の安全と健康管理を行う。
- ・安全衛生責任者には、予見の義務、回避の義務、確認の義務の3つの義務がある。常に安全を先取りし、当日終わる作業であっても改善しなければならないものは、即座に改善する。
- ・作業所内外を問わず、工事の実施に伴う危険防止・騒音防止・振動防止・災害防止・公害防止・風水害対策等のため、関係法規に従って、常に遺漏のないよう注意を払うと共に、養生等適切な措置を施す。

6.2 安全ミーティング (No.15)

- ・現場代理人を責任者として、適宜安全ミーティングを実施する。

6.3 墜落・落下災害の防止 (No.16)

- ・作業所内では、作業に適する服装とし、保護帽を着用する。
- ・高所及び危険な箇所での作業は、墜落・落下災害を防止するため、必ず安全装具を装着する。
- ・脚立の単独使用は厳禁とし、使用する場合は開き止め、滑り止めを確認の上、足場板3点支持とする。

6.4 工事用機械・設備の安全対策 (No.17)

- ・現場内に持ち込む工事用機械・工具は、構造規格・安全装置等の整備が確認されている物を使用する。

6.5 有資格者による作業 (No.18)

- ・免許・資格の必要な作業には、有資格者を配置する。

6.6 交通安全の確保 (No.19)

- ・通勤車両及び資材搬入車両が交通事故を起こさぬよう、交通規則を順守する。
- ・資材搬入時など、現場車両進入が多くなり危険度が増した時は、誘導員等を配置し、交通安全に努める。
- ・工事関係車両の用地周辺への駐車は禁止とする。

6.7 整理整頓 (No.20)

- ・資材・機械工具の置き場・保管場所は指定場所を決めて、整理整頓に努める。
- ・作業所は常に安全通路を確保して、全員の作業行動に支障のないようにする。

7 近隣の安全確保・環境配慮

7.1 近隣への安全対策 (No.21)

- ・敷地外周部には仮囲い、バリケード等を施し、第三者の侵入を防止する。
- ・必要に応じて交通誘導員を配置し、第三者への交通安全対策を十分に行う。

7.2 騒音・振動・粉塵・臭気等の対策 (No.22)

- ・建設機械や工法の選定にあたっては、近隣への騒音・振動・粉塵・臭気等の低減に努める。
- ・騒音等の発生が予想される場合は、近隣住民に対策を示し、理解を求める。

7.3 場内からの汚泥等の持ち出し対策 (No.23)

- ・土工事等の施工時は、タイヤに附着する汚泥等を場内で清掃し、道路の汚れを防止する。

総合施工計画書関連図書

8 仮設計画

8.1 総合仮設計画図 (No.24)

- ・別紙の総合仮設計画図による。【第6章 施工計画書添付図書参照】

8.2 足場計画図 (No.25)

- ・別紙の足場計画図による。【第6章 施工計画書添付図書参照】

9 プレカット図 (No.26)

- ・別紙のプレカット図による。【第6章 施工計画書添付図書参照】
- ・プレカット事業者の協力の元、木構造部材のプレカットに係る各種の伏図・耐力壁図・面材配置図・断面図(軸組図)等の図書を作成する。

10 木構造工事見積書 (No.27)

- ・別紙の木構造工事見積書による。【第6章 施工計画書添付図書参照】
- ・木造建築関連事業者の協力の元、木構造部材に係る見積書を作成する。

11 施工図 (No.28)

- ・別紙の施工図による。【第6章 施工計画書添付図書参照】
- ・設計図書に基づき、基礎伏図・アンカーボルト伏図・基礎詳細図等の図書を作成する。

第5章

木工事（構造）施工計画書

第5章 木工事（構造）施工計画書

本章では、非住宅・木造低層小規模建築物の木工事（構造）で有用な「木工事（構造）施工計画書」の作成例を紹介します。

なお、本作成例はあくまで一例を示したものであり、全ての工事に共通で使用できるものではありません。建物規模や工事内容等に応じて、図書や項目の追加・省略・代替等の検討が必要です。

無記入の様式は、（公財）日本住宅・木材技術センターのWEBサイトからダウンロードすることができます。

<https://www.howtec.or.jp/files/libs/5250/202405161137299308.xlsx>



●●●●新築工事

木工事（構造）施工計画書

令和●●年 ●●月

承 諾	

請負者 ●●建設 株式会社

現場代理人	

※本計画書は「JBN+PWAモデル」を対象とした場合の作成例(青字)を示します。
※無記入の様式は、(公財)日本住宅・木材技術センターのWEBサイトからダウンロードすることができます。(予定)

目 次

1 総則

- 1.1 適用範囲
- 1.2 適用図書
- 1.3 疑義、変更
- 1.4 その他

2 工事概要

3 工程表

4 施工管理体制

5. 材料調達

- 5.1 数量調書
- 5.2 材料の合法性確認書類

6 施工要領

- 6.1 施工フロー
- 6.2 構造材の施工数量
- 6.3 木材の品質管理
- 6.4 木材の加工
- 6.5 接合金物等
- 6.6 アンカーボルトの施工
- 6.7 建て方の施工計画
- 6.8 建て方の施工精度
- 6.9 接合部
- 6.10 耐力壁
- 6.11 水平構面
- 6.12 防腐・防蟻

7 安全・衛生管理

1 総則

1.1 適用範囲 (No.29)

※本手引きでは解説の便宜上、図書一覧のNo.を付しています。

本施工計画書は●●●●新築工事における
木工事(構造)の現場施工管理方針として適用する。

1.2 適用図書 (No.30)

本工事は下記の仕様書及び設計図に基づいて施工する。

その施工に当たっての優先順位は、下記による。

- (1) 質疑回答書、現場説明書、追加変更指示書
- (2) 本工事の建築設計図書及び特記仕様書
- (3) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共建築木造工事標準仕様書(令和4年版)
- (4) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)
- (5) (一社)中大規模木造プレカット技術協会
木質工事特記仕様書、木造軸組接合部標準図(令和4年版)

1.3 疑義、変更 (No.31)

本施工計画書に記載なき事項や、記載事項の質疑変更に関しては監理者・
工事担当者との協議の上で承諾を得て施工する。

1.4 その他 (No.32)

本施工計画書に基づく工事内容及び作業の進め方等について、
協力会社及び作業員に周知徹底させて施工品質の確保に用いる。

2 工事概要 (No.33)

工事名称	●●●●新築工事
工事場所	●●県●●市●● ●—●—●
発注者	●●●●
設計者	株式会社 ●●設計事務所
監理者	株式会社 ●●設計事務所
請負者	●●建設 株式会社
工期	令和●●年●●月●●日～令和●●年●●月●●日
主要用途	事務所
敷地面積	1,456.12㎡
建築面積	407.42㎡
延床面積	797.00㎡
建物規模	地上2階
建物の構造	木造

3 工程表 (No.34)

- ・本計画は小規模かつ汎用的な木構造工事であるため、総合施工計画書の工程表(No.6)と兼用する。
- ・別紙の工程表による。【第6章 施工計画書添付図書参照】

4 施工管理体制 (No.35)

【元請施工会社】

会社名	●●建設 株式会社
住所	●●県●●市●● ●—●—●
TEL	●●●—●●●—●●●●
代表者	●●●●
現場代理人	●●●●
監理技術者	●●●●
工事担当者	●●●●

【木工事(構造)】

会社名	●●●●
住所	●●県●●市●● ●—●—●
TEL	●●●—●●●—●●●●
代表者	●●●●
安全衛生責任者	●●●●
作業責任者	●●●●

【プレカット・木材業者】

会社名	●●●●
住所	●●県●●市●● ●—●—●
TEL	●●●—●●●—●●●●
代表者	●●●●
品質管理責任者	●●●●

5. 材料調達

5.1 数量調書 (No.36)

- ・見積項目として木材、金物の数量を計上している木構造工事見積書(No.27)と兼用する。
- ・別紙の木構造工事見積書による。【第6章 施工計画書添付図書参照】

5.2 材料の合法性確認書類 (No.37)

- ・木材等を譲り受ける際に提供された書類等により木材等の合法性の確認をする。
- ・別紙の材料の合法性確認書類(出荷証明書)による。【第6章 施工計画書添付図書参照】

6. 施工要領

6.1 施工フロー (No.38)

- ・着工前準備、施工計画、材料調達、施工の段階ごとに実施する作業内容とその流れを整理する。
- ・別紙の施工フローによる。【第6章 施工計画書添付図書参照】

6.2 構造材の施工数量(木材の数量把握が必要な場合のみ) (No.39)

木材の区分	材積(m ³)
■ 製材	37.04
■ 集成材	32.58
□その他	0.00
計	69.62
特記	建て方に使用する材の材積を示す

6.3 木材の品質管理

6.3.1 使用する木質材料 (No.40)

□JAS構造用製材

部位	樹種	区分			含水率	保存処理	材面の美観	備考
		目視等級区分		機械等級区分				
柱	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ	<input type="checkbox"/> 乙種	<input type="checkbox"/> 1級 <input type="checkbox"/> 2級 <input type="checkbox"/> 3級	<input type="checkbox"/> E70 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> SD15 <input type="checkbox"/> SD20 <input type="checkbox"/> SD25	<input type="checkbox"/> K3 <input type="checkbox"/> 他 <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節 <input type="checkbox"/> 小節 <input type="checkbox"/> 並	
梁	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ	<input type="checkbox"/> 甲種Ⅰ <input type="checkbox"/> 甲種Ⅱ	<input type="checkbox"/> 1級 <input type="checkbox"/> 2級 <input type="checkbox"/> 3級	<input type="checkbox"/> E70 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> SD15 <input type="checkbox"/> SD20 <input type="checkbox"/> SD25	<input type="checkbox"/> K3 <input type="checkbox"/> 他 <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節 <input type="checkbox"/> 小節 <input type="checkbox"/> 並	
土台	<input type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/>							

□地域認証材

認証制度名 ○○県産材認証制度							
部位	樹種	含水率	ヤング係数	材面の美観			備考
柱	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ	<input type="checkbox"/> SD20 <input type="checkbox"/> SD25	<input type="checkbox"/> E70 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節 <input type="checkbox"/> 小節 <input type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等			
梁	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> SD20 <input type="checkbox"/> SD25	<input type="checkbox"/> E70 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節 <input type="checkbox"/> 小節 <input type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等			
土台	<input type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> SD20 <input type="checkbox"/> SD25		<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節 <input type="checkbox"/> 小節 <input type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等			

■無等級材

部位	樹種	含水率	ヤング係数	材面の美観			備考
柱・束	<input type="checkbox"/> スギ <input checked="" type="checkbox"/> ヒノキ	<input checked="" type="checkbox"/> SD20 <input type="checkbox"/> SD25	<input type="checkbox"/> E70相当 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節 <input type="checkbox"/> 小節 <input checked="" type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等			
梁・母屋 ・棟木	<input checked="" type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/> ベイマツ	<input checked="" type="checkbox"/> SD20 <input type="checkbox"/> SD25	<input checked="" type="checkbox"/> E70相当 <input type="checkbox"/> E90相当	<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節 <input type="checkbox"/> 小節 <input checked="" type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等			
土台	<input checked="" type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> SD20 <input type="checkbox"/> SD25		<input type="checkbox"/> 無節 <input type="checkbox"/> 上小節 <input type="checkbox"/> 小節 <input checked="" type="checkbox"/> 特等(特1等) <input type="checkbox"/> 1等			

■構造用集成材

部位	樹種	品名	強度等級	材面の品質	接着性能(使用環境)	ホルムアルデヒド放散量	備考
柱	<input type="checkbox"/> スギ <input checked="" type="checkbox"/> ベイマツ <input type="checkbox"/> スプルース <input type="checkbox"/> オウシュウアカマツ <input type="checkbox"/> スギ+ベイマツ	<input checked="" type="checkbox"/> 同一等級構成集成材 <input type="checkbox"/> 異等級構成集成材 <input type="checkbox"/> 対称異等級 <input type="checkbox"/> 特定対称異等級 <input type="checkbox"/> 非対称異等級 <input type="checkbox"/> 異樹種集成材	E135-F375	<input type="checkbox"/> 1種 <input checked="" type="checkbox"/> 2種 <input type="checkbox"/> 3種	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C	<input checked="" type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	
梁	<input type="checkbox"/> スギ <input checked="" type="checkbox"/> ベイマツ <input type="checkbox"/> スプルース <input type="checkbox"/> オウシュウアカマツ <input type="checkbox"/> スギ+ベイマツ	<input type="checkbox"/> 同一等級構成集成材 <input checked="" type="checkbox"/> 異等級構成集成材 <input checked="" type="checkbox"/> 対称異等級 <input type="checkbox"/> 特定対称異等級 <input type="checkbox"/> 非対称異等級 <input type="checkbox"/> 異樹種集成材	E135-F375	<input type="checkbox"/> 1種 <input checked="" type="checkbox"/> 2種 <input type="checkbox"/> 3種	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C	<input checked="" type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ベイマツ <input type="checkbox"/> スプルース <input type="checkbox"/> オウシュウアカマツ <input checked="" type="checkbox"/> スギ+ベイマツ	<input type="checkbox"/> 同一等級構成集成材 <input type="checkbox"/> 異等級構成集成材 <input type="checkbox"/> 対称異等級 <input type="checkbox"/> 特定対称異等級 <input type="checkbox"/> 非対称異等級 <input checked="" type="checkbox"/> 異樹種集成材	E120-F330	<input type="checkbox"/> 1種 <input checked="" type="checkbox"/> 2種 <input type="checkbox"/> 3種	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C	<input checked="" type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	

□構造用単板積層材(LVL)

部位	樹種	品名	曲げ性能	水平せん断性能	接着性能(使用環境)	ホルムアルデヒド放散量	備考
<input type="checkbox"/> 柱 <input type="checkbox"/> 梁 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/> カラマツ	<input type="checkbox"/> A種構造用 単板積層材 <input type="checkbox"/> B種構造用 単板積層材			<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input checked="" type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	

□直交集成板(CLT)

部位	樹種	規格	厚さ	接着剤	接着性能(使用環境)	ホルムアルデヒド放散量	備考
<input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> 床 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> スギ			<input type="checkbox"/> イソ <input type="checkbox"/> レゾ	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input checked="" type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	

■ 構造用面材

■ 構造用合板

部位	樹種	等級(板面の品質)	接着の程度	厚さ	ホルムアルデヒド放散量	備考
耐力壁	<input type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 2級(C-D) <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 特類 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 9mm <input type="checkbox"/> 12mm	<input type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	
2階以上の床 (水平構面)	<input checked="" type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 2級(C-D) <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 特類 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 12mm <input checked="" type="checkbox"/> 24mm <input type="checkbox"/> 28mm	<input checked="" type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	
屋根 (水平構面)	<input checked="" type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 2級(C-D) <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 特類 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/> 24mm	<input checked="" type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	
小屋 (水平構面)	<input type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 2級(C-D)	<input type="checkbox"/> 特類 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/> 24mm	<input type="checkbox"/> F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>	

■ 合板以外の面材

部位	種別	厚さ	サイズ	規格(JIS)	認定番号	メーカー
耐力壁	<input type="checkbox"/> OSB <input checked="" type="checkbox"/> 繊維板(MDF) <input type="checkbox"/> パーティクルボード <input type="checkbox"/> 不燃化粧板 <input checked="" type="checkbox"/> 火山性ガラス質複層板	<input checked="" type="checkbox"/> 9mm <input type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 908×3030 <input checked="" type="checkbox"/> 910×3030		昭和56年建設省告示第1100号 平成9年建設省富住指発第9号	双日建材(モイス) 大建工業(ダイライト)
2階以上の床 (水平構面)	<input type="checkbox"/> OSB	<input type="checkbox"/> 9mm <input type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
屋根 (水平構面)	<input type="checkbox"/> OSB	<input type="checkbox"/> 9mm <input type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
小屋 (水平構面)	<input type="checkbox"/> OSB	<input type="checkbox"/> 9mm <input type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			

6.3.2 木質材料の品質管理方法 (No.41)

□JAS構造用製材・JASに準じた規格のある地域認証材・構造用集成材等

検査時期	<input type="checkbox"/> 製品検査時 <input type="checkbox"/> 現場受入時
検査内容	・指定された品質の製材である事をJASラベル又はJAS印字等で確認 ・耐力上欠点となる節、腐れ、割れ等がないことを確認
検査報告	<input type="checkbox"/> 工事写真 <input type="checkbox"/> 出荷証明書
検査立合	<input type="checkbox"/> 元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員

■無等級材・JASに準じた規格のない地域認証材(公共建築木造工事標準仕様書5.2.2)

検査時期	加工前	
検査内容	材面の欠点	測定数: ■全数 <input type="checkbox"/> 抜き取り(○○%) 方法 : 目視による材の欠点等の確認
	含水率	測定数: ■全数 <input type="checkbox"/> 抜き取り(○○%) 方法 : 高周波水分計、6か所の平均値
	無等級材の基準強度を満たしていることの確認(縦振動ヤング係数等の測定)	測定の有無: ■有 <input type="checkbox"/> 無 測定の対象部材: [柱(すぎ)] 測定方法: ■縦振動法 <input type="checkbox"/> その他[] 測定数: <input type="checkbox"/> 全数 ■抜き取り(10%)
検査報告	■工事写真 ■出荷証明書 ■材料検査報告書	
検査立合	■元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員	

■構造用合板

検査時期	現場受入時
検査内容	・指定された品質の構造用合板であることをJASラベル又はJAS印字で確認 ・著しい反り、ねじれ等、耐力に影響する変形が生じていないことを確認
検査報告	■工事写真 ■出荷証明書 <input type="checkbox"/>

6.4 木材の加工

6.4.1 木材加工の品質・仕様 (No.42)

■ 製材の寸法許容差((一社)中大規模木造プレカット技術協会仕様)

区分		表示寸法と測定寸法の差
木口の短辺及び長辺	75mm未満	+1.0mm -0mm (SD15は-0.5mm)
	75mm以上	+1.5mm -0mm (SD15は-0.5mm)
材長		±1.0mm

■ 構造用集成材の寸法許容差((一社)中大規模木造プレカット技術協会仕様)

区分		表示寸法と測定寸法の差	
短辺	大断面	±1.5mm	
	中断面及び小断面	+1.5mm -0.5mm	
長辺	大断面	800mm未満	±1.5% ただし±2.0mmを超えないこと
		800mm以上	±1.5% ただし±3.0mmを超えないこと
	中断面及び小断面	300mm以下	+1.5mm -0.5mm
		300mm超	±0.5% ただし+5.0mm -3.0mmを超えないこと
はりの曲がり		$e \leq L/1000$ $e \leq 10\text{mm}$	
材長	継手仕口・金物工法	±1.0mm	
	ボルト接合方法	材長の±0.04%	

■ 孔あけ等の加工精度の基準(公共建築木造工事標準仕様書5.4.3(ボルト(引張)除く))

孔あけ加工	精度	
ボルト	せん断	ボルトの径16mm未満:ボルト径+1.0mm
		ボルトの径16mm以上:ボルト径+2.0mm
	引張	ボルトの径20mm未満:ボルト径+3.0mm
		ボルトの径20mm以上:ボルト径+5.0mm
ラグスクリュー(コーチスクリュー・コーチボルト)	胴部:胴部径と同径、長さは胴部長さまで スクリュー部:スクリュー径の50~70%、長さはスクリュー部の長さ	
ドリフトピン・木栓	ドリフトピン・木栓と同径	

■ 表面仕上げの仕様(公共建築木造工事標準仕様書5.4.4)

加工方法	仕上げの程度
機械加工(製材)	<input type="checkbox"/> A種:超自動機械かんな掛け仕上げ
	<input checked="" type="checkbox"/> B種:自動機械かんな掛け仕上げ
	<input type="checkbox"/> C種:サンダー掛け仕上げ
機械加工(集成材)	<input type="checkbox"/> A種:サンダー掛け仕上げ
	<input checked="" type="checkbox"/> B種:自動機械かんな掛け仕上げ

■ 木材保護塗装

項目	内容
塗装箇所	見え掛かりとなる構造材
使用する塗料の メーカー・製品名	●●塗料 ●●●●

不燃処理木材等

不燃材料、準不燃材料又は難燃材料を使用する場合は、特記による。

6.4.2 木材加工の品質管理方法 (No.43)

検査時期	加工後
検査内容	部材寸法、孔あけ加工寸法、表面仕上げ、塗装等の確認
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input type="checkbox"/> 出荷証明書
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員

6.5 接合金物等

6.5.1 使用する主な接合具・接合金物 (No.44)

■釘

種類	規格	備考
<input checked="" type="checkbox"/> N釘	<input checked="" type="checkbox"/> N50 <input checked="" type="checkbox"/> N75 <input checked="" type="checkbox"/> N90 <input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> CN釘	<input type="checkbox"/> CN50 <input type="checkbox"/>	

木質構造用ビス

メーカー名	製品名	備考

■ボルト・ナット・座金

種類	材質	径(mm)	仕様	備考
<input checked="" type="checkbox"/> 六角ボルト	<input checked="" type="checkbox"/> 鉄(めっき)	<input checked="" type="checkbox"/> M12	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク	
	<input type="checkbox"/> ステンレス	<input checked="" type="checkbox"/> M16	<input type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> アンカーボルト	<input checked="" type="checkbox"/> 鉄(めっき)	<input checked="" type="checkbox"/> M12	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク	
	<input type="checkbox"/> ステンレス	<input checked="" type="checkbox"/> M16	<input type="checkbox"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> 座金	<input checked="" type="checkbox"/> 鉄(めっき)	<input checked="" type="checkbox"/> M12用	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク	
	<input type="checkbox"/> ステンレス	<input checked="" type="checkbox"/> M16用	<input type="checkbox"/>	

ドリフトピン・ラグスクリュー(コーチスクリュー・コーチボルト)・木栓

種類	材質	径(mm)	仕様	備考
<input type="checkbox"/> ドリフトピン	<input type="checkbox"/> 鉄			
<input type="checkbox"/> ラグスクリュー	<input type="checkbox"/> 鉄			
<input type="checkbox"/> 木栓	<input type="checkbox"/> 堅木			

■使用する接合金物

種類	仕様	メーカー	品名	備考
<input checked="" type="checkbox"/> ホールダウン金物	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	
<input checked="" type="checkbox"/> 山形プレート	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	
<input checked="" type="checkbox"/> かど金物	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	
<input checked="" type="checkbox"/> 短冊金物	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	
<input checked="" type="checkbox"/> 羽子板ボルト	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	
<input checked="" type="checkbox"/> 筋かいプレート	<input checked="" type="checkbox"/> Zマーク <input type="checkbox"/> 他	○○○○	○○○○	

■その他の金物(鋼製火打・鋼製ブレース・制震金物等)

種類	メーカー	品名	備考
鋼製火打	○○○○	○○○○	

6.5.2 接合金物等の品質管理方法 (No.45)

検査時期	現場受入時
検査内容	指定された製品である事を梱包及び出荷証明書で確認
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input checked="" type="checkbox"/> 出荷証明書 <input type="checkbox"/>

6.6 アンカーボルトの施工

6.6.1 アンカーボルトの施工精度の基準 (No.46)

内容	基準	
土台の孔あけ径	■ M12	13mm (12mm + 1mm) ※
	■ M16	18mm (16mm + 2mm) ※
アンカーボルトの位置 (通り芯からの許容誤差)	□ -3mm から +3mm	
	■ -5mm から +5mm ※ □ 土台の中心から土台幅の1/3以内	
アンカーボルトの高さ (基準高さからの許容誤差)	□ -3mm から +3mm	
	■ -5mm から +5mm ※	
アンカーボルトのコンクリート基礎への定着長さ (フック付き)	■ M12	250mm 以上
	■ M16	■ 360mm 以上 (25kN 以下)
		■ 510mm 以上 (25kN 超 35.5kN 以下)
アンカーボルトの保持及び埋込み工法	□ A種 ※	アンカーボルトの径に適した形鋼等を用いて、アンカーボルトの上下を固定できるように、鉄筋等で補強して堅固に組み立て、あらかじめ設けた支持材に固定して、コンクリートの打ち込みを行う
	■ B種 ※	アンカーボルトを鉄筋等を用いて組み立て、適切な補助材で、型枠の類に固定し、コンクリートの打ち込みを行う

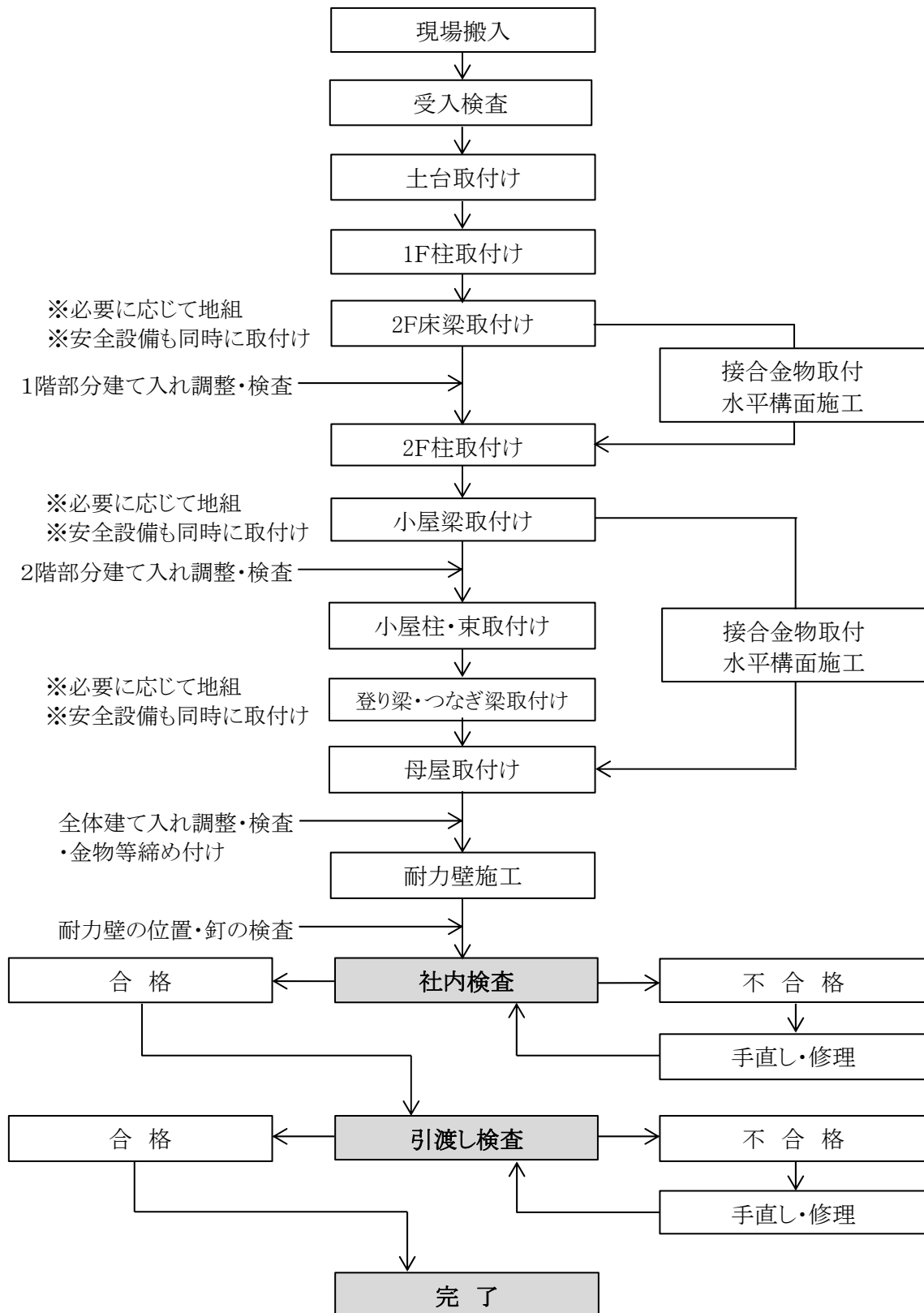
※公共建築木造工事標準仕様書5.4.3、5.5.3

6.6.2 アンカーボルト施工の品質管理方法 (No.47)

検査時期	アンカーボルト設置後 (コンクリート打設前)
検査内容	・土台の孔あけ位置・径 ・アンカーボルトの位置、土台からの高さ、定着長さ ・アンカーボルトの保持状態
検査報告	■ 工事写真 ■ 図面 (検査記録) □
検査立合	■ 元請業者 □ 監理者 □ 監督職員

6.7 建て方の施工計画

6.7.1 建て方フロー (No.48)



6.7.2 建て方計画図 (No.49)

・別紙の建て方計画図による。【第6章 施工計画書添付図書参照】

6.7.3 搬入計画 (No.50)

・搬入計画は、建設工事における製材などの部材の輸送から搬入について計画する。実施に関しては関係法令諸規定に従って、安全かつ丁寧に輸送する。

(1) 使用車両と搬入部材

出発地点	使用車両	搬入部材
●●●●株式会社●●工場	4tロング	製材・集成材等

(2) 発送・搬入

- ・道路状況及び交通規制を調査し、各種許可申請が必要な場合は、これを取得する。
- ・発送時に運搬車両毎の部材リストを作成し、運搬部材の受け入れ管理を行う。
- ・現場での入退場は、当社の指示・誘導による。
- ・現場での入退場に際しては、第三者に対する安全を確保し、必要に応じて誘導員を配置する。
- ・事情により途中で積み替え等を行う場合は、各種法令を遵守し、安全に積み替え作業が行える場所を確保する。

(3) 荷降ろし

- ・作業指揮者を選任し、その指揮の下で荷降ろし作業を実施する。
- ・吊り荷重に応じて、荷降ろしに用いる道具類を確認する。
- ・玉掛け作業は、有資格者によって行う。
- ・部材置場は建て方計画図に示す。

(4) 現場での保管

- ・現場搬入された部材は地面に直接置かず、平坦な場所に台木等を敷き、その上に水平に保管する。
- ・保管する木材の樹種や長さにより、台木等の跡が付く場合があることから、台木等の本数、間隔、緩衝材の要否は専門業者等と協議の上、定める。
- ・金物類も地面には直接置かず、平坦な場所にパレット等を置き、その上に保管し、養生シート等で覆う。
- ・木材保存剤は水に溶脱し易いため、現場搬入以後の薬剤の溶脱を防止するための養生方法は専門業者等と協議し、十分に検討する。
- ・地域認証材や森林認証材等、複数の規格の異なる認証材等を取り扱う場合には、これらが煩雑にならないよう視覚的に識別しやすくすることや、エリアを区分して管理する等、仕分け管理に十分注意する。

6.7.4 使用重機 (No.51)

項目	内容
使用重機	25tラフタークレーン
設置場所	建て方計画図参照
使用期間	令和●年●月●日～●月●日
作業時間	AM8:00～PM5:00

6.7.5 建て方 (No.52)

作業項目	作業内容・留意点
①搬入仕分け	<ul style="list-style-type: none"> ・部材の受け入れは工場からの明細と照合する。
②地組 ※トラス等の組立て 精度を要する架構	<ul style="list-style-type: none"> ・地組ヤードは砂利敷き等とし、作業員の足元の汚れが地組材に付着することを防止する。 ・架台の設置は水平になるように設置するまた、地組部材の組み立てに適した形状とする。 ・部材をセットする。 ・接合金物を取付ける。 ・地組部材の組み立て精度を計測し、記録をとる。 ・ボルト類の本締めを行う。 ・地組部材が運搬移動に耐えられるように補強する。 ・精度を再計測し、報告書に記載する。
③建て方	<ul style="list-style-type: none"> ・土台にアンカーボルトの位置に合わせた孔あけを行い、土台を取り付ける。 ・ねこ土台がある場合は、メーカー施工要領書等に従いアンカーボルト、柱の直下、土台継手の下に確実に入れる。 ・土台設置後建て方まで雨天が予想される場合は、柱のほぞ穴等にテープ養生を行い雨水が穴に溜まらないようにする。 ・柱をベースプレートに立てる場合、ベースプレートのボルトを本締めした上で柱を立てる。 ・1階床合板を先行施工する場合は、天候に関わらず床面の養生を行う。 ・建て方順序は建て方計画図の記載順序に従う。 ・柱は当日梁を架設する範囲まで立てる(柱だけで立っている状態で作業を終了しない)。 ・建前カケヤ等により柱を土台ほぞ穴に確実に固定する。 ・梁は外周部の足場を利用して、外周部より架設する。 ・1階部分の建て入れ調整及び検査を行う。 ・仮筋かいを設置する。 ・羽子板ボルトや引き寄せ金物等の締め付けを行う。 ・2階床合板は2階柱を立てる前に設置する。 ・2階柱・梁の施工順序は1階と同様とする。 ・屋根架構を設置する。 ・基準風速や強風の実況に配慮して、垂木や小屋束などに接合金物を設置する。 ・当日屋根架構を設置する範囲に野地板を張る。 ・棟換気となる場合は、棟部で野地板が換気を妨げないように概ね60mm程度空けて留め付ける。 ・野地板を張る部分は当日中に防水シート張りを行う。防水シート張りが施工できない場合は養生シート等で覆う。 ・屋根架構まで終了した部分は建て入れチェックを行い、建て入れ修正を行う。
④建て入れ調整	<ul style="list-style-type: none"> ・建て方途中でも建て入れ確認を行い、都度修正し、建て方を進める。 ・建て入れは下げ降りを垂らし(又は建て入れ計測器具を利用)、その垂直度を建て方精度基準に基づき確認し、建て入れを調整する。 ・建て入れ調整後は、戻り止めとして必ず仮筋かいを設ける。
⑤ボルト等の締め付け	<ul style="list-style-type: none"> ・建て入れ調整後、本筋かい・構造用面材の本留付け及び柱頭・柱脚金物のボルトの締め付けを行う。スプリングワッシャーがつぶれるまで締め込む。 ・ドリフトピンは叩き込みによりピン穴に挿入する。

6.7.6 建て入れ測定 (No.53)

- ・建て入れの測定を行い、建て方精度基準に基づき調整を行う。許容範囲に入らない場合は監理者と協議し、適切な処置を行う。

6.7.7 社内検査 (No.54)

(1) 本締め確認

- ・建て入れ直しが完了した時点で全てのアンカーボルト及びビスが本締めされていることの確認を行う。
- ・ダブルナットをかけ、アンカーボルトの先端ねじがナットの外に3山以上出ていることを確認する。
- ・ボルト本締めの検査方法は、建て入れ調整完了後、目視によりボルトの出を確認する。

(2) 部材の汚れ・傷・割れの確認

- ・建て方中についての汚れ・傷について確認を行い、以下の方法にて処置を行う。
- ・ただし補修により色ムラが考えられる場合、監理者と協議の上補修作業を行う。

状況	補修方法
汚れ	布拭き
	漂白剤・薬剤の塗布
	ベルトサンダーによる表面研磨処理
傷	エポキシ系パテ埋め処理
	ベルトサンダーによる表面研磨処理

6.7.8 安全作業基準 (No.55)

(1) 墜落・落下防止設備

- ・高さが2m以上の場所で、墜落の恐れのある作業を行う場合は、足場を設け、作業床を確保する。
- ・高さが2m以上の作業床の端部、開口部等で墜落の恐れのある所には、囲い、手摺等を設ける。
- ・高さが1.5m以上の場所の作業には、昇降設備を設ける。
- ・安全带等を安全に取り付けるための設備等を設ける。(親綱、親綱支柱)
- ・脚立は最上段での作業禁止など、正しい使用方法を厳守する。

(2) クレーン作業

- ・荷の量、積卸し位置、クレーンの設置位置、操作の方法を確認する。
- ・鉄板等敷設の措置、アウトリガーの張り出しを確認する。
- ・強風時における荷崩れや転倒防止のため、天候には十分留意する。
- ・作業開始前に玉掛用ワイヤーロープ、布帯等を点検し、不具合のあるものは使用しない。
- ・木材の吊上げは、布帯等を用いるとともに、吊上げ位置には、必要に応じて保護治具を用いて傷等がつかないように吊上げ作業を行う。
- ・木材を吊上げる時は、吊り荷重を考慮する。また、必ず2点支持以上にて吊上げる。その際の吊り角度は60度以内とする。また、介錯ロープを設置する。
- ・クレーンで吊上げる場合は、フレームが地上から離れた時に巻上げを一時停止し、吊り荷の状態、風の影響等を確認後、吊上げを開始する。
- ・木材は、重量が軽い上に、梁等は表面積が大きく風の影響を受けやすいため、風が強い場合には吊上げ物のバランスについて特に安全を確認するとともに、クレーンの足元の設置状況や設置圧も十分に確認する。
- ・フレーム吊上げの際、無理な変形を生じることが予想される場合には、補強を施した上で吊上げ作業を行う。

6.7.9 養生計画 (No.56)

(1) 発送・搬入時

- ・運搬中の変形・破損を生じないように注意して積み込む。
- ・運搬方法、運搬距離、現場での保管期間等を考慮し、荷崩れや汚れ等に対する適切な養生計画を専門業者等と協議し、バンド等による梱包やシート等による養生等の対応を行う。
- ・荷降ろしに際しては、部材に汚れや損傷を与えないような措置を講ずる。

(2) 建て方前現場保管時

< 汚れ・雨対策 >

- ・雨、雪、粉塵等に晒されないように養生シート等で覆う。
- ・水の跳ね返りによる汚れ防止のため、シートを敷く等の対応も必要である。
- ・特に地面に近い部材は高含水率になり反りなど狂いを生じる可能性があるため、通風を確保するように保管する。
- ・工場出荷時の梱包は使用するまで極力外さない(ただし、多湿期などにおいてカビ等の発生の恐れがある場合には適切な通風の措置を施す)。
- ・木材はセメント等のアルカリに触れると変色するほか、鉄筋や鉄骨の錆、油分などが木の表面に付くと落ちない汚れとなるため、屋外に保管する際は特に注意が必要である。

< 変形・損傷が生じた場合の対応 >

- ・保管時に部材に変形や損傷が生じた場合には、専門業者等と協議の上、修正可能なものは建前方に修正し、修正不可能なものは直ちに交換する。

(3) 建て方時

< 損傷・汚れ・雨対策 >

- ・工事中に木材に傷が付かないように養生カバー等を適切な方法を用いて保護する。
- ・建て方中の仮置き部材には適当な台木等を使用し、直接地面に置かないようにし、養生シート等を掛ける。
- ・梁等の建て方に仮設受材(サポート)を使用する場合は、仮設受材のめり込みに注意し、仮設受材の間隔やクッション材を敷く等の対応を専門業者等と協議の上、定めることが必要である。
- ・楊重の際に大断面や長大部材の場合は、布帯等を使用しても自重によるめり込み、角の欠け等が生じやすいため、角当て材等の養生を検討することが必要である。
- ・木材に撥水性塗料の塗布や、シート巻等により保護する他、建物全体をシート等で覆うことも検討する。

< 安全対策 >

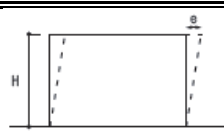
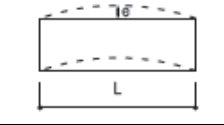
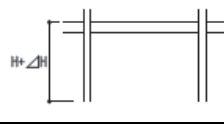
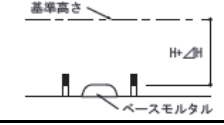
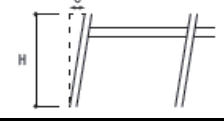
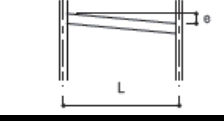
- ・建て方の進捗に合わせて転倒防止として布帯等を介してワイヤーロープ等をたすきに張る。
ワイヤーロープは建て入れ直しと兼用とする。
- ・建て入れ直し完了後は、戻り止めとして、梁柱間に仮筋かいを設ける。
- ・作業終了時や天候等により建て方を一時中断する場合は、構造物の安全を確認し、必要に応じて仮筋かいを設ける。

(4) 建て方後(屋根下地材施工前)

- ・屋根葺材の施工完了前段階にて、必要に応じて床面や屋根面の合板をシートで覆い、雨がかりを防ぐ。
- ・木材が仕上がり面となる場合は、日焼けや色むらを防止するため、養生シートで全面覆う等の養生の検討が必要である。
- ・木材の出隅部分は損傷しやすいため、工事中の損傷及び汚染防止対策として、クッション材で被う等の対応が必要である。

6.8 建て方の施工精度

6.8.1 建て方の精度基準 (No.57)

内容	図	許容値
■建物の倒れ		■ $e \leq H/2500 + 10\text{mm}$ かつ $e \leq 50\text{mm}$ ※1
		□ $e \leq H/4000 + 7\text{mm}$ かつ $e \leq 30\text{mm}$ ※2
		□ $e \leq H/1000$ ※3
□建物の湾曲		□ $e \leq L/2500$ かつ $e \leq 25\text{mm}$ ※1
		□ $e \leq L/4000$ かつ $e \leq 20\text{mm}$ ※2
□階高		□ $-8\text{mm} \leq \Delta H \leq +8\text{mm}$ ※1
		□ $-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$ ※2
□柱据付面の高さ		□ $-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$ ※1
		□ $-3\text{mm} \leq \Delta H \leq +3\text{mm}$ ※2
■柱の倒れ		□ $e \leq H/700$ かつ $e \leq 15\text{mm}$ ※1
		□ $e \leq H/1000$ かつ $e \leq 10\text{mm}$ ※2
		■ $e \leq H/1000$ ※3
■梁の水平度		□ $e \leq L/700 + 5\text{mm}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$ ※1
		□ $e \leq L/1000 + 3\text{mm}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$ ※2
		■ $e \leq L/1000$ ※3

※1 日集協「中大規模木造建築の担い手講習テキスト」(令和2年10月)の「限界許容差」

※2 同テキストの「管理許容差」 ※3 公共建築木造工事標準仕様書

6.8.2 建て方の品質管理方法 (No.58)

検査時期	建て方後
検査内容	検査項目が許容値以内であることの確認
計測方法	下げ降り、垂直定規
計測範囲	各階X●●●●通りとY●●●●通りの交点
検査報告	■工事写真 ■図面(検査記録) □
検査立合	■元請業者 □監理者 □監督職員

6.9 接合部

6.9.1 接合部の施工管理の内容 (No.59)

接合方法	管理項目	管理内容
■釘接合	種類、長さ、配置、数	指定された釘の種類、長さ、配置、数
	めり込み深さ	面材の厚みの10%未満かつ1mm以下
	端縁距離(へりあき)	面材へのへりあき:10mm以上かつ面材厚さ×0.8以上 軸材へのへりあき:20mm以上かつ面材厚さ×0.8以上
	その他施工状態	打ち損じ、増し打ち処理、がたつき、主材・面材の割れ、金物との干渉等
□木質構造用ねじ接合	種類、長さ、配置、数	指定された木質構造用ねじの種類、長さ、配置、数
	木材への先孔	径・深さ等はメーカー指定の方法への適合
	その他施工状態	がたつき、めりこみ、打ち損じ、材割れ等
■ボルト接合	種類、長さ、配置、数	指定されたボルトの種類、長さ、配置、数
	その他施工状態	座金のめりこみ、ねじ山の出(2~3山)、がたつき、緩み止め・戻り止め・木痩せ対応(スプリングワッシャ等)、埋木(防火被覆)
□ドリフトピン接合	種類、長さ、配置、数	指定されたドリフトピンの種類、長さ、配置、数
	施工状態	がたつき、材割れ、抜け対策、埋木等
□ラグスクリュー(コーチスクリュー・コーチボルト)	種類、長さ、配置、数	指定されたラグスクリューの種類、長さ、配置、数
	木材への先孔	径・深さ等はメーカー指定の方法への適合
	その他施工状態	がたつき、めりこみ、打ち損じ、材割れ、埋木等

6.9.2 接合部の品質管理方法 (No.60)

検査時期	<input type="checkbox"/> 施工時 <input checked="" type="checkbox"/> 施工完了時
検査内容	上記の通り
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input checked="" type="checkbox"/> 図面(検査記録) <input type="checkbox"/>
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員

6.10 耐力壁

6.10.1 耐力壁の仕様 (No.61)

■面材耐力壁

項目	内容		備考	
■大壁仕様	使用する面材	<input type="checkbox"/> 構造用合板 ■繊維板(MDF)		
	厚さ	<input type="checkbox"/> 12mm ■9mm		
	留付け釘	■N50 ■NZ50	■N50 ■NZ50	
	壁倍率	■2.5倍 <input type="checkbox"/> 5.0倍	<input type="checkbox"/> 3.7倍 ■4.0倍	
	釘打ちの間隔	■@150 <input type="checkbox"/>	■@75(外周) ■@150(中通)	
	使用する面材	<input type="checkbox"/> 構造用合板 ■火山性ガラス質複層板		大建工業(ダイライト)
	厚さ	<input type="checkbox"/> 12mm ■9mm		
	留付け釘	■N50 ■SF50	<input type="checkbox"/> CN50 <input type="checkbox"/>	
□真壁仕様	壁倍率	■2.5倍 <input type="checkbox"/> 5.0倍	<input type="checkbox"/> 3.7倍 <input type="checkbox"/>	
	釘打ちの間隔	■@100(外周) ■@200(中通)	<input type="checkbox"/> @75 <input type="checkbox"/>	
	使用する面材	<input type="checkbox"/> 構造用合板 <input type="checkbox"/>		
	厚さ	<input type="checkbox"/> 12mm <input type="checkbox"/> 9mm		
	受材の大きさ	○×○ (30×40以上)		
	留付け釘	<input type="checkbox"/> N50 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> CN50 <input type="checkbox"/>	
	壁倍率	<input type="checkbox"/> 2.5倍 <input type="checkbox"/> 5.0倍	<input type="checkbox"/> 3.3倍 <input type="checkbox"/>	
釘打ちの間隔	<input type="checkbox"/> @150 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> @75 <input type="checkbox"/>		

□筋かい耐力壁

項目	内容	備考
材料区分	<input type="checkbox"/> JAS構造用製材 <input type="checkbox"/> 無等級材	
樹種	<input type="checkbox"/> すぎ <input type="checkbox"/>	
寸法	○×○	
本数	<input type="checkbox"/> 片側 <input type="checkbox"/> たすき掛け	
倍率	○倍	
含水率	<input type="checkbox"/> 20%以下	
材面の品質	<input type="checkbox"/> 割れ等の欠点がないこと、丸みのないこと	

□鋼製ブレース耐力壁

項目	内容	備考
メーカー	○○○○	
製品名	○○○○	
倍率	○倍	

6.10.2 耐力壁の施工管理の内容 (No.62)

■面材耐力壁

管理項目	管理内容
耐力壁の配置	指定された配置
耐力壁の仕様	指定された面材、釘の種類、長さ、間隔
端縁距離(へりあき)	10mm以上かつ面材厚さ×0.8以上
面材への孔あけ	(一社)中大規模木造プレカット技術協会 木造軸組接合部標準図(4)貫通孔のルールに基づく
その他施工状態	受材、間柱、中棧の施工状態、貫通孔の施工状態、釘のめりこみ深さ

□筋かい耐力壁

管理項目	管理内容
耐力壁の配置	指定された配置
耐力壁の仕様	指定された筋かい
筋かい金物	指定の金物、留め付け方法
隙間	筋かいと柱・土台・梁との隙間は2mm以下
その他施工状態	筋かいと間柱との取り合い処置、筋かいと床合板との取り合い処置

□鋼製ブレース耐力壁

管理項目	管理内容
耐力壁の配置	メーカー指定の施工方法による

6.10.3 耐力壁の品質管理方法 (No.63)

検査時期	<input type="checkbox"/> 施工時 <input checked="" type="checkbox"/> 施工完了時
検査内容	上記の通り
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input checked="" type="checkbox"/> 図面(検査記録) <input type="checkbox"/>
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員

6.11 水平構面

6.11.1 水平構面の仕様 (No.64)

項目		内容	
■2階以上の床	■構造用合板	床倍率	4.0倍
		面材	構造用合板24mm
		張り方	根太なし直張り四周くぎ打ち
		釘	N75@150
	□火打	材料	□木製 □鋼製
	□ブレース	材料	□鋼製
■屋根面	□構造用合板	床倍率	0.7倍
		勾配	3寸勾配
		面材	構造用合板12mm
		張り方	垂木@455転ばし
		釘	N50@150
	■火打	材料	□木製 ■鋼製

6.11.2 水平構面の施工管理の内容 (No.65)

■構造用合板

管理項目	管理内容
水平構面の仕様	指定された面材、張り方、釘の種類、長さ、間隔
端縁距離(へりあき)	10mm以上かつ面材厚さ×0.8以上
面材への孔あけ	(一社)中大規模木造プレカット技術協会 木造軸組接合部標準図(4)貫通孔のルールに基づく
その他施工状態	甲乙梁の施工状態、貫通孔の施工状態、釘のめりこみ深さ、耐力壁との取り合い

■鋼製火打・鋼製ブレース

管理項目	管理内容
施工方法	メーカー指定の施工方法による

6.11.3 水平構面の品質管理方法 (No.66)

検査時期	□施工時 ■施工完了時
検査内容	上記の通り
検査報告	■工事写真 ■図面(検査記録) □
検査立合	■元請業者 □監理者 □監督職員

6.12 防腐・防蟻

6.12.1 防腐・防蟻の仕様 (No.67)

■高耐久木材・保存処理材

使用部位	高耐久材	保存処理材		備考
<input checked="" type="checkbox"/> 土台	<input checked="" type="checkbox"/> ヒノキ	<input type="checkbox"/> JAS保存処理材	<input type="checkbox"/> K4 <input type="checkbox"/> K3 <input type="checkbox"/> K2	
<input type="checkbox"/> 外壁の軸組	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> AQ認証保存処理材	<input type="checkbox"/> 1種 <input type="checkbox"/> 2種 <input type="checkbox"/> 3種	
<input type="checkbox"/> 水廻り		<input type="checkbox"/> ホウ酸(加圧注入)		
<input type="checkbox"/> その他:				

■薬剤の現場塗布

塗布部位	薬剤の認定	メーカー・製品名	処理方法	処理量	備考
<input type="checkbox"/> 土台	<input checked="" type="checkbox"/> 日本しろあり対策協会 <input checked="" type="checkbox"/> 日本木材保存協会	〇〇〇〇 〇〇〇〇	<input checked="" type="checkbox"/> 塗布	<input checked="" type="checkbox"/> 2回塗り	
<input checked="" type="checkbox"/> 外壁の軸組GL+1m (合板・筋かい含む)			<input type="checkbox"/> 吹付 <input type="checkbox"/> 浸漬		
<input type="checkbox"/> 水廻り					
<input type="checkbox"/> その他:					

6.12.2 防腐・防蟻の品質管理方法 (No.68)

■高耐久木材・保存処理材

検査時期	<input type="checkbox"/> 製品検査時 <input checked="" type="checkbox"/> 現場受入時	
検査内容	<input checked="" type="checkbox"/> 高耐久木材	指定された樹種である事を出荷証明書又はJASラベル又はJAS印字で確認
	<input type="checkbox"/> JAS保存処理材	指定された品質の保存処理材である事をJASラベル又はJAS印字、試験成績書等の品質記録により確認
	<input type="checkbox"/> AQ認証保存処理材	指定された品質の保存処理材である事を認定書及び品質証明書、試験成績書等の品質記録により確認
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input checked="" type="checkbox"/> 出荷証明書 <input type="checkbox"/>	
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員	

■薬剤の現場塗布

検査時期	施工後
検査内容	塗布部位、薬剤の種類、処理方法、処理量
検査報告	<input checked="" type="checkbox"/> 工事写真 <input type="checkbox"/>
検査立合	<input checked="" type="checkbox"/> 元請業者 <input type="checkbox"/> 監理者 <input type="checkbox"/> 監督職員

7 安全・衛生管理

7.1 一般共通事項 (No.69)

- ・工事に先立ち、現場の運営管理に必要な、現場代理人を選任する。
- ・あらかじめ定められた工事計画書に基づいて、工事管理を行う。
- ・労働安全衛生法、その他の関係法令等に従って、工事現場の安全・衛生に関する管理を行う。
- ・工事に必要な、官公署その他への手続きは、速やかに行う。

7.2 現場の管理体制 (No.70)

- ・現場代理人は、工事に当たり、現場組織体制を定め、監理者の承諾を受ける。
- ・現場代理人は、工事関係者と協力し、工事全体の円滑な進捗を図る。
- ・工事に先立ち、当該工事に係る立地条件等を十分把握した上で、工事の内容に応じた適切な人材(監理技術者、主任技術者)を配置し、指揮命令系統の明確な現場体制を組むとともに、工事関係者に工事の内容や使用機器材の特徴等を周知させる。
- ・工事の一部を協力会社に請負させる場合は、必要に応じて協力会社から、施工要領書、組織作業手順書等の提出を求める。
- ・作業主任者を選任すべき作業については、労働安全衛生法に基づいて作業主任者を選任する。

7.3 工事現場の安全・衛生管理 (No.71)

- ・工事に先立ち、安全管理に係る書類を作成し、これに基づいて工事全体及び工程毎の安全・衛生管理を行う。
- ・関連業者を含めた安全衛生協議組織を定めるとともに、定期的に会議を開催し、混在作業の調整、使用機器等の配置・移動等に関する協議を行い、安全作業を図る。
- ・工事に先立ち、緊急連絡体制、防火組織等の体制を整え、突発事故等に備える。
- ・必要に応じて、作業員の休憩所、更衣室、便所、洗面所等の設備を設け、作業員の衛生保持に努める。
- ・工事現場においては、整理・整頓を行い、特に落下物による事故及び墜落等の事故防止に努める。
- ・工事に当たって資格が必要な作業は、その有資格者に行わせる。
- ・作業員に対し、現場への新規入場の際に、現場における安全衛生上の教育を行う。
- ・粉塵による健康障害防止のため、作業員には、防塵マスクを着用、作業着等の清潔保持の励行に努めさせる。
- ・やむを得ず工事現場外の道路上(上空を含む)において、作業し、車両・機械等を置き又は作動させる場合は、通行者等が安全に通行できるよう措置し、誘導員を配置し、公衆災害の防止を図る。
- ・工事計画書・作業手順に基づいて、作業方法・作業内容・作業量等を作業員に周知させる。

7.4 火災防止 (No.72)

- ・火気を使用する場合には、その場所に不燃材料の囲いを設ける等引火・延焼防止する措置を講ずるほか、次の各号の掲げる措置を講ずる。
 - ①火気の使用は、工事の目的に直接必要な最小限度にとどめる。
 - ②火のつき易いものの近くで火気の使用はしない。
 - ③火気の使用場所のそばには消火器・簡易消火用具等の適切な消火用水を準備する。
 - ④作業員用のための暖房用等、直接工事以外の目的に使用する場合には、あらかじめ、その使用場所を指定する。

7.5 巡視 (No.73)

- ・現場代理人による木構造工事現場内及びその周辺の安全巡視を行い労働災害・公衆災害の防止に努める。
- ・工事中に、危険が無いかを点検する。
- ・飛来落下物に対する養生設備の状況を点検する。

7.6 事故発生時の措置 (No.74)

- ・工事中に事故が発生し、又は公衆に危害を及ぼした場合には、直ちに応急処置及び関係機関への連絡を行うとともに類似の事故が再発しないよう対策を講じる。

第6章

施工計画書添付図書

第6章 施工計画書添付図書

本章では、前述の「総合施工計画書」及び「木工事（構造）施工計画書」に関連する添付図書の作成例を紹介します。

これらの作成例は図書上に作成概要や記載すべき事項等を追記しており、実物件にて図書を整備する際の参考にして下さい。

なお、本作成例はあくまで一例を示したものであり、全ての工事に共通で使用できるものではありません。建物規模や工事内容等に応じて、整備する図書、記載すべき事項の追加・省略・代替等の検討が必要です。

施工計画書添付図書

※本図書は「JBN+PWAモデル」を対象とし、
図書中に記載すべき事項や留意事項等を追記した作成例を示します。

目 次

着工前準備段階

総合施工計画書に含まれる図書

No.6 工程表

No.24 総合仮設計画図

No.25 足場計画図

総合施工計画書関連図書

No.26 プレカット図

No.27 木構造工事見積書

No.28 施工図(基礎関連図書)

施工計画段階

木工事(構造)施工計画書に含まれる図書

No.37 材料の合法性確認書類(出荷証明書)

No.38 施工フロー

No.49 建て方計画図

No.6 工程表

工事全体のスケジュールや各作業に必要な工程をまとめつつ、それぞれの作業で必要となる期間や、具体的な手順などの情報を網羅した工程表を作成する。

本工程表を全ての工事関係者が共有することにより、役割分担、作業手順、各工程間の関連性が明確になり、納期厳守の徹底、効率的な工事の進行による、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

木材調達や各種施工管理図書の作成等、準備期間も含めて作成することが重要である。

①工程表

②工程表(工程相関明示)

【No.6】①工程表

JBN+PWA 木造事務所モデル 新築工事工程表

→ : 木構造工事の工程

- 作成標準
 ① 全体のスケジュールや各作業に必要な工程をまとめたもの
 ② 作業単体の予定
 ③ 工程の節目となる期日を作成する。
- 記載事項
 ① 実施する全ての工事科目
 ② 検査箇所の予定
 ③ 工程の節目となる期日

	2024年 1月	2024年 2月	2024年 3月	2024年 4月	2024年 5月	2024年 6月	2024年 7月	2024年 8月	2024年 9月	備考
仮設工事										
基礎工事										
プレキャスト										
木工事										
外装工事										
屋根工事										
板金工事										
金庫設置工事										
塗装工事										
内装工事										
電気配線工事										
給排水設備工事										
空調設備工事										
ガス工事										
消防設備工事										
防水工事										
設備機器工事										
雑工事										
外構工事										
設備工事										
検査関係										
予定										
実績										

作成日:2023/10/18

全体工程の所となる本構築工事について、工事発注から建て方完了までの工程を併せて示す

発注 本材在庫状況確認・照会
 プレキャスト製作
 基礎工事
 プレキャスト
 木工事
 外装工事

建て方及び屋根野地完了後、内外装及び設備工事に着手

基礎断熱・外断熱RAL塗装
 内装断熱
 天井ボード・石膏ボード
 外壁下地透気阻縁軒天工外壁処理

プレキャスト製作前に在庫状況、市場に応じた段取り等の状況を確認

①実施する全ての工事科目

②検査箇所の予定

③工程の節目となる期日

竣工日
 上棟日
 軸組完了日
 内装工事着手日
 建物完成日
 竣工引渡日

【No.6】②工程表(工程相関明示)

JBN+PWA 木造事務所モデル 新築工事工程表

- : 木構造工事の工程
- : 工事科目間のネットワーク
- : 工程の進捗と検査の関係

- 記載事項
 - 実施する全ての工事科目
 - 検査関係の予定
 - 工程の節目となる期日
 - 工事科目間のネットワーク
 - 工程の進捗と検査との関係

作成日:2023/10/18

	2024年 1月	2024年 2月	2024年 3月	2024年 4月	2024年 5月	2024年 6月	2024年 7月	2024年 8月	2024年 9月	備考
仮設工事										
基礎工事										
プレキャスト										
木工事										
外装工事										
屋根工事										
板金工事										
金庫設置工事										
塗装工事										
内装工事										
電気配線工事										
給排水設備工事										
空調設備工事										
ガス工事										
消防設備工事										
防水工事										
設備機器工事										
雑工事										
外構工事										
緑化工事										
検査関係										
予定										
実績										

全体工程の予定となる木構造工事について、工事発生から建て方完了までの工程を併せ示す。

プレキャスト作成前に在庫状況、市場に応じた段取り等の状況を確認

①実施する全ての工事科目

②検査関係の予定

③工程の節目となる期日

④工事科目間のネットワーク

⑤工程の進捗と検査との関係

建て方及び屋根野地完了後、内外装及び設備工事に着手

基礎・躯体・外装・内装・設備・電気・給排水・空調・ガス・消防・防水・設備機器・雑・外構・緑化

竣工日 上棟日 軸組完了日 内装工事着手日 建物完成日 竣工引渡日

No.24 総合仮設計画図

当該工事の規模・形状・敷地及び工程等の諸条件を踏まえ、現場に必要な仮設備、建物、各種スペース、楊重計画等の全体的な配置等を総合的に計画する。

本計画図を全ての工事関係者が共有することにより、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

No.25 足場計画図

足場計画は足場上での作業性確保が最重要であるが、敷地の状況、建物の構造・規模、建て方工事を始めとする工事内容等の諸条件を踏まえた計画図を作成する。

本計画図を関連する工事関係者が共有することにより、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

AK-01 足場組立図

AK-02 足場計画図(建て方前)

AK-03 足場計画図(建て方後)

AK-04 足場矩計図

【No. 25】足場計画図

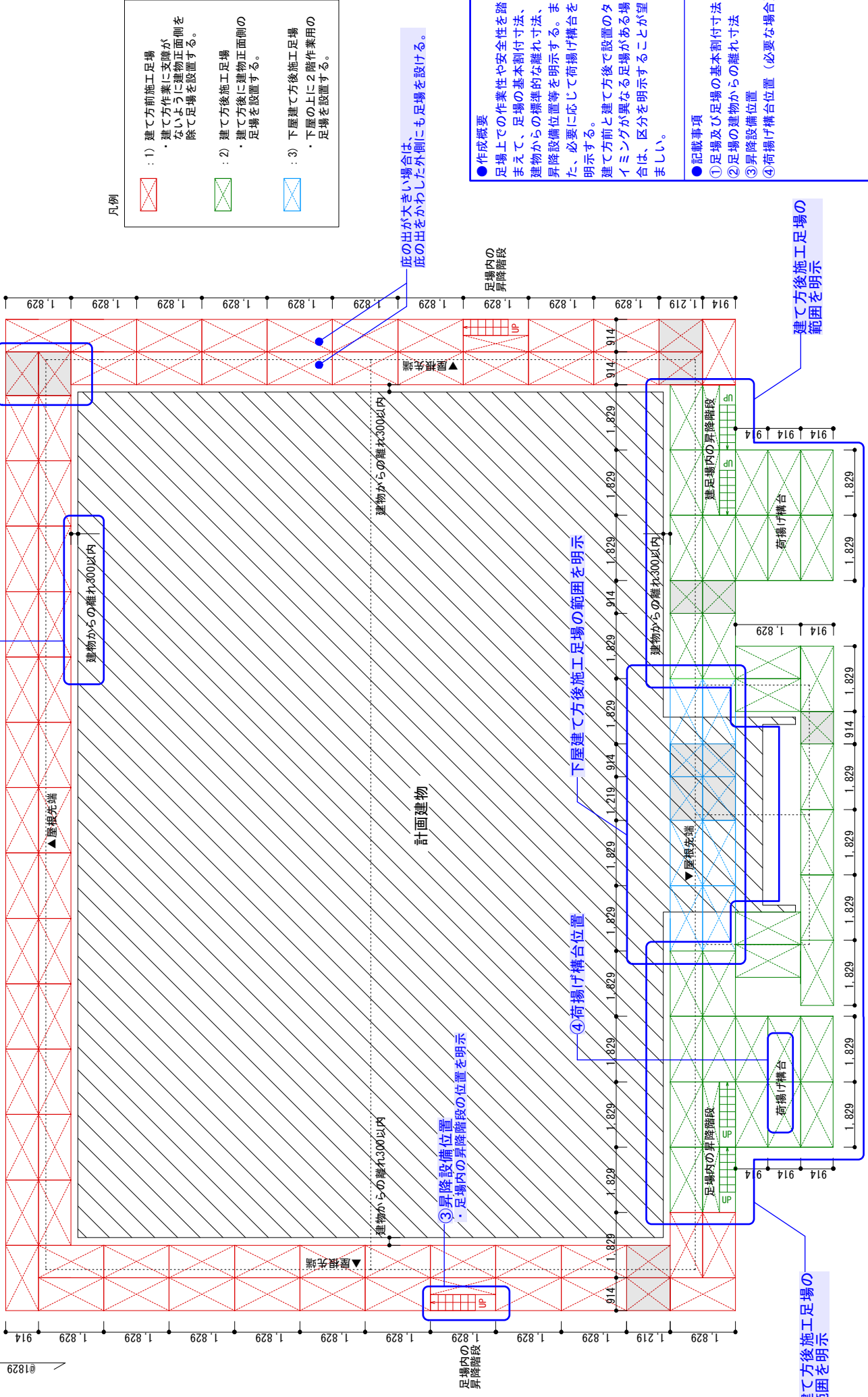
足場組立図

①足場及び足場の基本割付寸法

・足場の割付開始位置と割付寸法を明示
(本計画ではインテンササイズ (914×1829) の枠組足場にて割付け)

②足場の建物からの離れ寸法

調整材使用箇所
標準サイズの足場(本計画では@1,829)で
割り付けられない部分には調整材を用いる。



凡例

- (1) 建て方前施工足場
 - ・建て方作業に支障がないように建物正面側に除足場を設置する。
- (2) 建て方後施工足場
 - ・建て方後に建物正面側に足場を設置する。
- (3) 下屋建て方後施工足場
 - ・下屋の上に2階作業用の足場を設置する。

●作成概要
足場上での作業性や安全性を踏まえて、足場の基本的な離れ寸法、建物からの標準的な離れ寸法、昇降設備位置等を明示する。また、必要に応じて荷揚げ構台を明示する。
建て方前と建て方後で設置のタイミングが異なる足場がある場合は、区分を明示することが望ましい。

●記載事項
①足場及び足場の基本割付寸法
②足場の建物からの離れ寸法
③昇降設備位置
④荷揚げ構台位置 (必要な場合)

凡例	承認	承認	変更履歴	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル	DATA 2023.10	SIGN	SCALE A3 S=1:100	NO AK-01
				NAME OF PLAN 足場組立図				JBN+PWA

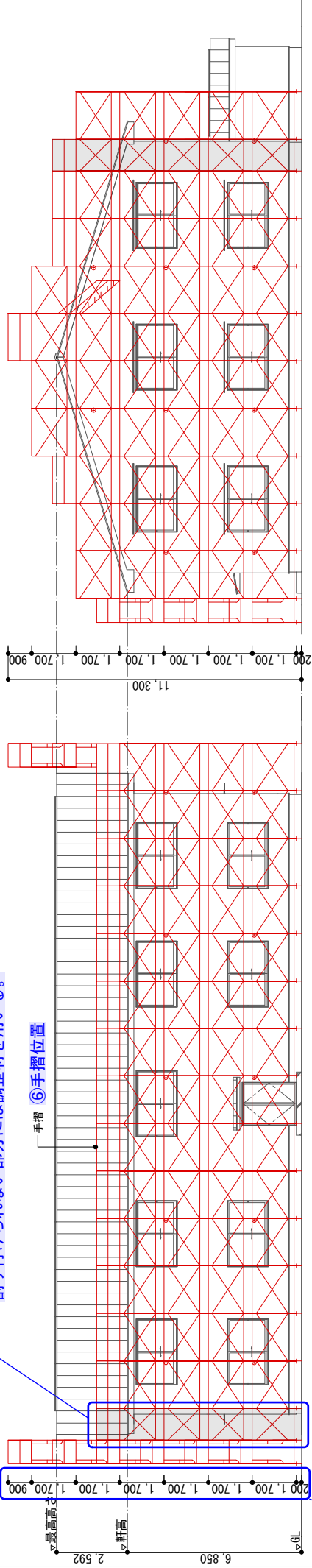
足場計画図 (建て方前)

- 作成概要
 - 足場上での作業性や安全性を踏まえて、建て方前に必要となる足場の基本平面割付寸法・高さ寸法、昇降設備・頭つなぎ・柵がらみ・壁つなぎの位置、手摺等を明示する。
- 記載事項
 - ①足場及び足場の基本割付寸法
 - ②昇降設備位置
 - ③頭つなぎ位置
 - ④柵がらみ位置
 - ⑤壁つなぎ位置
 - ⑥手摺位置

凡例

①: 建て方前施工足場

調整材使用箇所
標準サイズの足場(本計画では@1,829)で
割り付けられない部分には調整材を用いる。



①足場及び足場の基本割付寸法
・足場の割付開始位置と割付寸法を明示
(本計画ではインチサイズ(914×1829)の枠組足場にて割付け)

北立面図(外側)

壁つなぎ ⑤壁つなぎ位置

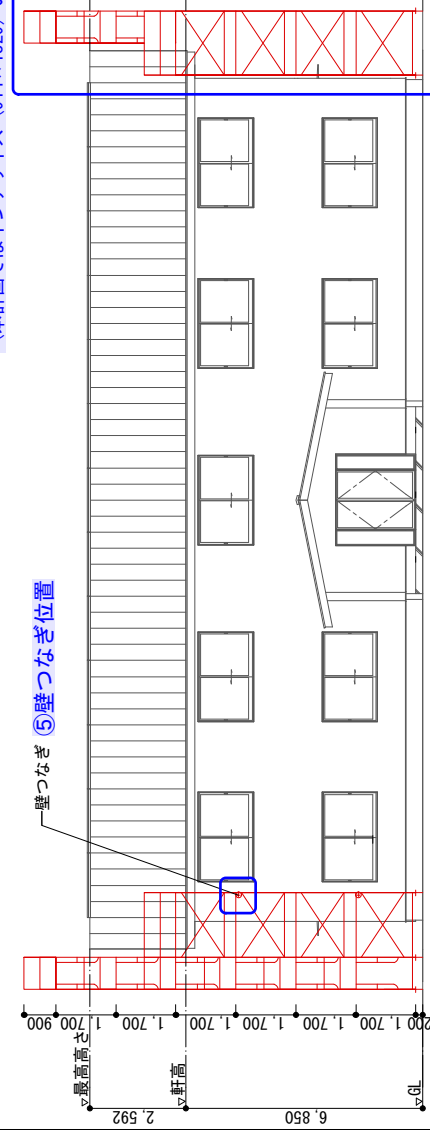
西立面図(外側)

②昇降設備位置
・足場内の昇降階段の位置を明示

③頭つなぎ
頭つなぎ

柵がらみ ④柵がらみ位置

底の出が大きい場合は、底の出をかわした外側にも足場を設ける。



南立面図(外側)

東立面図(外側)

凡例	承認	承認	変更履歴	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル	DATA 2023.10	STION	SCALE A3 S-1:150	NO. AK-02
例	承認	承認		NAME OF PLAN 足場計画図(建て方前)				JBN+PWA

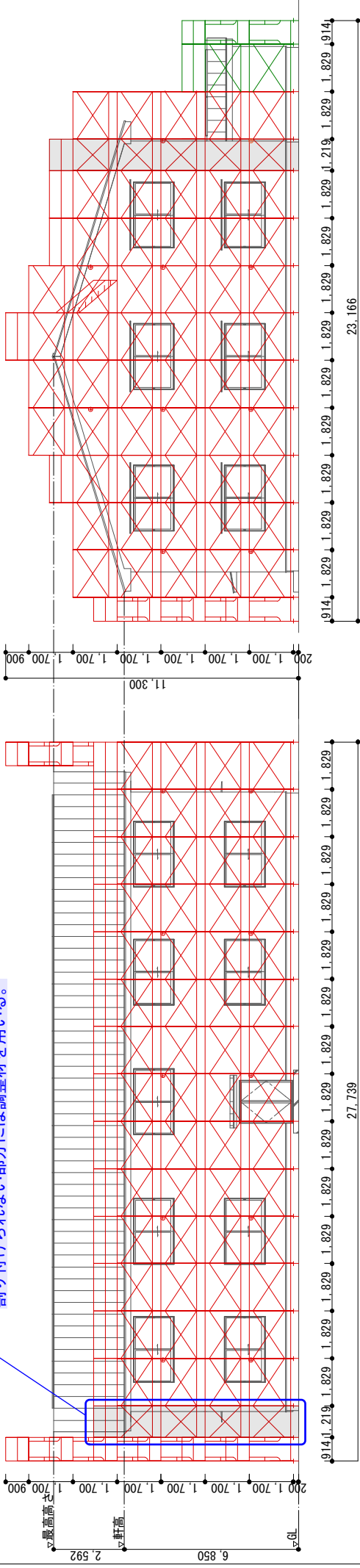
足場計画図 (建方後)

- 凡例
- (1) 建て方前施工足場
 - (2) 建て方後施工足場
 - (3) 下屋建て方後施工足場

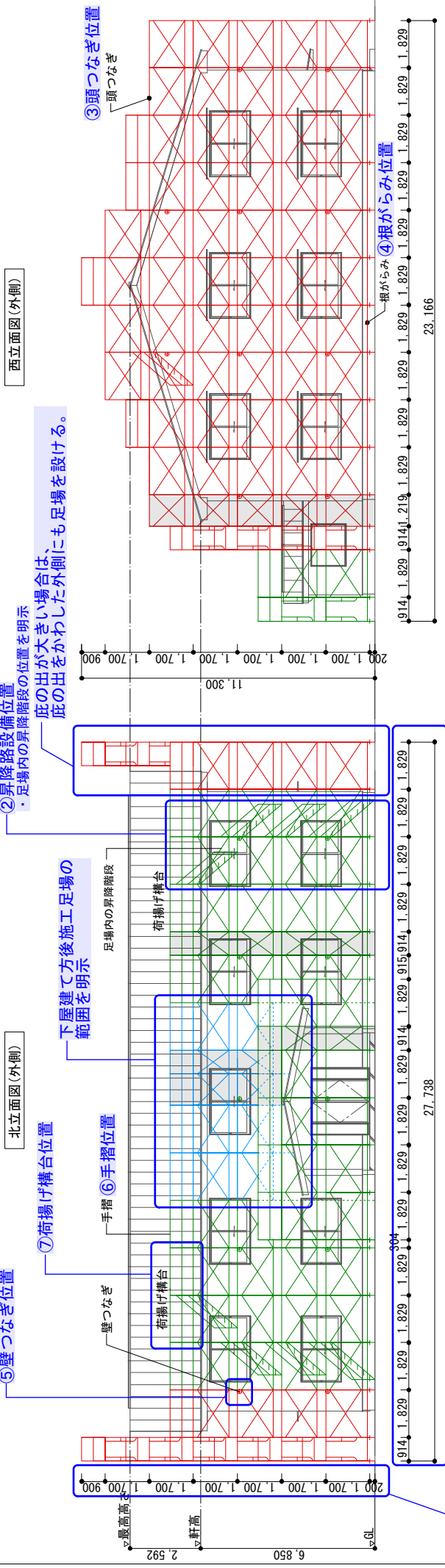
●作成概要
 足場上での作業性や安全性を踏まえて、建て方後に必要となる足場の基本平面割付寸法・高さ寸法、昇降設備・頭つなぎ・根がらみ・壁つなぎの位置、手摺等を明示する。また、必要に応じて荷揚げ構台を明示する。

- 記載事項
- ① 足場及び足場の基本割付寸法
 - ② 昇降設備位置
 - ③ 頭つなぎ位置
 - ④ 根がらみ位置
 - ⑤ 壁つなぎ位置
 - ⑥ 手摺位置
 - ⑦ 荷揚げ構台位置 (必要な場合)

調整材使用箇所
 標準サイズの足場 (本計画では@1,829) で
 割り付けられない部分には調整材を用いる。



北立面図 (外側)



西立面図 (外側)

東立面図 (外側)

② 昇降設備位置
 ・足場内の昇降階段の位置を明示
 底の出が大きい場合は、外側にも足場を設ける。

下屋建て方後施工足場の
 範囲を明示

① 足場及び足場の基本割付寸法
 ・足場の割付開始位置と割付寸法を明示
 (本計画ではインチサイズ (914×1829) の枠組足場にて割付け)

南立面図 (外側)

東立面図 (外側)

凡例	承認	変更履歴	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル	DATA 2023. 10	STION	SCALE AS 3=1:150	NO. AK-03
	承認		NAME OF PLAN 足場計画図 (建方後)				JBN+PWA

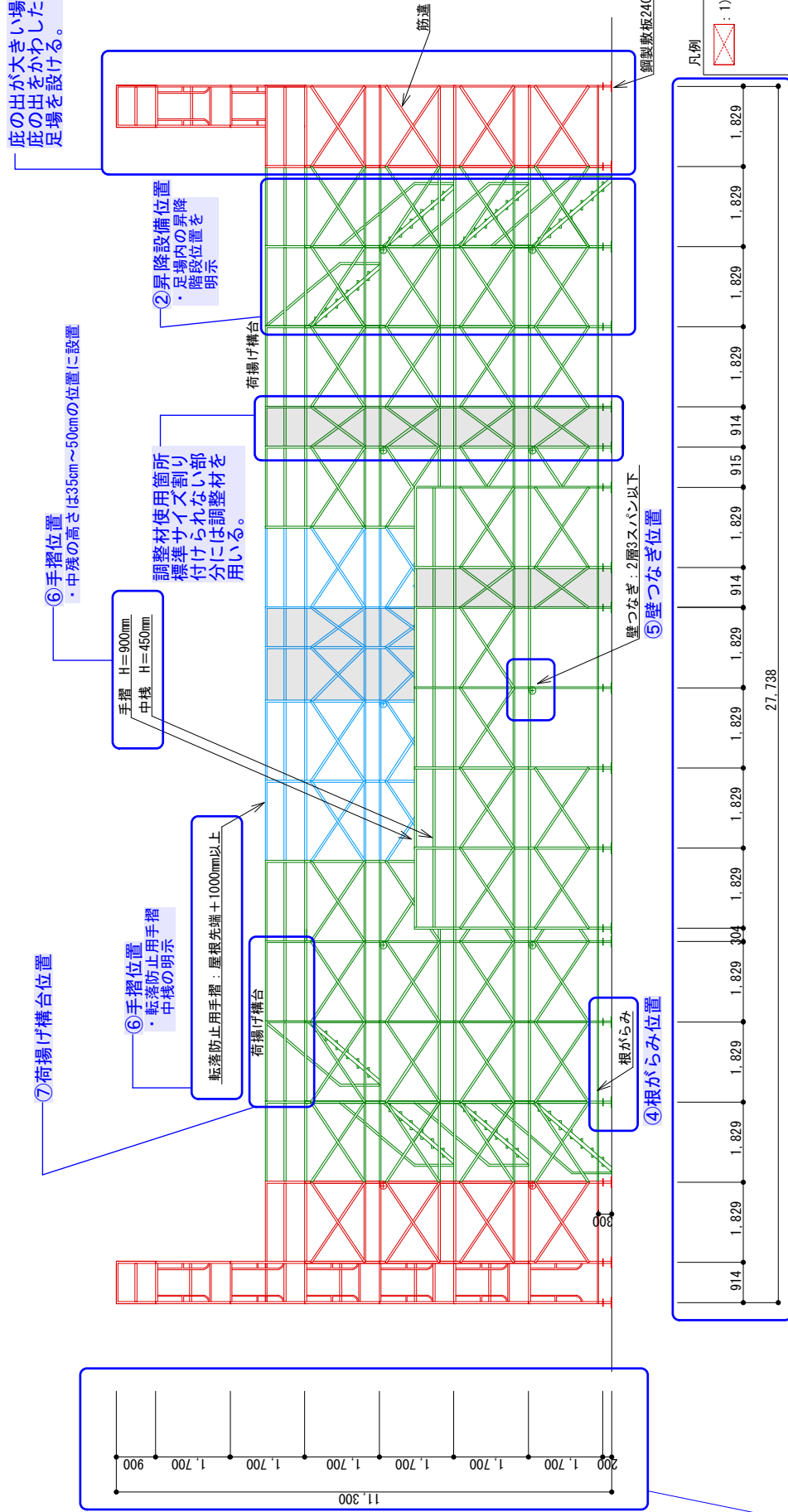
足場矩計図

●作成概要

足場上での作業性や安全性を踏まえて、足場の基本平面割付寸法・高さ寸法、昇降設備・頭つなぎ・根がらみ・壁つなぎの位置、手摺等を明示する。また、安全対策上必要となる部材や寸法等を明示する。

●記載事項

- ①足場及び足場の基本割付寸法
- ②昇降設備位置
- ③頭つなぎ位置
- ④根がらみ位置
- ⑤壁つなぎ位置
- ⑥手摺位置
- ⑦荷揚げ構台位置（必要な場合）



底の出が大きい場合は、底の出をかとした外側にも足場を設ける。

凡例

- X ① 建て方前施工足場
・建て方作業に支障がないように建物正面側を除いて足場を設置する。
- X ② 建て方後施工足場
・建て方後に建物正面側の足場を設置する。
- X ③ 下屋建て方後施工足場
・下屋の上に2階作業用の足場を設置する。

①足場及び足場の基本割付寸法

・足場の割付開始位置と割付寸法を明示
 (本計画ではインテンサイズ (914×1829) の枠組足場にて割付け)

南面矩計図

①足場及び足場の基本割付寸法

・足場の割付寸法を明示

凡例	承認	承認	変更履歴	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル	DATA 2022.12	SIGN	SCALE A3 S=1:100	NO AK-04
例	承認	承認		NAME OF PLAN 足場矩計図				JBN+PWA

No.26 プレカット図

設計図書を元にプレカット事業者が作成する。

元々、プレカット図はプレカット工場での加工や現場の組み立て時に参照される加工図であるが、本手引きでは設計者・施工者・プレカット事業者が木構造にかかる木材及び金物等の仕様、加工形状、配置等に関する情報を共有し、品質、工程、工期、安全の適確な管理につなげるための施工図として位置付けている。

標準図系	P111 プレカット凡例図
	P121 プレカット仕様書
平面図系 伏図	P211 プレカット1階床伏図
	P212 プレカット2階床、1階小屋伏図
	P213 プレカット1階母屋伏図
	P214 プレカット小屋伏図
	P215 プレカット母屋伏図
耐力壁・柱金物図	P221 プレカット1階耐力壁・柱頭柱脚金物図
	P222 プレカット2階耐力壁・柱頭柱脚金物図
面材配置図	P231 プレカット2階床面材配置図
	P241 プレカット下屋面材配置図
	P242 プレカット大屋根面材配置図
窓材伏図	P251 プレカット1階窓材伏図
	P252 プレカット2階窓材伏図
断面図系	P311 プレカット断面図1
	P312 プレカット断面図2
	P313 プレカット断面図3
	P314 プレカット断面図4
	P315 プレカット断面図5

【No. 26】プレカット図

プレカット凡例図

● 図面概要
プレカット図で使用する凡例(シンボル)と加工形状等を照合するための情報の一覧を整理した図面。
継手・仕口の種類、柱の種類、間柱上下の関係、筋かいの種類、接合物の種類の形状等を模した凡例と加工の形状や寸法等の照合に用いる。

● 確認事項
①凡例(シンボル)
②名称・適用
③加工形状及び加工寸法

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット凡例図	図面番号	P111
設計者	〇〇〇〇〇〇	縮尺	-	最終更新日	2024-01-31
施工者	〇〇〇〇〇〇	プレカット	〇〇〇〇〇〇		

プレカット仕様書

躯体使用木材一覧 ①躯体使用木材の部位別の材種・等級・区分・区分別の材種・等級・区分・標準の寸法

部位	材種	樹種	等級	区分	寸法
土台	製材	ヒノキ	無等級	KD(乾燥材)	120x120
管柱	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	120x120
隅柱	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	120x120
通し柱					
床梁	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	120x120 ~ 240
	集成材	ハイブリット	対称異等級	E120-F330	120x270 ~
	集成材	ベイマツ	対称異等級	E135-F375	(特記)
小屋梁	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	120x120 ~ 240
	集成材	ハイブリット	対称異等級	E120-F330	120x270 ~
小屋束	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	120x120
大引	製材	ベイマツ	無等級	KD(乾燥材)	90x90
火打	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	120x120
母屋	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	120x120
棟木	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	120x120
垂木	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	45x90@455
間柱	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	45x120@455
窓台・まぐさ	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	45x120
筋かい	製材	ベイマツ	無等級	KD(乾燥材)	45x105
床面材	構造用合板	針葉樹(実無)	特類	2級	t=24(910 x 1820)
合板受け	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	90x90@910
雲筋かい	製材	スギ	無等級	GRN	13x90(@4m以下)
屋根面材	構造用合板	針葉樹	特類	2級	t=12(910 x 1820)
破風下地	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	30x180
鼻隠下地	製材	スギ	無等級	KD(乾燥材)	30x180

躯体使用耐力面材一覧 ③躯体使用耐力面材の凡例・種類別の仕様・認定番号・厚み・使用する釘の種類と間隔及び壁倍率等

凡例	耐力面材種類	耐力仕様	認定	厚みmm	釘種類	外周釘@	中通釘@	壁倍率	受材
▲	構造用WDF, 構造用H-テイクボード	真壁・真壁床勝	告示1100号	9	N50/NZ50	150	150	2.5	30x40以上、N75@300以下
△	構造用WDF, 構造用H-テイクボード	真壁・真壁床勝	告示1100号	9	N50/NZ50	75	150	4.0	30x40以上、N75@120以下
◆	ダイライトMS	大壁	建設省富住指第9号	9	N60/SF50	100	200	2.5	

躯体使用金物一覧 ②躯体使用金物の用途・使用部位 一般名称 使用金物

用途・使用部位	一般名称	使用金物
基礎アンカーボルト・土台緊結用	アンカーボルトM12	ZマックアンカーボルトM12 A-40 又は同等認定品
土台アンカーボルト緊結	角座金M4.5x40/座金用スリットM12	スクリュー座金(ザボレス)
基礎アンカーボルト・ホルダーの金物緊結用	アンカーボルトM16	ZマックアンカーボルトM16 A-90
筋かい	BP-2, BP-2FS	高耐力HDは専用のアンカーボルトを使用
梁・梁、蟻大入掛等の接合	SB-E2	2倍筋かい(UV・D)
梁継手	短ざくS	新腰高羽子板
梁・柱、間差の接合	M12(片引、両引)	一部金物工法有(テックワP3)
ボルト接合部の座金	角座金M4.5x40/座金用スリットM12	スリットワッシャー付き角座金(40 x 40 x 4.5t)
柱・横梁材の接合	かど金物CP-T、山形プレート	コバノクコナー、コバノクコナー(床合板仕様)
	引き寄せ金物S-HD10	ホルダークコナー、ホルダークコナー(床合板仕様)
	引き寄せ金物S-HD15	ビス止めホルダーウユ 15KN用(一部枠材用)
	引き寄せ金物S-HD20	ビス止めホルダーウユ 20KN用(一部枠材用)
	引き寄せ金物S-HD25	ビス止めホルダーウユ 25KN用(一部枠材用)
	引き寄せ金物S-HD15 x 2	ビス止めホルダーウユ 35KN用(一部枠材用)
	引き寄せ金物S-HD15 x 2	ビス止めホルダーウユH143(一部枠材用)
	-	ビス止めホルダーウユH168
小屋・下屋等の火打	火打金物HB	ホカノ火打ち600
小屋束と梁・母屋等の固定	かすがいC120/C150	ワットかすがい (両面打)
垂木と桁の接合	くら金物SS/ひねり金物ST	外木ボルトク
垂木と母屋・棟木の接合	釘N90 x 2	外木ボルトク 母屋はN90

●図面概要
 躯体に使用する木材の部位別の仕様・金物の仕様及び耐力面材の仕様の一覧を整理した図面。
 各プレカット図に記載された木材・金物、耐力面材の仕様等の照合に用いる。

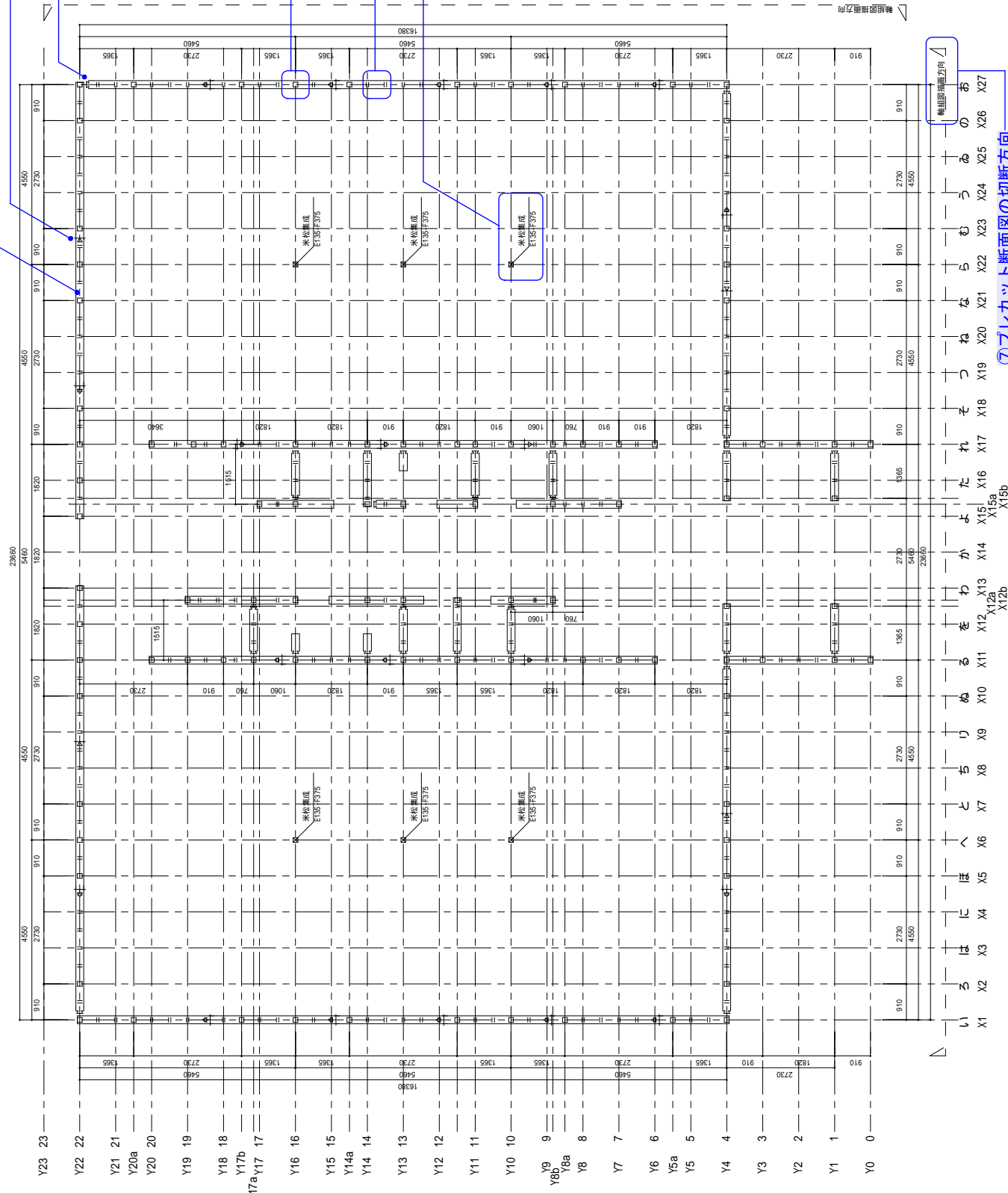
●確認事項
 ①躯体使用木材の部位別の材種・樹種・等級・区分・標準の寸法
 ②躯体使用金物の用途・使用部位別の一般名称・使用金物
 ③躯体使用耐力面材の凡例・種類別の仕様・認定番号・厚み・使用する釘の種類と間隔及び壁倍率等

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット仕様書	図面番号	P121
施工者	設計者	縮尺	-	最終更新日	2024-01-31

プレカット1階床伏図

- ①土台の位置
- ②土台の継手位置・形状
- ③土台同士の仕口形状・種類

- ④柱の位置・種類
- ⑤間柱の位置・上下関係
- ⑥特記がある材の仕様

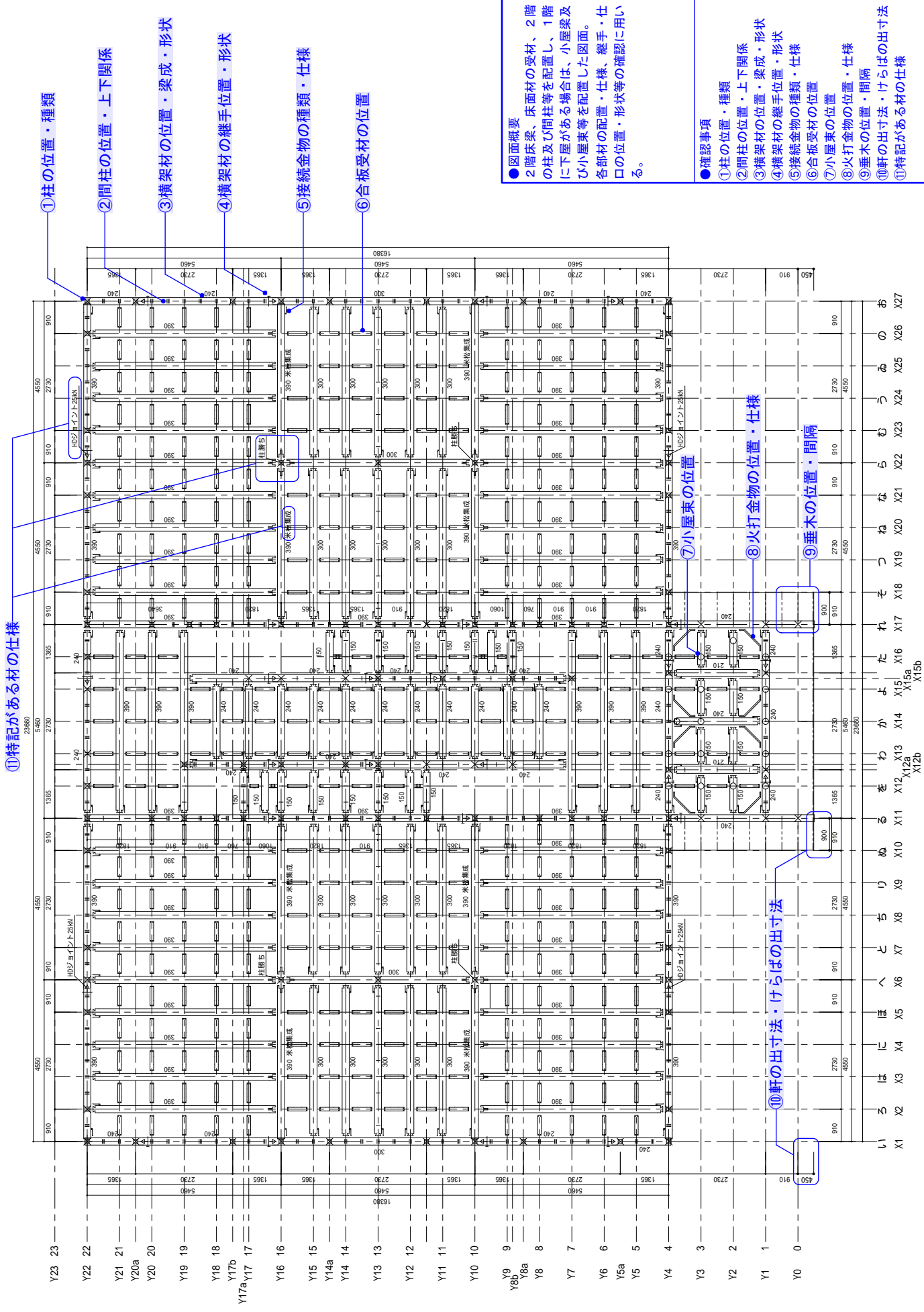


● 図面概要
土台及び1階の柱・間柱を配置した図面。
各部材の配置・仕様、継手・仕口の位置・形状等の確認に用いる。
ただしアンカーボルトの位置寸法は明示していないので、別途作成が必要。

● 確認事項
①土台の位置
②土台の継手位置・形状
③土台同士の仕口形状・種類
④柱の位置・種類
⑤間柱の位置・上下関係
⑥特記がある材の仕様
⑦プレカット断面図の切断方向

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P211
施工者	〇〇建設 〇〇設計 〇〇〇〇〇〇	図面名称	プレカット1階床伏図
	〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇	縮尺	A3 S=1:100
	〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇		最終更新日
	〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇		2024-01-31

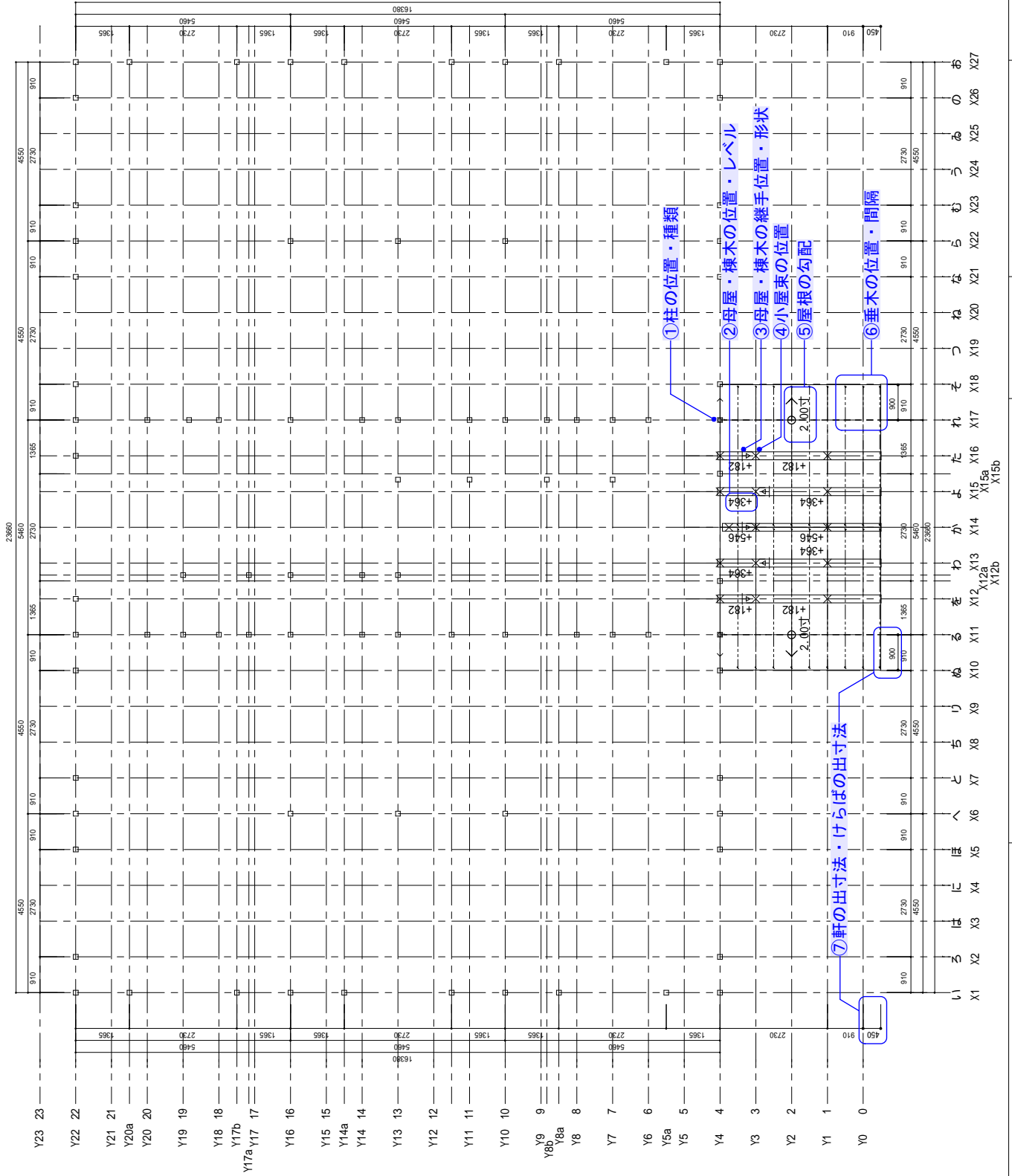
プレカット2階床・1階小屋伏図



- 図面概要
 2階床梁、床面材の受材、2階の柱及び間柱等を配置し、1階に下屋がある場合は、小屋梁及び小屋束等を配置した図面。各部分材の配置・仕様、継手・仕口の位置・形状等の確認に用いる。
- 確認事項
 ①柱の位置・種類
 ②間柱の位置・上下関係
 ③横架材の位置・梁成・形状
 ④横架材の継手位置・仕様
 ⑤接続金物の種類・仕様
 ⑥合板受材の位置
 ⑦小屋束の位置
 ⑧火打金物の位置・仕様
 ⑨垂木の位置・間隔
 ⑩軒の出寸法・けらばの出寸法
 ⑪特記がある材の仕様

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット2階床、1階小屋伏図	図面番号	P212
施工者	〇〇建設 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇	縮尺	A3 S=1:100	最終更新日	2024-01-31
設計者	〇〇〇設計 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇	プレカット	〇〇〇プレカット 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇		

プレカット1階母屋伏図



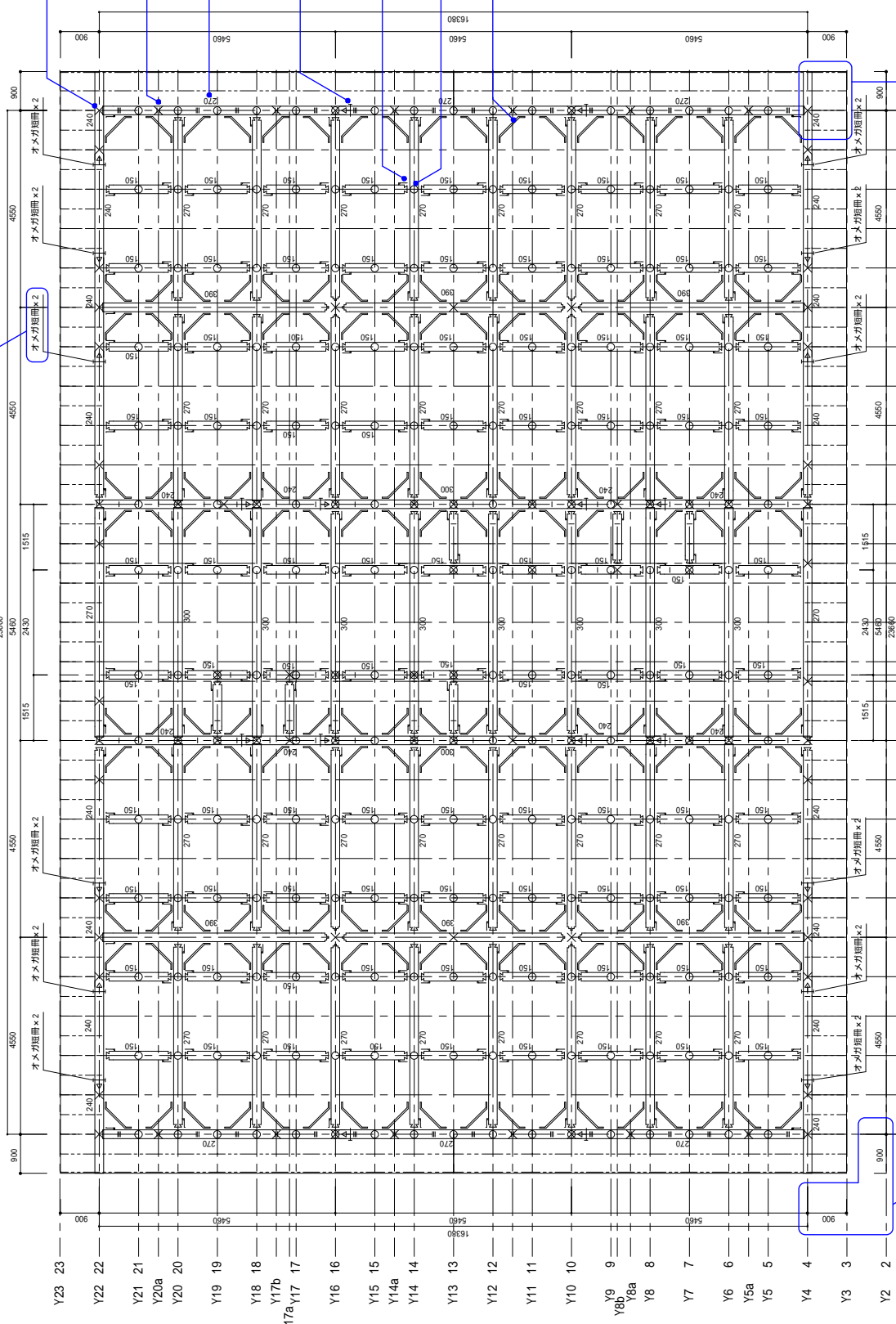
● 図面概要
 1階に下屋がある場合に、小屋束母屋、垂木等を配置した図面。各部分材の配置・仕様、継手の位置・形状、屋根勾配、軒の出寸法等の確認に用いる。

- 確認事項
- ① 柱の位置・種類
 - ② 母屋・棟木の位置・レベル
 - ③ 母屋・棟木の継手位置・形状
 - ④ 小屋束の位置
 - ⑤ 屋根勾配
 - ⑥ 垂木の位置・間隔
 - ⑦ 軒の出寸法・けらばの出寸法

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P213
施工者	○○建設 ○○○○○○ 設計者 ○○○○○○	プレカット1階母屋伏図	最終更新日 2024-01-31
プレカット	○○○プレカット ○○○○○○	縮尺	A3 S=1:100

プレカット小屋伏図

⑩特記がある材の仕様



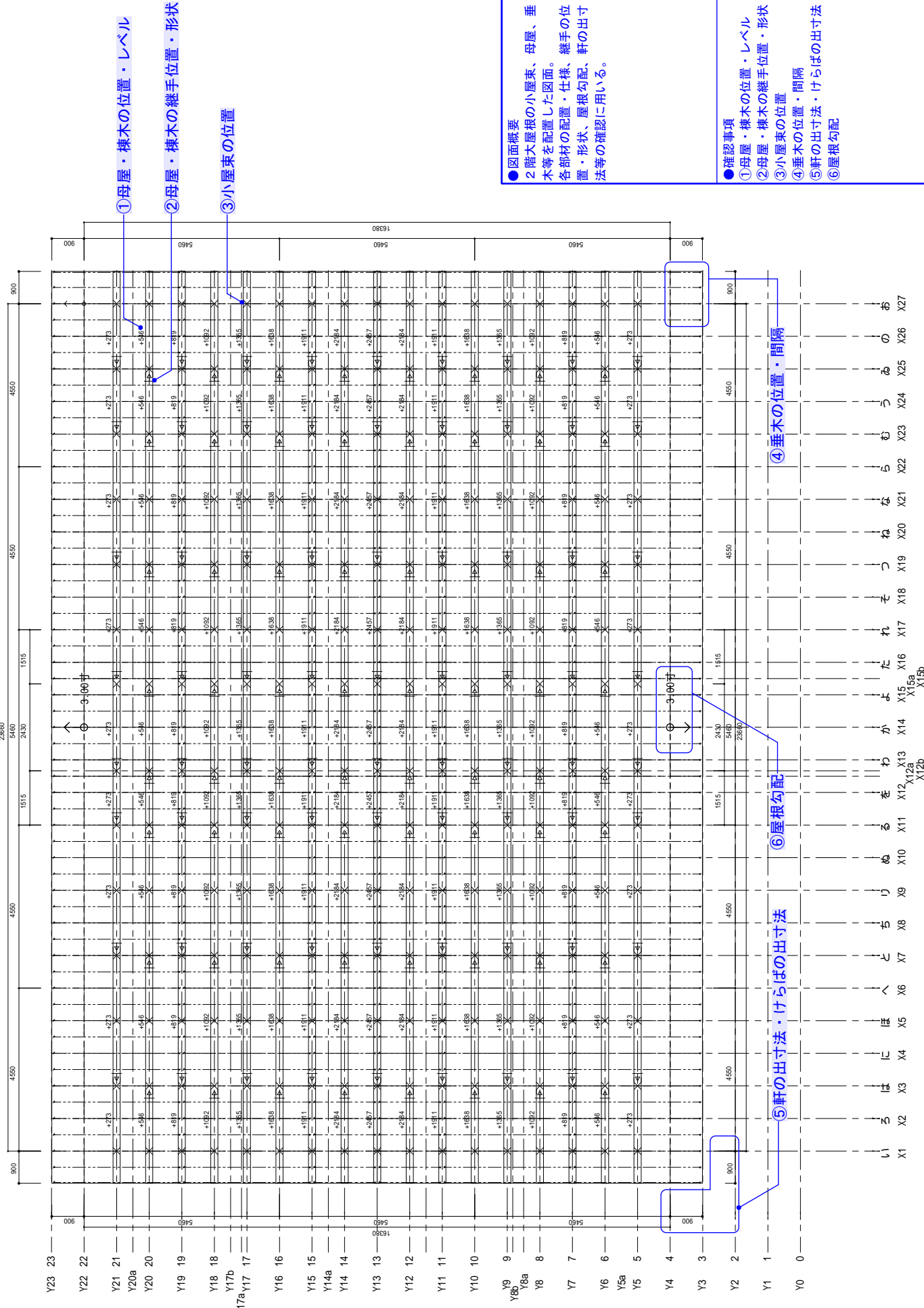
⑨軒の出寸法・けらばの出寸法

⑧垂木の位置・間隔

- 図面概要
 - 2 階大屋根、小屋梁、小屋束等を配置した図面。
 - 各部分材の配置・仕様、継手・仕口の位置・形状、軒の出寸法等の確認に用いる。
- 確認事項
 - ① 柱の位置・種類
 - ② 間柱の位置・上下関係
 - ③ 横架材の位置・梁成・仕口形状
 - ④ 横架材の継手位置・仕様
 - ⑤ 接合金物の種類・仕様
 - ⑥ 小屋束の位置
 - ⑦ 火打金物の位置・仕様
 - ⑧ 垂木の位置・間隔
 - ⑨ 軒の出寸法・けらばの出寸法
 - ⑩ 特記がある材の仕様

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P214
設計者	〇〇〇〇〇〇	最終更新日	2024-01-31
設計者	〇〇〇〇〇〇	図面名称	プレカット小屋伏図
プレカット	〇〇〇〇〇〇	縮尺	A3 S=1:100
図面番	〇〇〇〇〇〇	図面番	最終更新日

プレカット母屋伏図



- ①母屋・棟木の位置・レベル
- ②母屋・棟木の継手位置・形状
- ③小屋束の位置

- ④垂木の位置・間隔
- ⑤軒の出寸法・けらばの出寸法
- ⑥屋根勾配

● 図面概要
 2階大屋根の小屋束、母屋、垂木等を配置した図面。
 各部材の配置・仕様、継手の位置・形状、屋根勾配、軒の出寸法等の確認に用いる。

● 確認事項
 ①母屋・棟木の位置・レベル
 ②母屋・棟木の継手位置・形状
 ③小屋束の位置
 ④垂木の位置・間隔
 ⑤軒の出寸法・けらばの出寸法
 ⑥屋根勾配

工事名称	JBN+PIWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット母屋伏図	図面番号	P215
施工者	〇〇建設 〇〇〇〇〇〇	縮尺	A3 S=1:100	最終更新日	2024-01-31
	〇〇〇設計 〇〇〇〇〇〇	プレカット	〇〇〇プレカット 〇〇〇〇〇〇		

プレカット1階耐力壁・柱頭柱脚金物図

①柱の凡例

凡例

柱頭金物 柱脚金物	
柱頭金物	柱脚金物

②柱頭柱脚金物の仕様・凡例

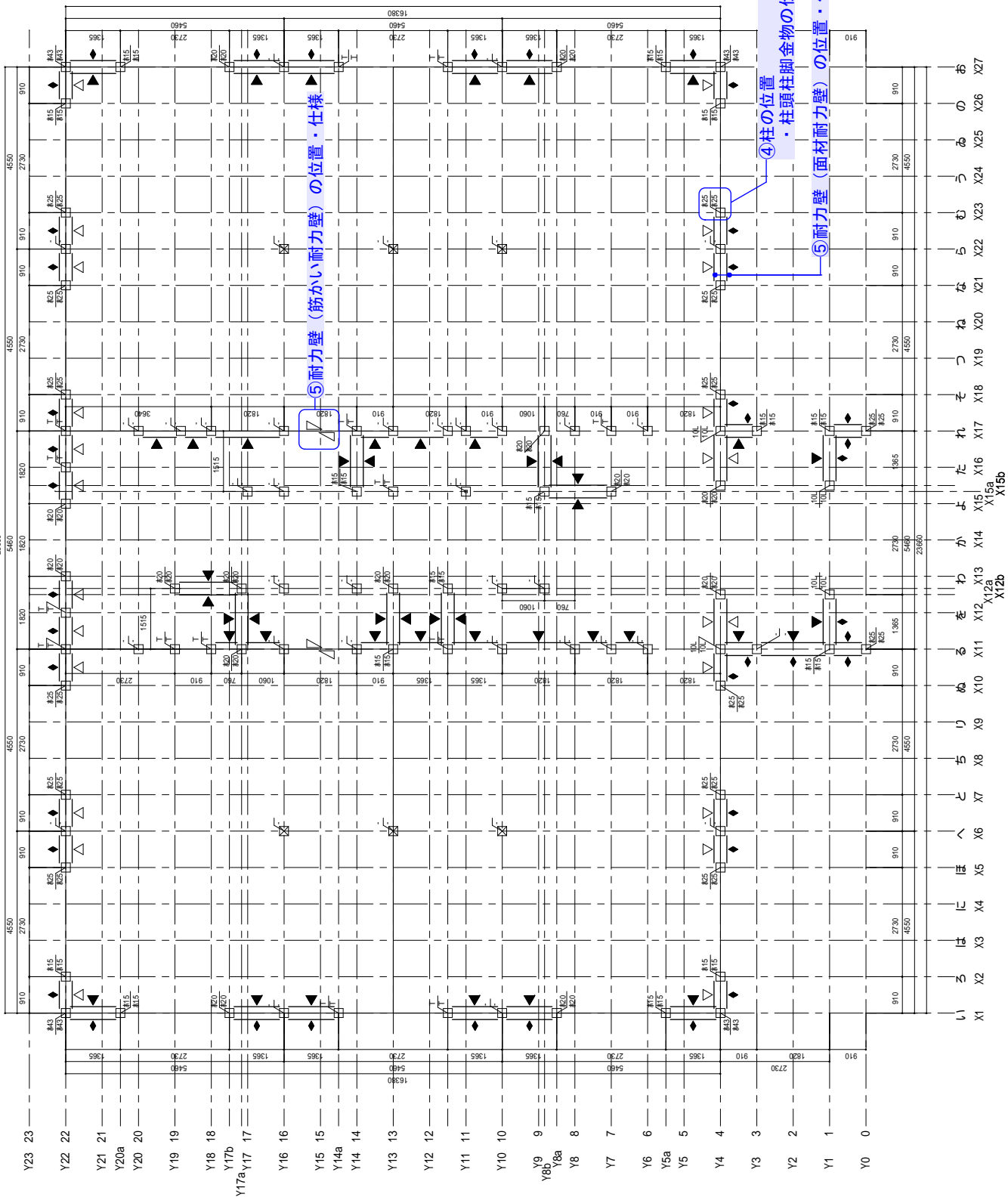
記号	金物名称
-	表記無しは柱勝
T	短形'差又ははかすがい等
10L	コバ'外コーナー
#15	ホ-ル'ガ'カ'ウコーナ
#20	ヒ'ス'止'め'ホ-ル'ガ'カ'ウ'15KN用
#25	ヒ'ス'止'め'ホ-ル'ガ'カ'ウ'20KN用
#43	ホ-ル'ガ'カ'ウ'HI'43KN用

③耐力壁の仕様・凡例

筋かい耐力壁	面材耐力壁
筋かい (シングル)	ダイライトMS t9
ベイマツ 45 x 105	大壁2.5倍
筋かい (ダブル)	構造用MDF t9
ベイマツ 45 x 105	真壁床勝 2.5倍
筋かい金物 2倍筋かい (リベロ)	構造用MDF t9
	真壁床勝 4.0倍

- 図面概要
 - ① 耐力壁の位置・仕様、柱ごとの柱頭柱脚金物の位置・仕様を示した図面。
 - ② 耐力壁の配置・仕様、柱頭柱脚金物の位置・仕様等の確認以外に、必要に応じて設備 (配管・配線等) との干渉、ホールダウン用アンカーボルトの干渉状況等の確認にも用いる。
- 確認事項
 - ① 柱の凡例
 - ② 柱頭柱脚金物の仕様・凡例
 - ③ 耐力壁の仕様・凡例
 - ④ 柱の位置、柱頭柱脚金物の仕様
 - ⑤ 耐力壁の位置・仕様

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル
施工者	設計者
設計	プレカット
図面番号	プレカット1階耐力壁・柱頭柱脚金物図
最終更新日	2024-01-31



⑤耐力壁 (筋かい耐力壁) の位置・仕様

④柱の位置・柱頭柱脚金物の仕様

⑤耐力壁 (面材耐力壁) の位置・仕様

プレカット2階耐力壁・柱頭柱脚金物図

①柱の凡例

凡例

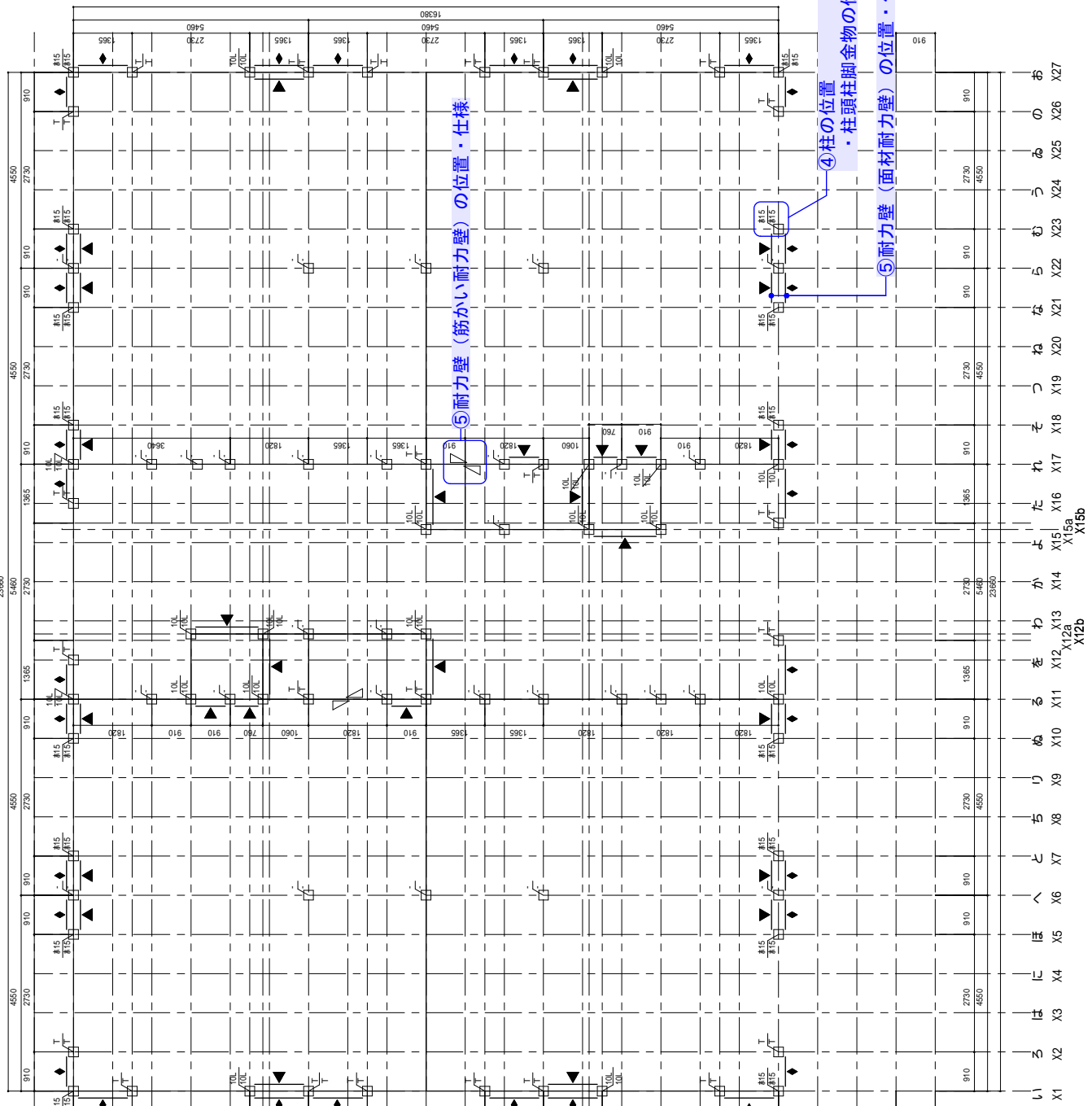
②柱頭柱脚金物の仕様・凡例

柱頭柱脚金物	記号	金物名称
	T	表記無しは柱勝 短材の差又ははかすがい等 コバルトコーナ-
	10L	ホ-ワグ クロコナ-
	ホ15	ホ15止めホ-ワグ クロ15(N)用
	ホ20	ホ20止めホ-ワグ クロ20(N)用
	ホ25	ホ25止めホ-ワグ クロ25(N)用
	ホ43	ホ43止めホ-ワグ クロ43(N)用

③耐力壁の仕様・凡例

筋かい耐力壁	筋かい(シングル)	筋かい(ダブル)	筋かい(リベロ)
	△	▽	◇
	筋かい(シングル) ベイマン 45 x 105	筋かい(ダブル) ベイマン 45 x 105	2倍筋かい(リベロ)
面材耐力壁	ダイライトHS t9 大壁2.5倍		
	構造用MDF t9 真壁床勝 2.5倍		
	構造用MDF t9 真壁床勝 4.0倍		

● 図面概要
耐力壁の位置・仕様、柱ごとの柱頭柱脚金物の位置・仕様を示した図面。
● 確認事項
① 柱の凡例
② 柱頭柱脚金物の仕様・凡例
③ 耐力壁の仕様・凡例
④ 柱の位置・柱頭柱脚金物の仕様
⑤ 耐力壁の位置・仕様

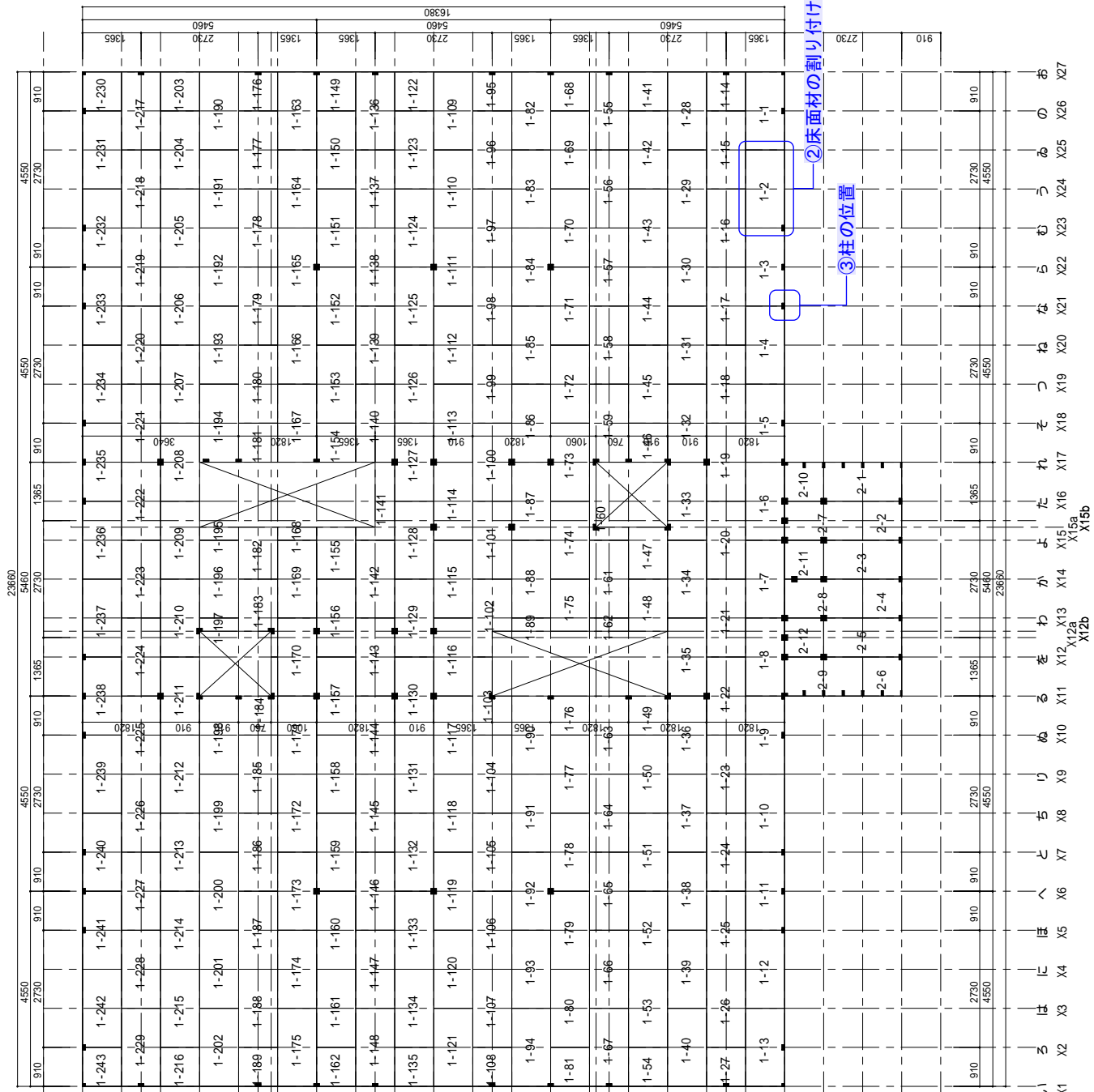


工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P222
施工者	設計者	図面名称	プレカット2階耐力壁・柱頭柱脚金物図
	設計者	縮尺	A3 S=1:100
	設計者	最終更新日	2024-01-31

プレカッタ2階床床材配置図

①床面材の仕様・凡例

凡例



面材の種類、釘仕様 1階床面材 針葉樹構造用合板 特類、2級 910×1820×24(t) 直張り 四周釘打ち (N75-@450)
2階床面材 針葉樹構造用合板 特類、2級 910×1820×24(t) 直張り 四周釘打ち (N75-@150)

● 図面概要
 2階床及び下屋の小屋根の水平構面を構成する床面材の仕様と割り付けを示した図面。
 水平構面の仕様・割り付け等の確認以外に、必要に応じて設備(配管・配線等)や床点検口との干渉状況等の確認にも用いる。

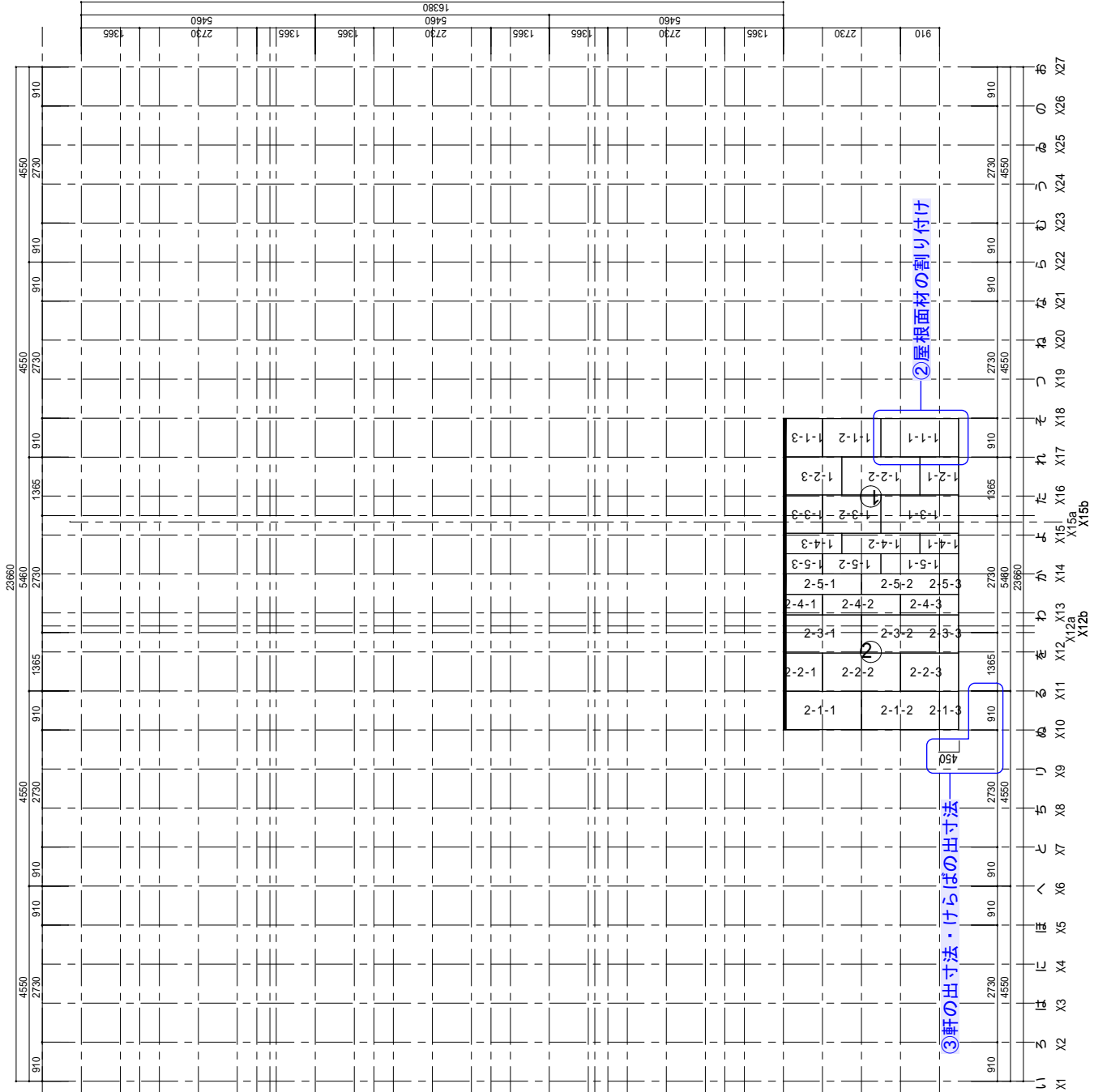
- 確認事項
 ①床面材の仕様・凡例
 ②床面材の割り付け
 ③柱の位置

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカッタ2階床床材配置図	図面番号	P231
施工者	〇〇建設 〇〇設計 〇〇〇〇〇〇	縮尺	A3 S=1:100	最終更新日	2024-01-31
プレカッタ	〇〇〇〇〇〇	図面名称	プレカッタ2階床床材配置図	図面番号	P231

プレカット下屋根材配置図

①屋根面材の仕様・凡例

凡 例
割付グループ別番号
面材の種類、釘仕様
屋根面材 針葉樹構造用合板 特類、2級 910×1820×12(t) 垂木に打ち付け (N50-φ150)



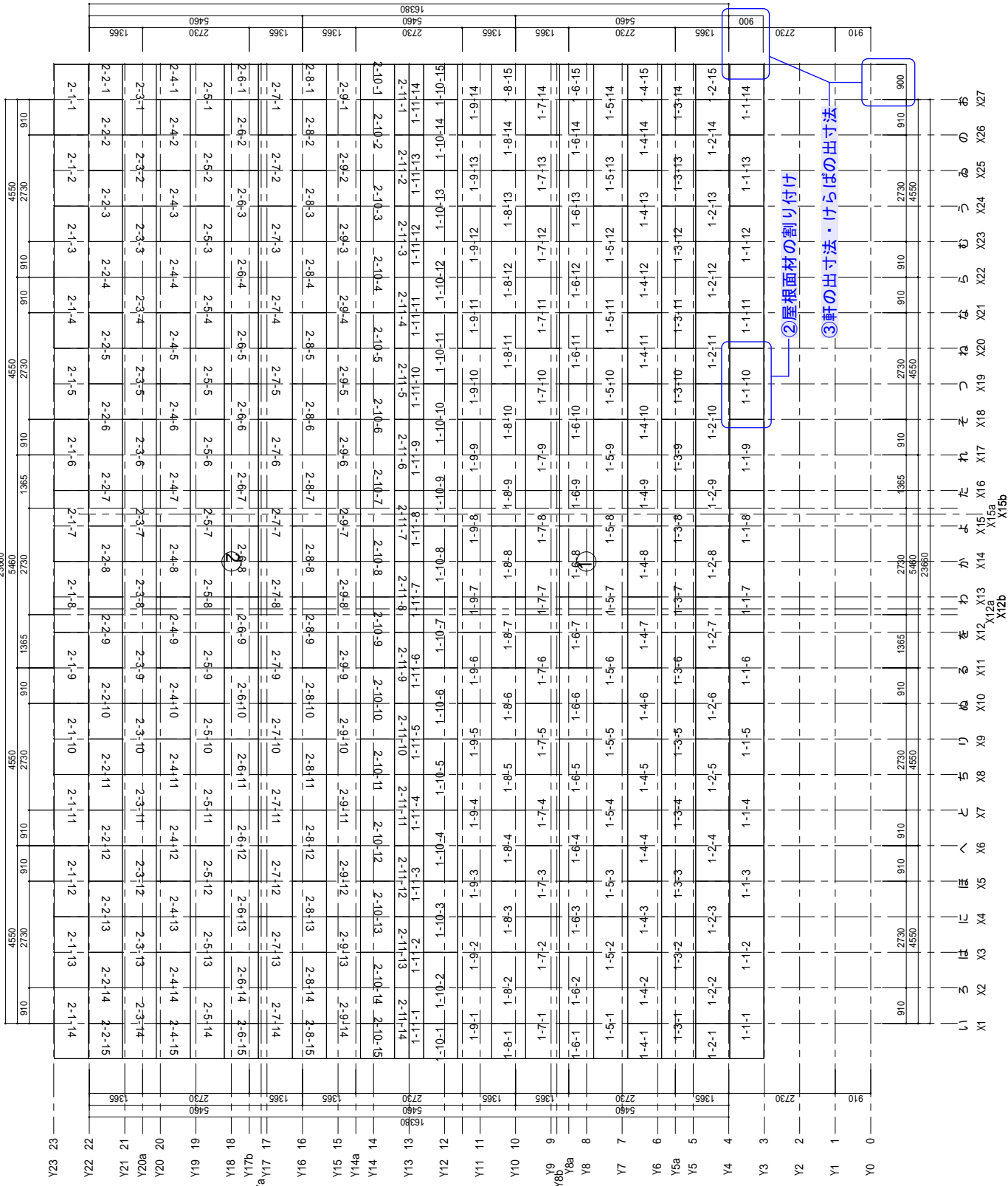
- 図面概要
下屋の屋根構面を構成する屋根面材の仕様と割り付けを示した図面。
- 確認事項
① 屋根面材の仕様・凡例
② 屋根面材の割り付け
③ 軒の出寸法・けらばの出寸法

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット下屋根材配置図	図面番号	P241
施工者	〇〇建設 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇	縮尺	A3 S=1:100	最終更新日	2024-01-31
プレカット	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	図面名称	プレカット	図面番号	P241

プレカット大屋根根材配置図

① 屋根根材の仕様・凡例

凡 例
副付グループ・列・番号
面材の種類、釘仕様
屋根面材 針葉樹構造用合板 特類、2級 910×1820×12(t) 垂木に打ち付け (N50-φ150)

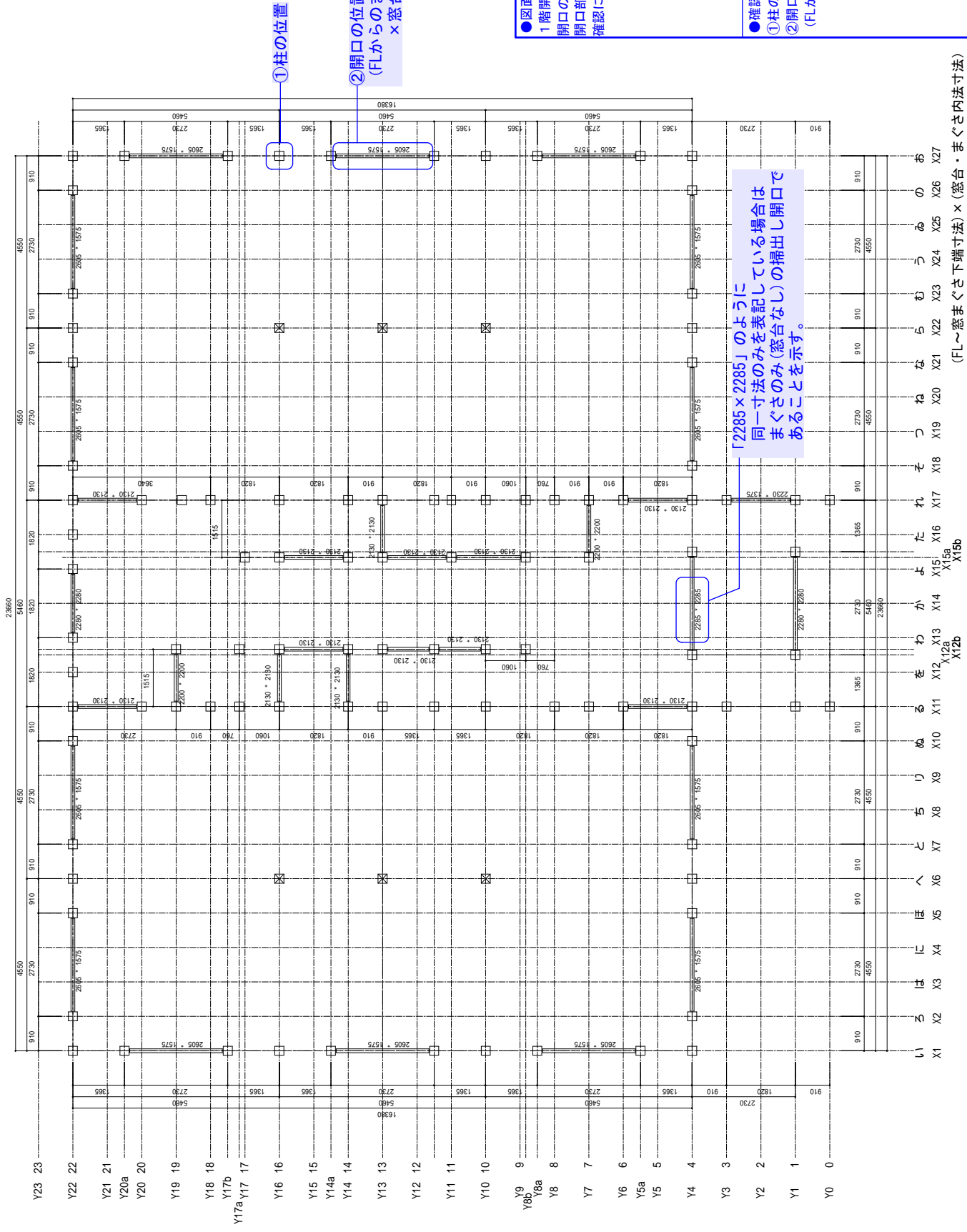


● 図面概要
大屋根の屋根面材を構成する屋根面材の仕様と割り付けを配置した図面。
水平構面の仕様・割り付け方法の他、軒の出・けらばの出寸法の確認にも用いる。

● 確認事項
① 屋根面材の仕様・凡例
② 屋根面材の割り付け
③ 軒の出寸法・けらばの出寸法

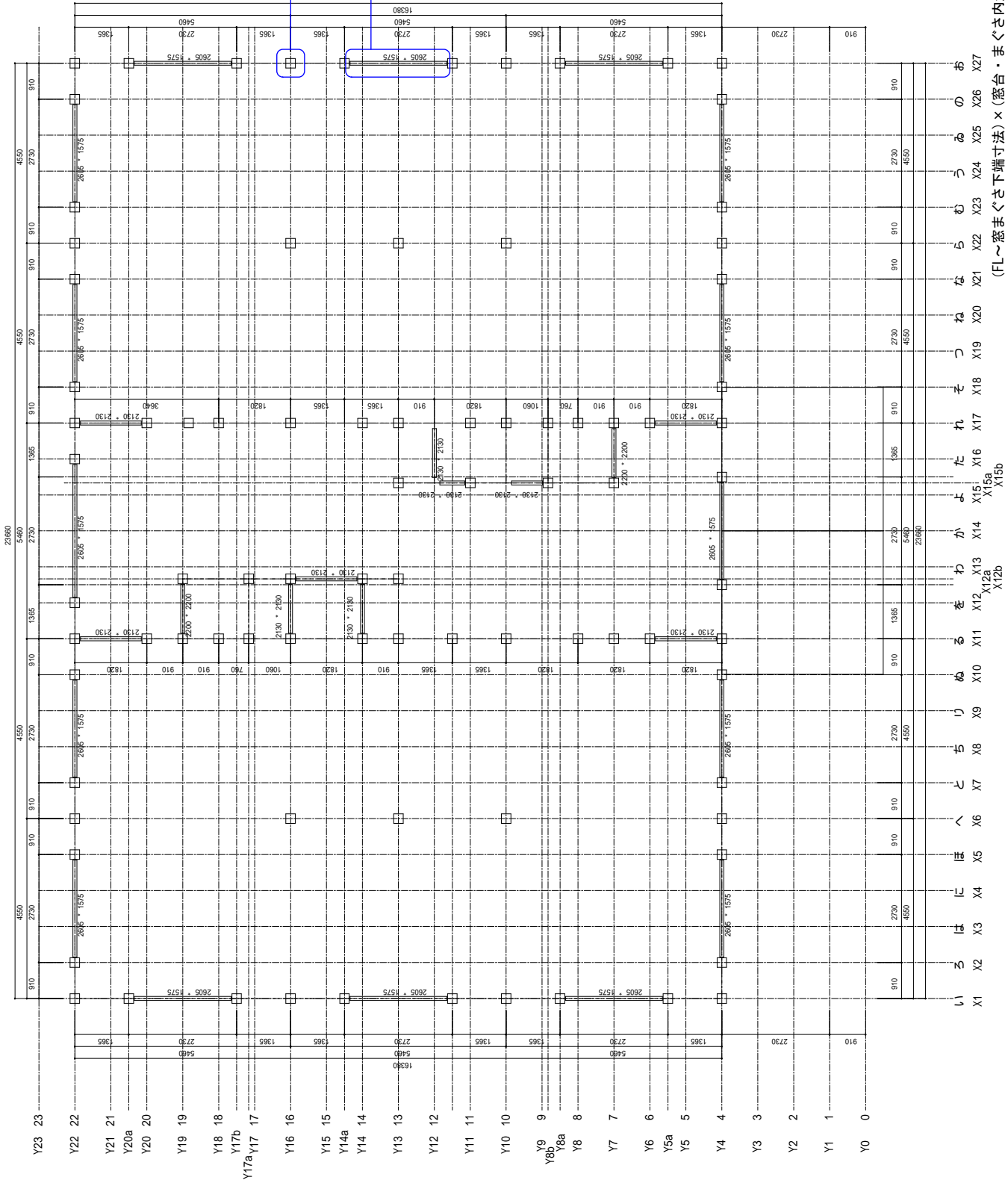
工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P242
設計者	〇〇〇〇〇〇	最終更新日	2024-01-31
設計者	〇〇〇〇〇〇	図面配置	プレカット大屋根根材配置図
プレカット	〇〇〇〇〇〇	図面名称	縮尺
プレカット	〇〇〇〇〇〇	縮尺	A3 S=1:100

プレカット1階窓材伏図



工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P251
施工者	○○○建設 ○○○設計 ○○○設計者	図面名称	プレカット1階窓材伏図
	○○○プレカット ○○○プレカット ○○○プレカット	縮尺	A3 S=1:100
	○○○設計 ○○○設計 ○○○設計		最終更新日
			2024-01-31

プレカト2階窓材伏図



- 図面概要
 - 2階開口部の窓台・まぐさの位置、開口の高さ寸法を示した図面。
 - 開口部の形状や高さ位置寸法等の確認に用いる。
- 確認事項
 - ① 柱の位置
 - ② 開口の位置・開口高さ寸法 (FLからのまぐさの下端高さ寸法 × 窓台・まぐさの内法寸法)

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P252
施工者	○○○建設 ○○○○○	最終更新日	2024-01-31
	○○○設計 ○○○○○	図面名称	プレカト2階窓材伏図
	○○○プレカト ○○○○○	縮尺	A3 S=1:100
	プレカト		(FL~窓まぐさ下端寸法) × (窓台・まぐさ内法寸法)

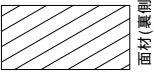
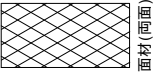
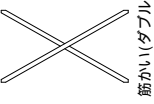
プレカット断面図 1

● 図面概要

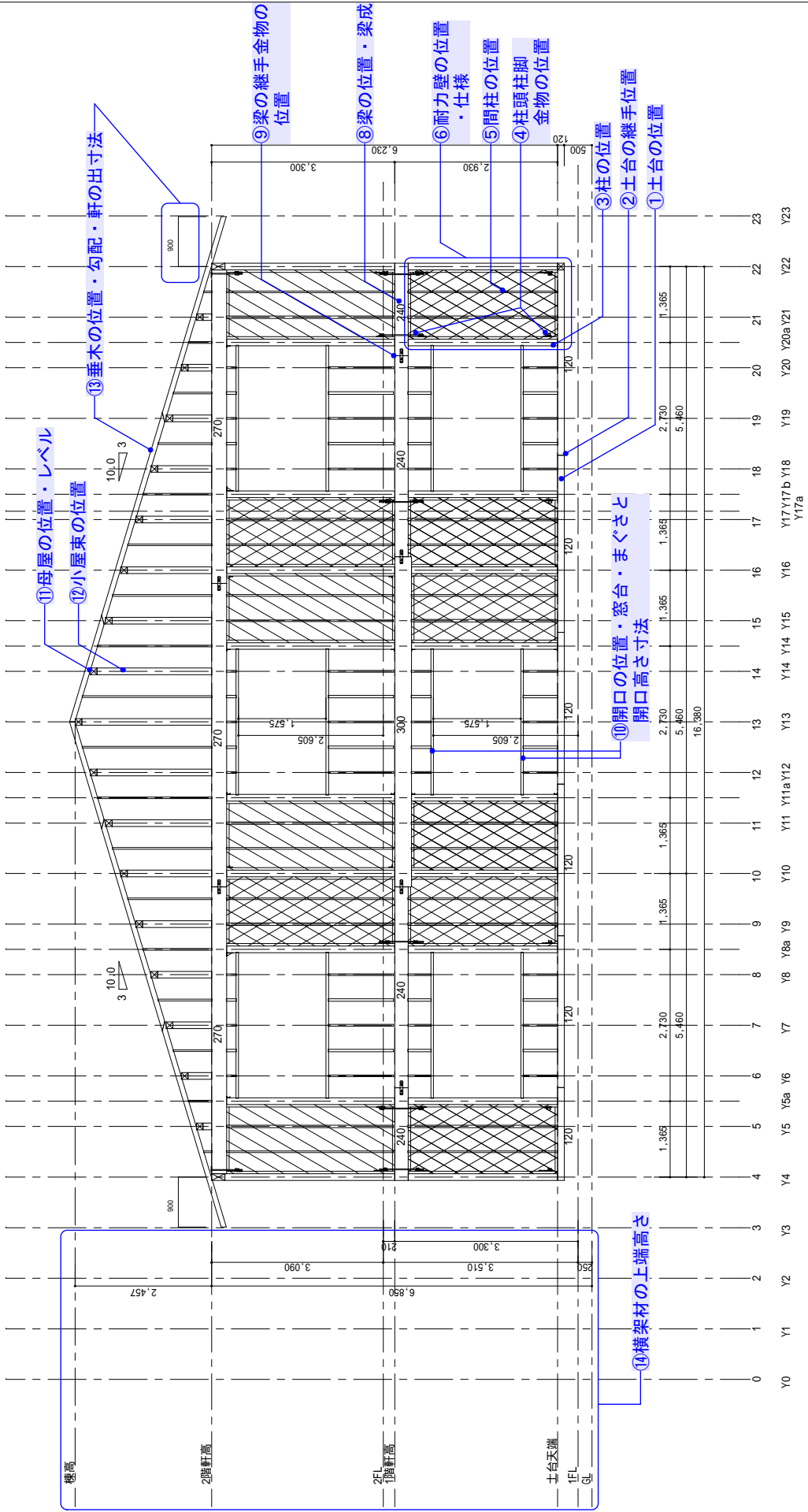
主に耐力壁を含む通りの断面図で横架材・垂直材・耐力壁・横架材の接合金物・ホールダウン金物や羽柄材等が記載された図面。各部材の位置や高さレベル、耐力壁と周辺部材との納まり、継手の位置、屋根勾配、軒の出寸法等の確認に用いる。

● 確認事項

- ① 土台の位置
- ② 土台の継手位置
- ③ 柱の位置
- ④ 柱頭柱脚金物の位置
- ⑤ 間柱の位置
- ⑥ 耐力壁の位置・仕様
- ⑦ 耐力壁の仕様・凡例
- ⑧ 梁の位置・梁成・仕様
- ⑨ 梁の継手金物の位置
- ⑩ 開口的位置・窓台・まぐさと開口高さ寸法
- ⑪ 母屋の位置・レベル
- ⑫ 小屋束の位置
- ⑬ 垂木の位置・勾配・軒の出寸法
- ⑭ 横架材の上端高さ



⑦ 耐力壁の仕様・凡例



お通り (X27)

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P311
施工者	○○○建設 設計者	プレカット断面図 1	最終更新日
	○○○設計	縮尺	2024-01-31
	○○○プレカット	A3 S=1:75	

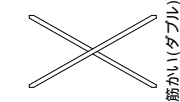
プレカット断面図 2

● 図面概要

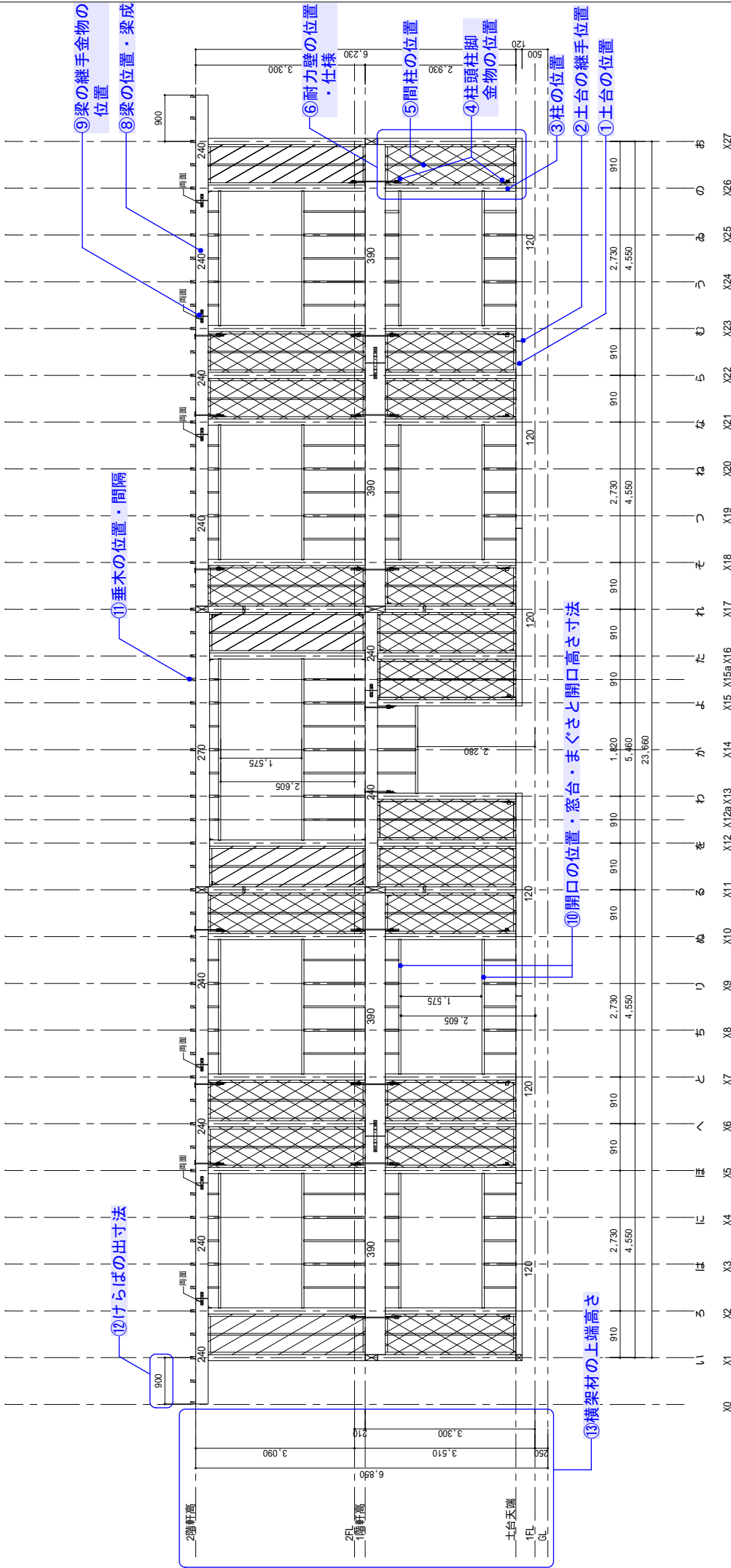
主に耐力壁を含む通りの断面図で横架材・垂
直材・耐力壁・横架材の接合金物・ホールダ
ウン金物や羽柄材等が記載された図面。
各部材の位置や高さレベル、耐力壁と周辺部
材との納まり、継手の位置、屋根勾配、けら
ばの出寸法等の確認に用いる。

● 確認事項

- ① 土台の位置
- ② 土台の継手位置
- ③ 柱の位置
- ④ 柱頭柱脚金物の位置
- ⑤ 間柱の位置
- ⑥ 耐力壁の位置・仕様
- ⑦ 耐力壁の仕様・凡例
- ⑧ 梁の位置・梁成
- ⑨ 梁の継手金物の位置
- ⑩ 開口の位置・窓台・まぐさと開口高さ寸法
- ⑪ 垂木の位置・間隔
- ⑫ けらばの出寸法
- ⑬ 横架材の上端高さ



⑦ 耐力壁の位置・仕様・凡例



22通り (Y22)

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット断面図 2	図面番号	P312
施工者	〇〇建設 〇〇設計 〇〇設計者	縮尺	A3 S=1:75	最終更新日	2024-01-31

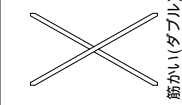
プレカット断面図 3

● 図面概要

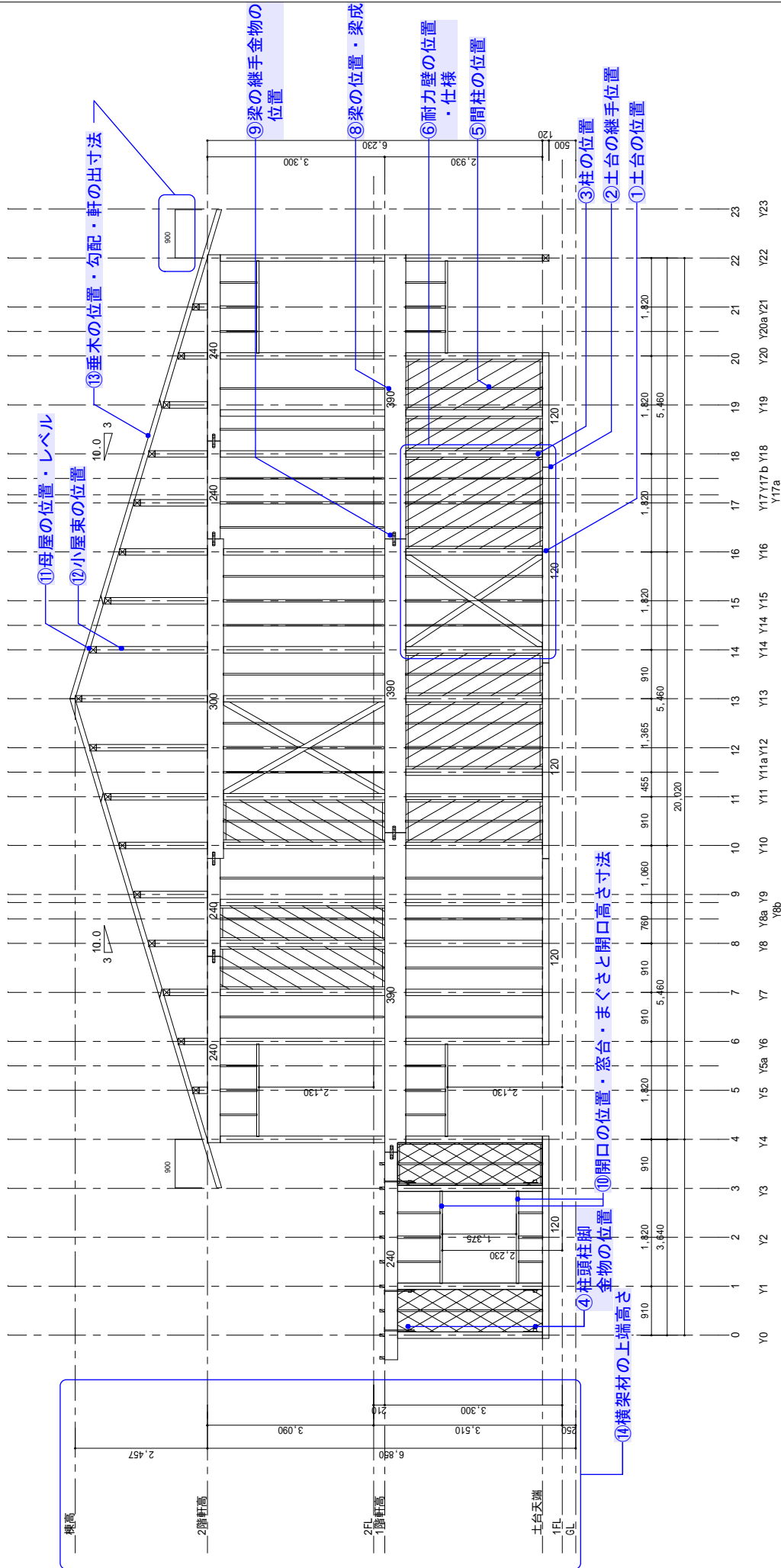
主に耐力壁を含む通りの断面図で横架材・垂直材・耐力壁・構架材の接合金物・ホールダウン金物や羽柄材等が記載された図面。各部材の位置や高さレベル、耐力壁と周辺部材との納まり、継手の位置、屋根勾配、軒の出寸法等の確認に用いる。

● 確認事項

- ① 土台の位置
- ② 土台の継手位置
- ③ 柱の位置
- ④ 柱頭柱脚金物の位置
- ⑤ 間柱の位置
- ⑥ 耐力壁の位置・仕様
- ⑦ 耐力壁の仕様・凡例
- ⑧ 梁の位置・梁成・仕様
- ⑨ 梁の継手金物の位置
- ⑩ 開口的位置・窓台・まぐさと開口高さ寸法
- ⑪ 母屋の位置・レベル
- ⑫ 小屋束の位置
- ⑬ 垂木の位置・勾配・軒の出寸法
- ⑭ 構架材の上端高さ



⑦ 耐力壁の仕様・凡例



れ通り (X17)

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P313
施工者	設計者	プレカット断面図 3	最終更新日
	設計者	縮尺	2024-01-31
	設計者	A3 S=1:75	

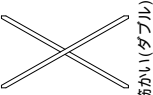
プレカット断面図 4

●図面概要

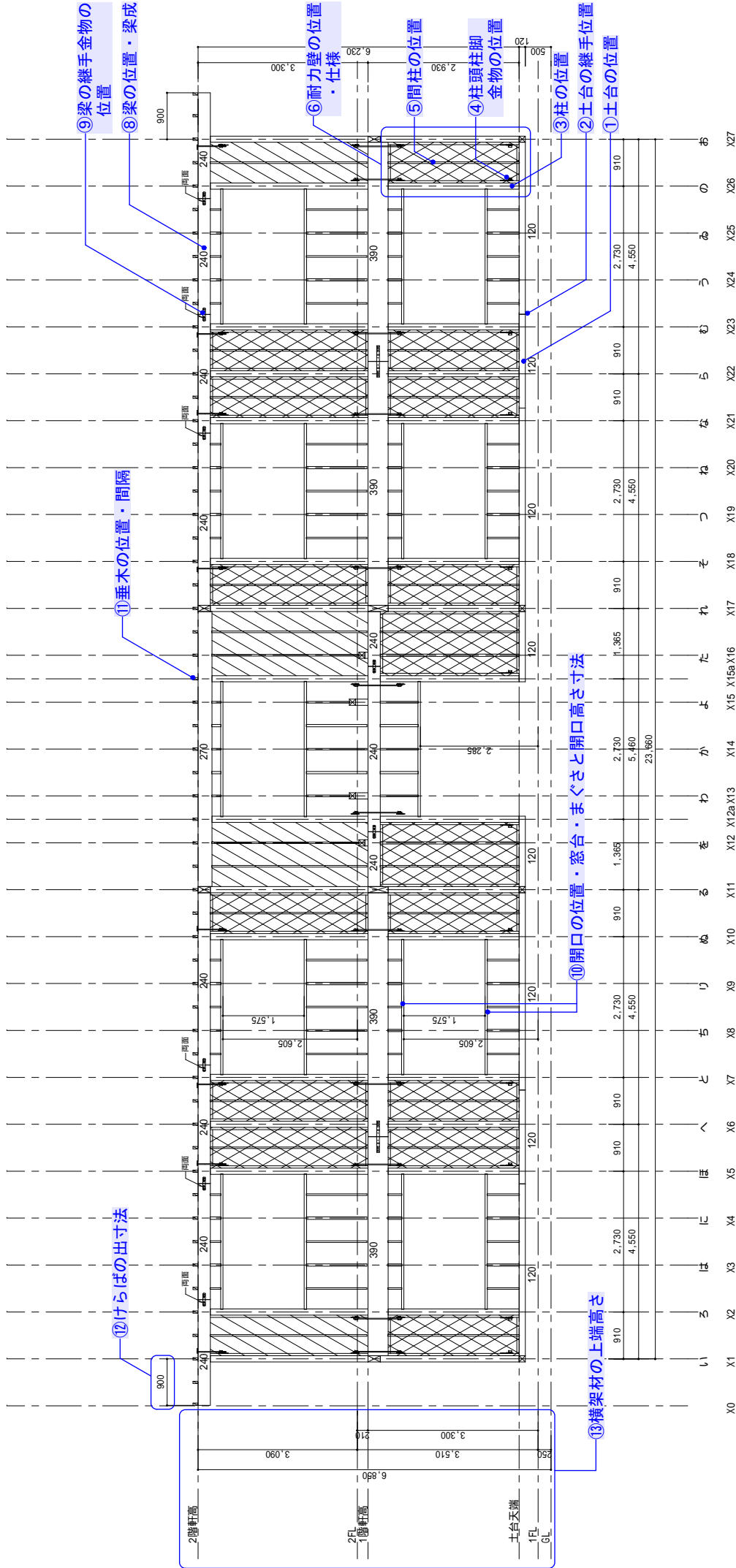
主に耐力壁を含む通りの断面図で横架材・垂直材・耐力壁・構架材の接合金物・ホルダフン金物や羽柄材等が記載された図面。各部分の位置や高さレベル、耐力壁と周辺部材との納まり、継手の位置、屋根勾配、けらの出寸法等の確認に用いる。

●確認事項

- ①土台の位置
- ②土台の継手位置
- ③柱の位置
- ④柱頭柱脚金物の位置
- ⑤間柱の位置
- ⑥耐力壁の位置・仕様
- ⑦耐力壁の仕様・凡例
- ⑧梁の位置・梁成
- ⑨梁の継手金物の位置
- ⑩開口位置・窓台・まぐさと開口高さ寸法
- ⑪垂木の位置・間隔
- ⑫けらばの出寸法
- ⑬横架材の上端高さ



⑦耐力壁の位置・仕様・凡例



4通り (Y4)

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット断面図 4	図面番号	P314
施工者	○○○建設 ○○○設計 ○○○設計者	縮尺	A3 S=1:75	最終更新日	2024-01-31

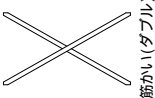
プレカット断面図 5

● 図面概要

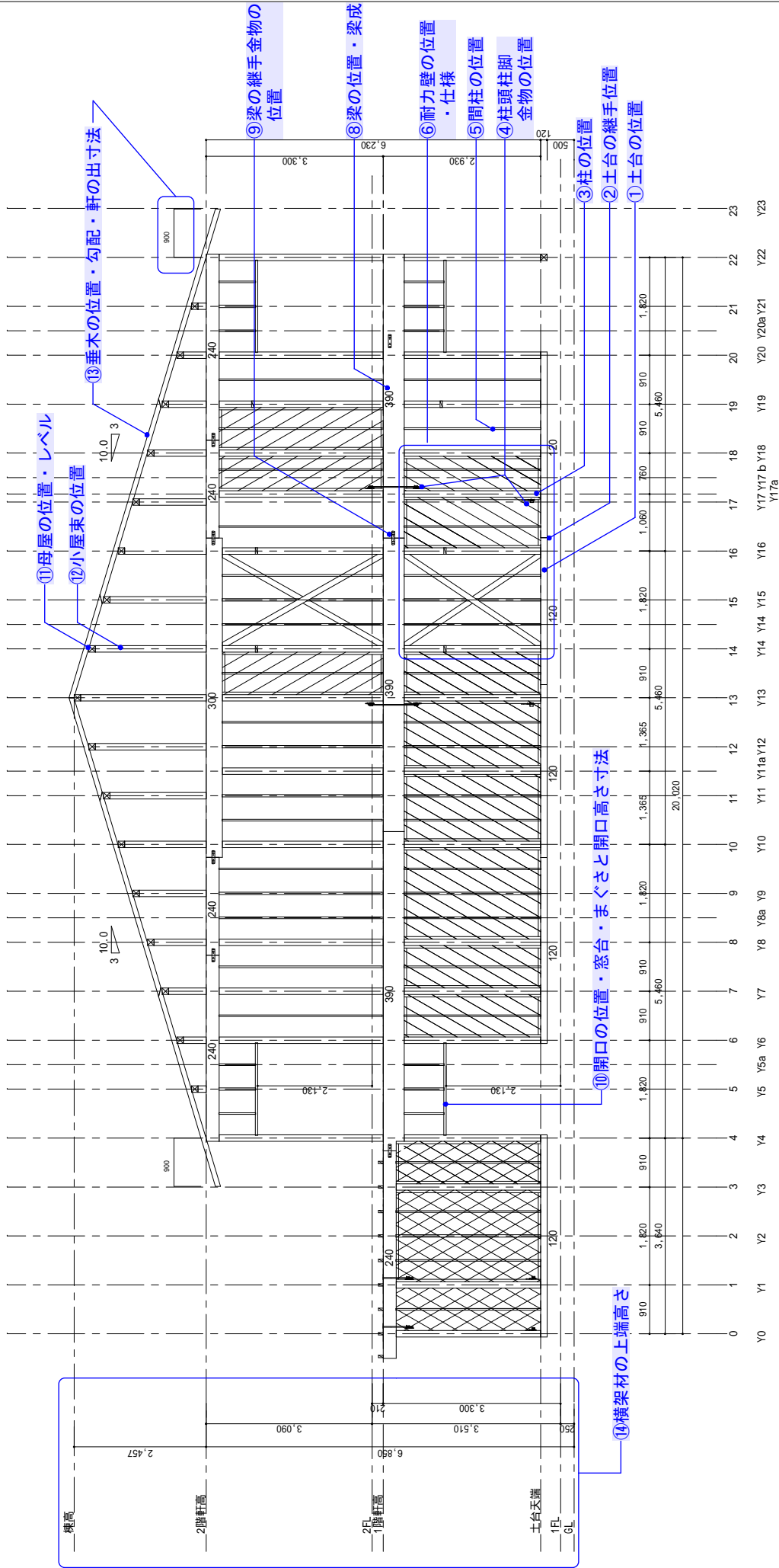
主に耐力壁を含む通りの断面図で横架材・垂直材・耐力壁・構架材の接合金物・ホールダウン金物や羽柄材等が記載された図面。各部材の位置や高さレベル、耐力壁と周辺部材との納まり、継手の位置、屋根勾配、軒の出寸法等の確認に用いる。

● 確認事項

- ① 土台の位置
- ② 土台の継手位置
- ③ 柱の位置
- ④ 柱頭柱脚金物の位置
- ⑤ 間柱の位置
- ⑥ 耐力壁の位置・仕様
- ⑦ 耐力壁の仕様・凡例
- ⑧ 梁の位置・梁成・仕様
- ⑨ 梁の継手金物の位置
- ⑩ 開口的位置・窓台・まぐさと開口高さ寸法
- ⑪ 母屋の位置・レベル
- ⑫ 小屋束の位置
- ⑬ 垂木の位置・勾配・軒の出寸法
- ⑭ 横架材の上端高さ



⑦ 耐力壁の仕様・凡例



る通り (X11)

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット断面図 5	図面番号	P315
施工者	○○建設 設計者	縮尺	A3 S=1:75	最終更新日	2024-01-31
	○○設計	プレカット			
	○○○○○○				
	○○○○○○				
	○○○○○○				

No.27 木構造工事見積書

木材関連事業者等が木構造工事に係る構造材、羽柄材、加工費、運賃、金物等について、極力詳細に計上した見積書を作成する。

木構造工事に関連する事業者が、見積書を相互に共有することにより、材料や工事手間の数量、項目のもれの有無、金額、調達ルート等について、効率的に把握することが可能となる。

【No.27】木構造工事見積書

●図書概要
 木材関連事業者が木構造工事係る構造材、羽柄材、加工費、運賃、金物等について、極力詳細に計上した見積書を作成する。

●確認事項
 ①見積項目(構造材、羽柄材、加工費、運賃、金物等)
 ②1本拾いによる構造材の部材名・品名(樹種等)・等級・材寸・数量・材積
 ③1本拾いによる羽柄材の部材名・品名(樹種等)・等級・材寸・数量・材積
 ④加工費、プレカット図作成費用
 ⑤金物の種類、仕様・規格・数量

5

物件番号 00000 - 000000
 見積No. 00000000
 作成日 ○年○月○日

①見積項目(構造材、羽柄材、加工費、運賃、金物等)

物件名 御中
 240.00坪

株式会社 ○○○○

〒000-0000 ○○県○○市○○ ○-○-○
 TEL 000-000-0000 FAX 000-000-0000

担当営業	検印
------	----

御見積合計金額 ¥00,000,000- (税別)

No	品名	材積(m ³)	金額(税別)	備考
1	構造材	69.624		
2	羽柄材			
3	加工費			
4	運賃			
5	金物			
6				
7				
8				
9				
10				
合計			69.624	
			0	
			消費税(10%)	
			総合計	

有効期限 作成日より1ヵ月
 備考 ※特殊加工のある場合、別途料金がかかります。
 ※本見積書で取り扱う全ての木材は、クリーンウッド法に基づき合法性が確認された木材とします。

②1本拾いによる構造材の部材名・品名(樹種等)・等級・材寸・数量・材積

【構造材】

No.	部材名	品名	等級	材寸	数量	材積	単位	単価	金額(税別)	備考
1	上白	桧KD	特等	4000×120×120	41	2.3616	本			
2	大引	杉KD	特等	4000×90×90	94	3.0456	本			
3	梁桁	杉KD	特等	4000×120×240	26	2.9952	本			
4	梁桁	杉KD	特等	4000×120×150	47	3.384	本			
5	梁桁	杉KD	特等	3000×120×240	25	2.16	本			
6	梁桁	杉KD	特等	3000×120×210	2	0.1512	本			
7	梁桁	杉KD	特等	3000×120×150	8	0.432	本			
8	梁桁	杉KD	特等	3000×120×120	3	0.1296	本			
9	梁桁	米松集成	JAS	5000×120×390	8	1.872	本			E135
10	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	6000×120×390	54	15.1632	本			
11	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	6000×120×300	14	3.024	本			
12	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	6000×120×270	8	1.5552	本			
13	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	5000×120×390	8	1.872	本			
14	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	5000×120×300	20	3.6	本			
15	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	5000×120×270	32	5.184	本			
16	母屋・棟木	杉KD	特等	4000×120×120	142	8.1792	本			
17	管柱	桧KD	特等 背割ナシ	4000×120×120	87	5.0112	本			
18	管柱	桧KD	特等 背割ナシ	3000×120×120	98	4.2336	本			
19	特殊柱	米松集成	JAS	4000×120×120	4	0.2304	本			E135
20	特殊柱	米松集成	JAS	3000×120×120	2	0.0864	本			E135
21	小屋束	杉KD	特等	4000×120×120	86	4.9536	本			
小計										

③1本拾いによる羽柄材の部材名・品名(樹種等)・等級・材寸・数量・材積

3/5

【羽柄材】

No.	部材名	品名	等級	材寸	数量	材積	単位	単価	金額(税別)	備考
1	垂木	スギKD	特等	4000×45×90	246	0.0162	本			
2	間柱	スギKD	特等	3000×45×120	383	0.0162	本			
3	窓台まぐさ	スギKD	特等	4000×45×120	125	0.0216	本			
4	床合板	針葉樹構造用合板		24×910×1820	227		枚			
5	野地合板	針葉樹構造用合板		12×910×1820	317		枚			
6	壁	構造用パーティクルボード		9×910×3030	136		枚			
7	壁	ドライトMS		9×910×3030	220		枚			
8	プレカット	垂木加工			240		坪			
9	プレカット	間柱加工			240		坪			
10	プレカット	窓台まぐさ加工			92		本			
11	プレカット	床合板加工			227		枚			
12	プレカット	野地合板加工			317		枚			
							小計			

④加工費、プレカット図作成費用

4/5

【加工費】

No.	品名	数量	単位	単価	金額(税別)	備考
1	基本加工費	240	坪			
2	プレカット図作成費	240	坪			
3	ケラバ落し	45	ヶ所			
4	金物工法ハイブリット加工	1	式			
				小計		

【運賃】

No.	品名	数量	単位	単価	金額(税別)	備考
1	運搬費	1	式			
				小計		

⑤金物の種類、仕様・規格・数量

No.	品名	記号	呼び寸	数量	単位	単価	金額(税別)	備考
1	羽子板ボルト	腰高	280	500				
2	六角ボルト・ナット	M12	125	91				
3	六角ボルト・ナット	M12	150	481				
4	六角ボルト・ナット	M12	165	158				
5	六角ボルト・ナット	M12	255	8				
6	六角ボルト・ナット	M12	330	4				
7	六角ボルト・ナット	M12	420	12				
8	座金	ばね付き		1300				
9	両引き羽子板		130	20				
10	ビス止め短冊	10kN	300	93				
11	HDJ	25kN		5				
12	火打金物	HB		186				
13	L型柱金物	5.07kN		208				
14	10kN金物	10L		44				
15	15kNホールダウン金物			62				
16	20kNホールダウン金物			28				
17	25kNホールダウン金物			28				
18	43kNホールダウン金物			8				
19	偏心座付きボルト	M16		40				
20	両引きボルト	M16	800	43				
21	かすがい			400				
22	垂木止め	ビス		200				
小計								

No.28 施工図(基礎関連図書)

実際に建物を施工する場合には設計図だけでは情報が不十分であるため、施工に必要な詳細情報を記載した施工図を作成する。

関連する工事関係者間で施工図を共有することにより、適確な数量の把握や間違いのない効率的な工事の進行につながる。

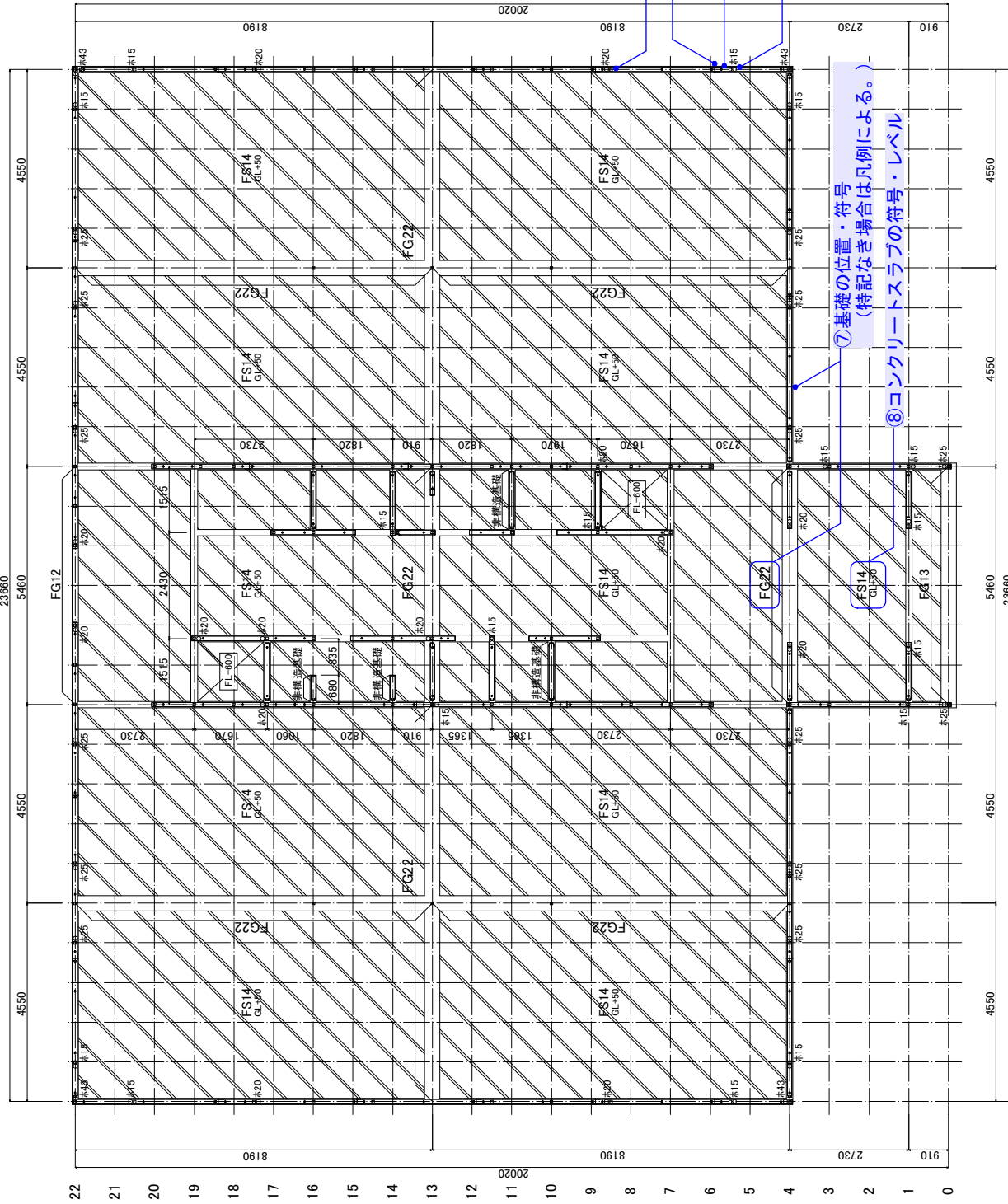
本手引きでは、代表例としてRC造と木造が取り合う建物精度にかかわる重要な箇所である基礎関連の施工図を示す。

K-01 基礎伏図

K-02 アンカーボルト伏図

K-03 基礎詳細図

基礎伏図



①基礎の仕様・符号

- 基礎伏図について特記なき場合下記による
- 基礎名称 外周地中梁 FG11
内部立上り FG21
 - コンクリート種類 Fc-21
 - 鉄筋種類 SD-295
 - 地盤の調査方法
スクリーニング・ウェイト貫入試験
地盤の種類 第2種
許容地耐力 30.00 kN/m²
 - 基礎の位置は、芯振分けとする
 - アンカーボルトは柱から200mmとする。凡例：◎
土台の継手、仕口部分から200mmに配置する。
その他、土台長さ2.0m以内に配置する。

凡例 ②ホールダウン金物の仕様・凡例

シンボル	部位	寸法	数量
○ _{#15}	15kNホールダウン金物	—	17
○ _{#20}	20kNホールダウン金物	—	14
○ _{#25}	25kNホールダウン金物	—	14
○ _{#43}	43kNホールダウン金物	—	4

●作成概要
設計図書(構造図)を元に基礎、
土台、各種金物の位置・仕様、
継手・仕口の位置・形状等を明
示した図面を作成する。
本図面を元にコンクリート工事
と木工事の関係者が情報共有す
ることが重要である。
確実な施工を行うための情報が
盛り込まれている場合には、
設計図書(構造図)で代用する
場合もある。

●記載事項
①基礎の仕様・符号
②ホールダウン金物の仕様・凡例
③柱の位置
④土台の位置・継手位置
・仕口位置
⑤アンカーボルトの位置・仕様
⑥ホールダウン金物の位置・
仕様
⑦基礎の位置・符号
⑧コンクリートスラブの符号・
レベル

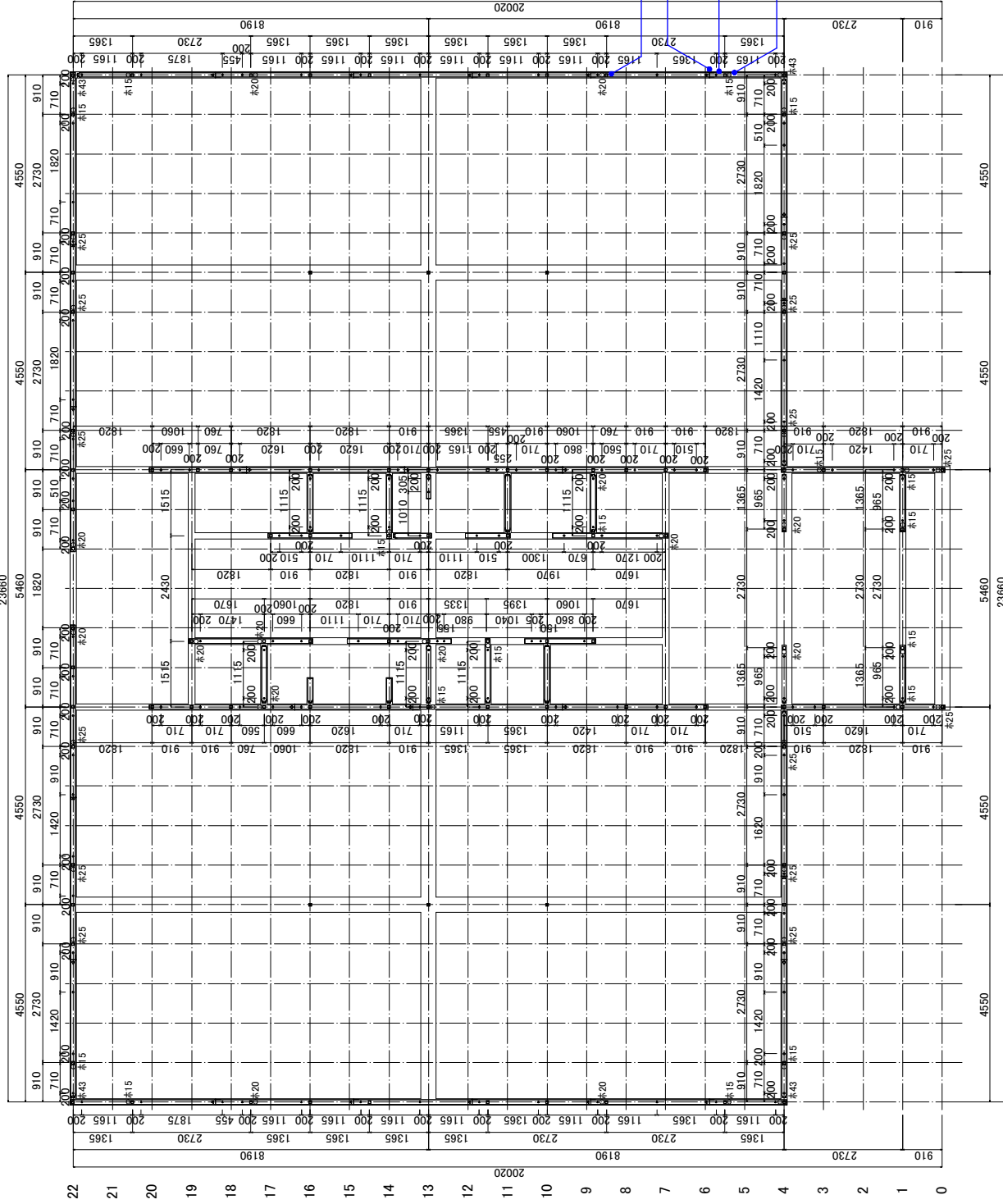
- ③柱の位置
- ④土台の位置・継手位置・仕口位置
- ⑤アンカーボルトの位置・仕様
- ⑥ホールダウン金物の位置・仕様

⑦基礎の位置・符号
(特記なき場合は凡例による。)

⑧コンクリートスラブの符号・レベル

い ろ は に ほ へ と ち り ぬ る を わ か た よ だ れ そ つ ね な ら む う ゐ の お

アンカーボルト伏図



いろはにほへとちりぬるをわかたよれそつねならむうぬのお

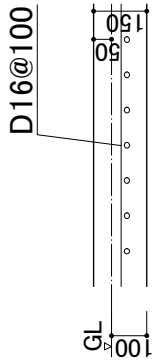
①柱・ホールダウン金物の仕様・凡例

シンボル	部位	寸法	数量
□	通し柱	---	---
□	柱	---	---
☒	特殊柱	---	---
○ #15	15kホールダウン金物	---	17
○ #20	20kホールダウン金物	---	14
○ #25	25kホールダウン金物	---	14
○ #43	43kホールダウン金物	---	4
◎	アンカーボルトM12 埋込み長230mm以上 柱芯より250mm以内に配置 土台の継手、仕口部分から200mmに配置する。 その他、土台長さ2.0m以内に配置する。		

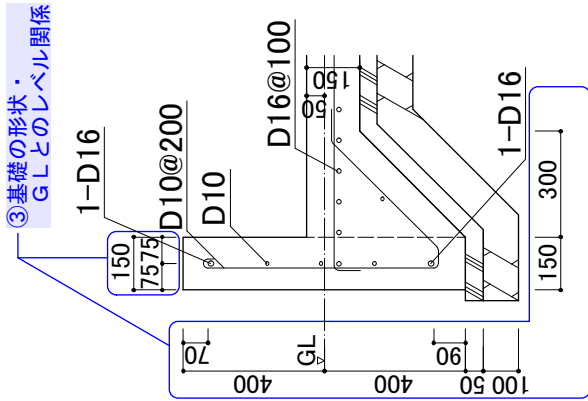
※ホールダウン金物のアンカーボルト位置はメーカーカタログを参照し配置する。

- 作成概要
基礎伏図上に土台及びアンカーボルトの位置・仕様を明示した図面を作成する。
アンカーボルトの施工精度は建て方や建物全体の精度に大きく影響を与えるため、本図面を用いて慎重に施工管理を行うことが重要である。
- 記載事項
①柱・ホールダウン金物の仕様・凡例
②柱の位置
③土台の位置・継手位置・仕口位置
④アンカーボルトの位置・寸法・仕様
⑤ホールダウン金物の位置・仕様

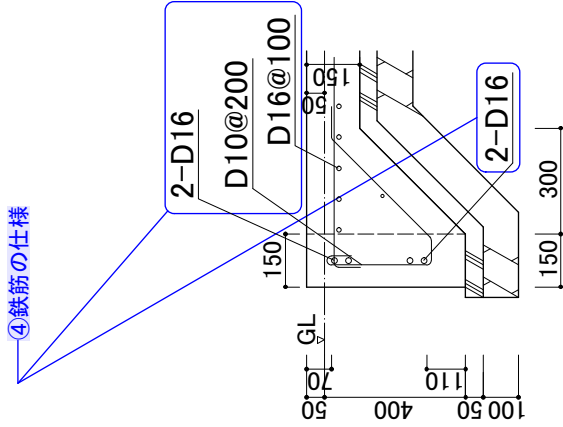
基礎詳細図



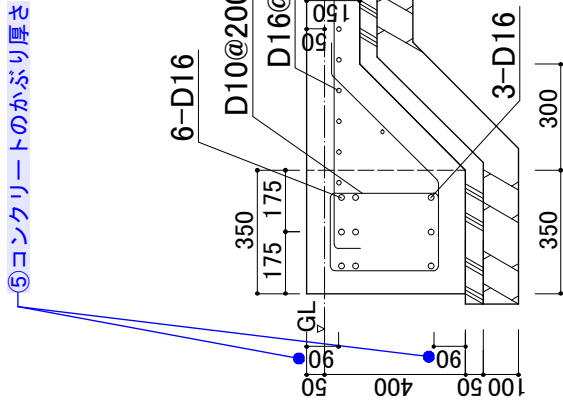
FS14 ①スラブの符号



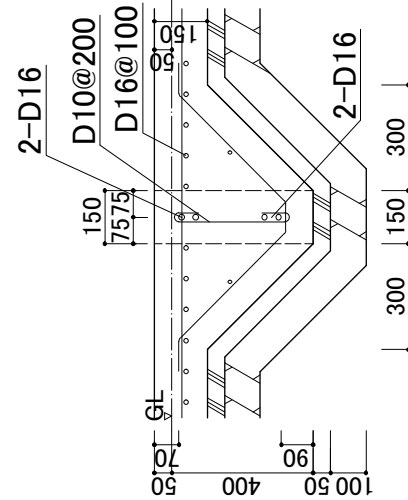
FG11 ②基礎の符号



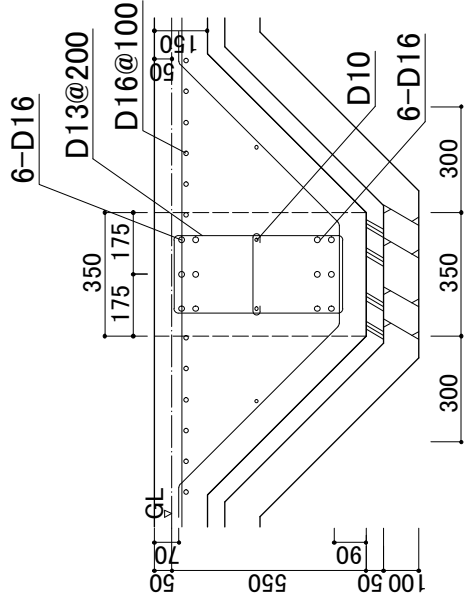
FG12



FG13



FG21



FG22

●作成概要
基礎及びスラブの断面形状、コンクリートのかぶり厚さを含む。配筋の詳細を明示した図面を作成する。
本図面を元に各部材の数量拾い、材料発注、及びコンクリート工事の施工に用いる。

●記載事項
①スラブの符号
②基礎の符号
③基礎の形状・GLとのレベル関係
④鉄筋の仕様
⑤コンクリートのかぶり厚さ

凡例	承認	承認	変更履歴	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル	DATA 2023.10	ST/BN	SCALE A3 S=1:15	NO. K-03
				NAME OF PLAN 基礎詳細図			JBN+PWA	

No.37 材料の合法性確認書類(出荷証明書)

発注者から要望があった場合等、必要に応じて木材関連事業者に合法的に伐採された木材であることが確認できる書類の作成を依頼する。

出 荷 証 明 書

株式会社 ○○○○ 殿

〒○○○-○○○
 ○〇県〇〇市〇〇町〇-〇-〇
 TEL○○○-○○○-○○○
 株式会社 ○○○○
 代表取締役 ○〇 ○〇
 認定番号 第○○○号

下記の出荷した木材は、クリーンウッド法に基づき合法性が確認された木材です。

物件名	○○○○新築工事
元請業者名	○○建設 株式会社
出荷日	令和〇年〇月〇日

樹種	等級	製品寸法	数量	材積	備考
桧 KD	特等	4000 × 120 × 120	41	2.3616	
杉 KD	特等	4000 × 90 × 90	94	3.0456	
杉 KD	特等	4000 × 120 × 240	26	2.9952	
杉 KD	特等	4000 × 120 × 150	47	3.384	
杉 KD	特等	3000 × 120 × 240	25	2.16	
杉 KD	特等	3000 × 120 × 210	2	0.1512	
杉 KD	特等	3000 × 120 × 150	8	0.432	
杉 KD	特等	3000 × 120 × 120	3	0.1296	

No.38 施工フロー

着工前準備から施工計画、材料調達、施工に至る作業内容とその手順の概要を整理し、各手順において連携する木造建築関連事業者と連携する内容(役割分担)を明確にしたフローを作成する。

本フローを連携する全ての木造建築関連事業者が共有することにより、役割分担、作業手順が明確になり、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

【No.38】施工フロー

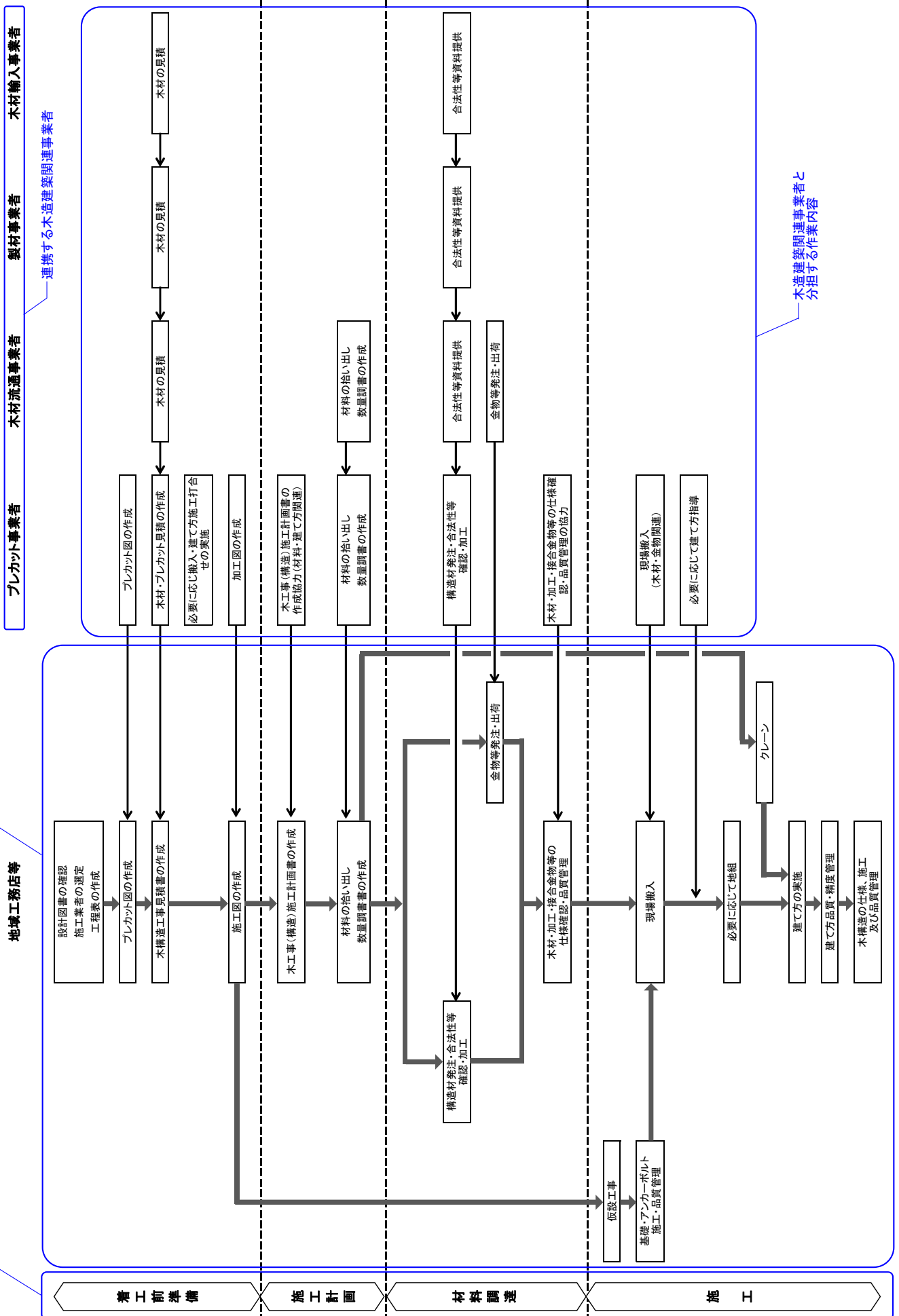
※本フローは連携方法の一例であり、建物規模、工事内容、地域工務店等の特性等により多様なケースがあると考えられます。

凡例

← : 木造建築関連事業者(木造パートナー)による連携

工事の段階

木工事(構造)の作業内容と手順



木造建築関連事業者と
分担する作業内容

No.49 建て方計画図

当該工事の規模・形状・敷地及び工程等の諸条件を踏まえ、建て方が円滑かつ安全に進み、品質を確保できるよう、資材や地組のスペース、重機の配置、揚重計画等を総合的に計画する。

本計画図を建て方に関わる全ての工事関係者が共有することにより、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

第7章

施工管理図書作成にかかる
記載事項及び留意事項等

第7章 施工管理図書作成にかかる記載事項及び留意事項等

本章では、各種施工管理図書を作成するにあたり記載が必要となる事項や作成時の留意事項等について、添付図書を中心に補足解説を行っています。また、一部木構造工事の施工管理の要点についても触れています。実物件にて図書を整備する際の参考として下さい。

着工前準備

◎総合施工計画書

3 工程表 (No. 6)

- ・バーチャート工程表の作成を基本とする。
- ・工程は、工事科目ごとに記載し、検査関係の予定も記載する。
- ・木材調達や各種施工管理図書の作成等、着工前の準備期間も含めて作成する。
- ・着工日、上棟日、軸組完了日、内装工事着手日、建物完成日、竣工引渡日等、工事の節目となる期日び実績を記載できるようにする。
- ・発注者指定の様式がない場合は、自社の様式を使用する。

8 仮設計画

8.1 総合仮設計画図 (No. 24)

- ・総合仮設計画図には、以下の事項を記載する。
- ・指定仮設がある場合は、図面に指定仮設と明記すること。

記載項目	記載内容	留意事項
①仮囲い・門扉(ゲート)	位置・高さ・仕様等	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地と道路の形状や交通量を確認した上で、出入りしやすく危険の少ない位置に設置する。 ・ゲートや出入口は施錠できる構造とする。 ・工事車両が出入りするゲートは車両用と人用を区別して設置することが望ましい。 ・通行人や交通量が多い場合には回転表示灯を設置する。 ・ミキサー車、ポンプ車、ラフタークレーン等の大型車両が出入りする際は交通誘導警備員を配置する。 ・ゲート部の路面には道路管理者との協議の状況に応じて仮設鉄板を設置する。 ・仮囲いへの開口部の設置、騒音・振動計の設置、完成予想図等の設置等、発注者から条件が提示される場合もあり。
②場内通路・各種スペース	位置・規模・仕様等	<ul style="list-style-type: none"> ・位置・仕様・設置期間によっては地盤改良が有利な状況もあり。
③荷揚計画(建て方用荷揚げを計画含む)	クレーン据え付け位置・構台設置位置	<ul style="list-style-type: none"> ・構造・仕様は別紙可 ・移動式クレーンの作業半径・揚程に関する性能を確認する。

④建物外部足場	輪郭がわかるもの	・詳細は足場計画図にて記載可
⑤屋根材の現場成型場所	構造及び位置(足場)	・必要に応じて記載すること
⑥仮設建物	現場事務所・作業員休憩所・トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・外形のみでも可。但し別紙詳細を作成すること。 ○現場事務所 <ul style="list-style-type: none"> ・工事の邪魔にならない場所かつ、現場全体を見通せる位置に設置することが望ましい。 ・作業員詰所は異業種間のコミュニケーションを重視して大部屋方式とすることが望ましい。 ・一般的には解体が容易なプレハブで建てるが多いが、敷地に余裕がない場合は近隣のビルや建物の一室を借りることもあり。 ○トイレ <ul style="list-style-type: none"> ・男子用に加えて、女子用を設け、国土交通省標準仕様の快適トイレとすることが望ましい。
⑦資材等仮集積場	位置・区画・仮囲い等	<ul style="list-style-type: none"> ・資材ストックヤードを設け、建て方時には、資材搬入及び地組を行うエリアとして利用することを検討する。 ・工事規模・内容に応じた規模の倉庫及び産廃コンテナを配置する。
⑧地業・掘削位置	地業・掘削位置 基礎掘削の動線	・複雑な場合は、別に地業・掘削位置図を作成し、仮設計画との干渉を確認すること
⑨各種看板類	位置図	・法令で規定されたもの等（建設業の許可票・施工体系図・労災保険関係成立票・確認済の表示板・道路使用許可証（必要な場合）等）
⑩仮設給水	給水位置	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設給水は現場事務所、作業員詰所付近に設置し、トイレの手洗いも兼ねる。 ・杭工事など給水が大量に必要な時は、杭施工時にディープウェルを設置
⑪仮設電力	分電盤位置	<ul style="list-style-type: none"> ・分電盤は現場事務所や現場に近接した場所に設置する。雨がかからないよう配慮し、取扱責任者を明示する。 ・引込容量は電灯（100V）動力（3φ200V）を合わせて50KVAの場合、それぞれ50KVAの場合があり、地域によって異なるため注意が必要
⑫支障物の撤去及び移設等	地中障害物、解体建物等	・必要に応じて記載すること。
⑬その他安全等に 必要な設備	隣地に対する養生等	・必要に応じて記載すること。

8.2 足場計画図 (No. 25)

- ・足場の高さが 10m 以上かつ設置期間 60 日以上の場合は、足場の設置届を労働基準監督署に提出する。
- ・足場の基本割付寸法、建物からの標準的な離れ寸法、昇降設備位置、頭つなぎの位置等を明示する。
- ・荷揚げ構台が必要な場合は記載する。
- ・建て方前と建て方後で設置のタイミングが異なる足場がある場合は、区分を明示することが望ましい。
- ・中大規模木造建築では、庇の出が大きいケースがあり、庇先端の作業と屋根からの転落防止の検討が必要となる。足場を庇下まで二重に設置するか、幅広の足場を設置し、庇の外側に足場を庇上まで立ち上げることが考えられる。軒先の手摺の高さは、庇より 1.0m 以上立ち上げる。
- ・内部の天井が高い場合は、内部足場図を別途作成する必要がある。
- ・その他、安全性確保のため、以下についても留意し、記載する。
 - 作業床の幅は 40cm 以上（狭い場合は 24cm）
 - 足場の下に敷き板等の設置
 - 根がらみの設置
 - 最下段の作業床は地盤面から 2.0m 以下（2 本組は 2.3m 以下）
 - 壁つなぎや控えの設置
 - 隅角部への火打ち材の設置
 - 筋かいは 45 度とし、全層全スパンに設置
 - 転落防止措置（手摺、足場ネット、巾木、建物との離れ 30cm 以下、屋根から 1.0m 以上など）の厳守
 - 手摺高は 75cm 以上 90cm 以下とし、90cm 超の場合は中棧を設置
 - 屋根面手摺は 75cm 以上かつ中棧の設置

◎総合施工計画書関連図書

9 プレカット図 (No. 26)

- ・プレカット図は、プレカット工場での加工や現場の組立時に参照される加工図であるが、近年、中大規模木造建築の普及促進が進む中、在来軸組工法の中大規模木造建築ではプレカット図が、施工図の役割を果たす必要性が発生している。
- ・施工図の役割を果たすプレカット図として、標準図系（凡例図、仕様書）、平面図系（伏図、耐力壁・柱金物図、面材配置図、窓材伏図）、断面図系（断面図）の各図書を作成する。

10 木構造工事見積書 (No. 27)

- ・見積項目は、構造材、羽柄材、加工費、運賃、金物等とし、極力詳細に計上した見積書を作成する。
- ・構造材、羽柄材を1本拾いで計上し、部材名、品名（樹種等）、等級、材寸、数量、材積を記載する。
- ・金物は、種類、仕様・規格ごとに計上する。

11 施工図 (No. 28)

- ・本手引きでは、木構造工事と関連性の高い図書として、基礎伏図、アンカーボルト伏図、基礎詳細図を掲載している。
- ・アンカーボルトの施工精度は建て方や建物全体の精度に大きく影響し、慎重な施工管理が必要となるため、アンカーボルトの位置を寸法で示したアンカーボルト伏図を作成する。

◎木工事（構造）施工計画書

5 材料調達

数量調書（No. 36）

- ・本手引きでは見積項目として木材、金物の数量を計上している木構造工事見積書（No. 27）と兼用する。

材料の合法性確認書類（No. 37）

- ・「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（通称「クリーンウッド法」）」では、我が国又は原産国の法令に適合して伐採された樹木を材料とする木材・その製品の流通及び利用を促進することを目的として、木材関連事業者や国が取り組むべき措置等について定めている。
- ・本法律において地域工務店等は「第二種木材関連事業」と位置付けられ、木材等について合法性の確認措置を講ずるよう努めることが求められている。
- ・地域工務店等は、発注者の要望等があった場合は、木材等を譲り受ける際に提供された次の書類、その他これに類する書類により木材等の合法性の確認を行うことが現実的と考えられる。
 - イ．第一種木材関連事業者（製材工場、原木市場等）から木材等を譲り受ける場合には、その第一種木材関連事業者が合法性を確認できた旨を記載した、又は記録した書類
 - ロ．第二種木材関連事業者（プレカット工場、販売・流通事業者等）から木材等を譲り受ける場合には、その第二種木材関連事業者が合法性の確認を行った旨及び合法性の確認ができた旨を記載した、又は記録した書類
- ・本手引きでは第一種木材関連事業者から第二種木材関連事業者に提出された出荷証明書を想定した例を掲載している。
- ・改正クリーンウッド法が令和7年4月に施行されるため、令和7年度以降は改正法に基づいた対応が必要となる。
- ・詳しくは合法伐採木材等に関する情報提供ホームページ「クリーンウッド・ナビ」（<https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/goho/>）を参照されたい。

6 施工要領

6.1 施工フロー（No. 38）

- ・着工前準備、施工計画、材料調達、施工の段階ごとに実施する作業内容とその流れを整理し、関係する木造建築関連事業者と情報の共有を行う。
- ・木造関連事業者と連携して作業を行う場合は、連携する事業者との役割分担を明確に整理する。

6.3 木材の品質管理

6.3.1 使用する木質材料（No. 40）

- ・木構造工事で使用する主要な木質材料（構造材・構造用合板等）の仕様等を整理する。

(1) JAS 構造用製材

- ・部位ごとに樹種、目視等級区分・機械等級区分の別、含水率、保存処理方法等を記載する。

材面の美観について

- ・材面の美観の区分には、JAS 規格と慣用的な等級の 2 種類の表示方法があり、それぞれで基準が異なる。また、慣用的等級区分は地域によっても異なる。そのため、サンプルを用いて監督職員や監理者等と確認しておくことが望ましい。

(2) 地域認証材

- ・多くの地域で地域材認証制度が創設されている。地域材認証制度は、大きく分けて、産地証明を主目的とした制度と、含水率やヤング係数など JAS に準じた規格を設けている制度がある。後者の場合は、現場における木材の品質管理を合理化できる。
- ・含水率やヤング係数など JAS に準じた規格が設けられている地域認証材を使用する場合は、部位ごとに、樹種、含水率などの規格を記載する。
- ・地域材は、基本的に施工者が決まり、その施工者からプレカット事業者や木材流通事業者への発注があってから調達や加工が始まる。そのため、量が多く特殊な寸法の場合は、調達時間が必要である。詳しくは、「地域材活用の中大規模木造建築物実現の手引き」（平成 28 年 3 月（一社）木を活かす建築推進協議会）を参照されたい。

(<https://www.kiwoikasu.or.jp/data/94f3ec1ddb901419f48600d5f56112e5.pdf>)。

(3) 無等級材

- ・部位ごとに樹種、含水率を記載する。
- ・構造設計上必要となるヤング係数を記載する。

(4) 構造用集成材

- ・部位ごとに樹種、品名（同一等級構成・異等級構成）、強度等級、材面の品質、接着性能、ホルムアルデヒド放散量を記載する。
- ・なお、構造用集成材は使用箇所に応じた接着性能の選定が重要である。屋外など耐候性・耐熱性が必要とされる箇所には使用環境 A の接着性能を用いることが必要である。

(5) 構造用単板積層材（LVL）

- ・部位ごとに樹種、品名（A 種・B 種）、曲げ性能、水平せん断性能、接着性能、ホルムアルデヒド放散量を記載する。

(6) 直交集成板（CLT）

- ・部位ごとに樹種、規格、厚さ、接着剤の種類、接着性能、ホルムアルデヒド放散量を記載する。

(7) 構造用面材

① 構造用合板

- ・部位ごとに樹種、等級（板面の品質）、接着の程度、厚さ、ホルムアルデヒド放散量を記載する。
- ・なお、構造用合板は使用箇所に合わせた接着性能の選定が重要である。外壁の軸組や屋根下

地など耐久性が必要とされる箇所には特類を用いることが望ましい。

②合板以外の面材

- ・ 部位ごとに種別、厚さ、サイズ、規格、認定番号、メーカーを記載する。

6.3.2 木質材料の品質管理方法 (No. 41)

(1) JAS 構造用製材・構造用集成材等

- ・ 検査時期は、工場などで製品検査を行うか現場受入時のいずれかとする。
- ・ 現場へ搬入した材料は、監督職員の検査が必要となる(公共建築木造工事標準仕様書 1.4.4)。また、納材者が行った自主検査の内容を再確認する。検査の対象は下記(※)を参考として設定する。

※公共建築木造工事標準仕様書では、構造耐力上主要な部分である柱及び横架材全数について、ヤング率が基準値を上回っていることを確認することを原則としている。しかし、本手引きで対象としている低層小規模建築物であっても、柱及び横架材の数量はきわめて多く、全数検査は膨大な時間と労力を要する。このため、予算や工期等も考慮し、発注者、木材関係者、設計者等で協議を行い、発注者の了解を得て全数検査とする部位とその他の部位を明確に区分し、一部を抜取検査とする場合は、抜取検査とする部位及び抜取率をあらかじめ設定しておく事が、現実的な対応策と考えられる。

(2) 地域認証材

- ・ JAS に準じた規格が設けられている場合は、(1)と同様の検査を行う。JAS に準じた規格が設けられていない場合は、(3)と同様の検査を行う。
- ・ 検査の対象は(1)(※)を参考に設定する。
- ・ 地域認証材や森林認証材等、規格の異なる複数の木材を取り扱う場合には、これらが煩雑にならないよう視覚的に識別できるようにする等、仕分け管理に十分に注意する。

(3) 無等級材

- ・ 木材の品質(材面の欠点・含水率・ヤング係数)の確認方法を、特記仕様書等により確認する。
- ・ 公共建築木造工事標準仕様書 令和4年版 5.2.2 では、無等級材は加工前に材面の欠点・含水率・縦振動ヤング係数を確認することとなっている。
- ・ 検査の対象は(1)(※)を参考に設定する。

●材面の欠点の確認

- ・旧製材の JAS（昭和 42 年農林省告示第 1842 号）第 10 条におけるひき角類の格付けの基準を満たすことを目視により確認する。

区分	基準
節	径比が40%以下であり、かつ、集中径比が60%以下
入り皮又はやにつぼ	軽微
丸み	20%以下であり、かつ、1角においては10%以下
曲り	0.2%以下であること。ただし、「土台用」と表示してあるものにあつては、0.5%以下
ねじれ	きわめて軽微であること。ただし、「土台用」と表示してあるものにあつては、顕著でないこと
木口割れ又は目まわり	10%以下
繊維走向の傾斜(幅が90mm未満を除く)	80mm以下
平均年輪幅	6mm以下
あて	軽微
腐れ又は虫あな	軽微
端落ち	端落ち(材の1端の欠除した部分)の厚さ方向の長さの最大値と最小値の和の1/2の材の1辺長さに対する割合が10%以下であり、かつ、材の長さ方向の長さが0.2m以下
その他の欠点	軽微

●含水率の確認

- ・高周波水分計等を用い、1本あたり6か所(1本の製材の異なる2面について両小口から300mm以上離れた2か所及び中央1か所)の測定を行い、その平均値とする。

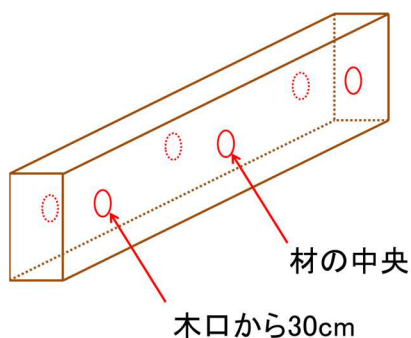


図2 含水率の計測方法



図3 含水率の計測例

●縦振動法によるヤング係数の確認

- ・縦振動法とは、試験体(木材)の一方の木口面をハンマーで軽くたたいて試験体を縦振動させ、他方の木口面近くに設置したマイクロホンで材中を伝わる縦波を音としてとらえ、サウンドアナライザーによって分析し、材料の基本振動数を測定することによってヤング係数を算出する方法である。1試験体につき1回の計測を行う。



図4 縦振動法によるヤング係数の計測例

(4) 構造用合板

- ・現場受入時に指定された品質の構造用合板である事を、JAS ラベル又は JAS 印字で確認し、工事写真等により記録を残す。

6.4 木材の加工

6.4.1 木材加工の品質・仕様 (No. 42)

(1) 製材・構造用集成材の寸法許容差

- ・製材や構造用集成材の長さや断面寸法に関する許容差を、特記仕様書等で確認する。
- ・寸法には製材工場の出荷時の寸法を意味する「挽き立て寸法」と、施工者の加工後の実寸法である「仕上がり寸法」があることに注意する。図面での寸法指定は仕上がり寸法である。※本手引きでは、参考例として（一社）中大規模木造プレカット技術協会における製材の寸法許容差を示している。

(2) 孔あけ等の加工精度の基準

- ・木材にあけるボルト孔等の寸法は、特記なき限り、公共建築木造工事標準仕様書 5.4.3（孔あけ加工）の基準を順守する（ボルト（引張）を除く）。

(3) 表面仕上げの仕様

- ・見え掛かりとなる面の表面仕上げの程度を特記仕様書等により確認する。
- ・本手引きでは、参考例として公共建築木造工事標準仕様書 5.4.4（表面の仕上げ）における、製材の機械加工による仕上げの程度を示している。

(4) 木材保護塗装

- ・建て方時の養生（汚れ止め）として、見え掛かりとなる構造材に、あらかじめ木材保護塗料を塗ることを指定している場合がある。塗装箇所を特記仕様書等で確認し、使用する材料やメーカーを施工計画書に記載する。

(5) 不燃処理木材等

- ・不燃材料、準不燃材料又は難燃材料を使用する場合は、特記による。

6.4.2 木材加工の品質管理方法 (No. 43)

- ・当該検査は木材の加工後に実施し、実施した検査記録を工事写真等にまとめる。

6.5 接合金物等

6.5.1 使用する主な接合具・接合金物 (No. 44)

- ・使用する主な接合部・接合金物を一覧で整理する。
- ・(公財) 日本住宅・木材技術センターが規定するZマーク等の規格があるものは、その規格を記載する。
- ・釘やボルト・ナットなどは JIS 規格があるものは、JIS 規格品を使用する。
- ・接合金物は、直接雨にさらされる屋外環境で使用する場合は、特記がなければステンレス製を用いる。
- ・カタログのコピーを施工計画書の巻末に添付して提出する。

6.5.2 接合金物等の品質管理方法 (No. 45)

- ・接合金物等は現場受入時に指定された製品である事を出荷証明書で確認し、工事写真等により記録を残す。

6.6 アンカーボルトの施工

6.6.1 アンカーボルトの施工精度の基準 (No. 46)

- ・アンカーボルトの施工精度は建て方や建物全体の精度に大きく影響を与えるため、慎重な施工管理が必要である。
- ・アンカーボルトの施工精度の基準やアンカーボルトの保持及び埋込み工法を特記仕様書等で確認する。特記がなければ監理者・監督職員と協議の上決定する。

6.6.2 アンカーボルト施工の品質管理方法 (No. 47)

- ・アンカーボルトの検査はコンクリート打設前に行い、基準を満たしていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.7 建て方の施工計画

6.7.1 建て方フロー (No. 48)

- ・本手引きでは、2階建て軸組工法の建築物の建て方のフロー（例）を示している。
- ・なお、建て方の作業主任者や玉掛け作業員は技能講習修了者であることが必要である。

6.7.2 建て方計画図 (No. 49)

- ・建て方計画図は、総合仮設計画図に建て方時に必要となる情報を追記することを基本とする。
- ・総合仮設計画図に追記する主な内容は以下の通り。

記載内容	留意点
①仮設鉄板敷き部分（クレーン設置場所及び地組スペース部）	
②重機据え付け位置	移動位置を明示
③架空電線の位置 ※作成例では省略	干渉時には防護管を設置
④最遠部の作業半径時の吊り荷荷重（部材の重量）	
⑤最大吊り荷荷重時の作業半径（特に地組部材）	
⑥荷降ろし位置・地組スペース	
⑦重機廻りの立ち入り禁止区域	
⑧建て方手順	

6.8 建て方の施工精度

6.8.1 建て方の精度基準 (No. 57)

- ・建て方の精度に関する基準を特記仕様書等で確認する。
- ・精度を確認する項目には、建物の倒れ、建物の湾曲、階高、柱据付面の高さ、柱の倒れ、梁の水平度等がある。特記がなければ監理者・監督職員と協議の上、確認項目、確認箇所数、許容値等を決定する。

6.8.2 建て方の品質管理方法 (No. 58)

- ・建て方の検査は、建て方後に行い、計測数値が許容値の範囲内であることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.9 接合部

6.9.1 接合部の施工管理の内容 (No. 59)

- ・接合部の接合方法には、釘、木質構造用ねじ、ボルト、ドリフトピン、ラグスクリュー等があり、採用する接合方法を選択する。
- ・詳細は構造木工事監理マニュアル（（一社）中大規模木造プレカット技術協会）を参考にされたい。

6.9.2 接合部の品質管理方法 (No. 60)

- ・接合部の検査は施工時又は施工完了時に行い、接合部の施工管理の内容が満たされていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.10 耐力壁

6.10.1 耐力壁の仕様 (No. 61)

- ・耐力壁には大きく面材耐力壁と筋かい耐力壁があり、それぞれの仕様を特記仕様書等で確認する。

6.10.2 耐力壁の施工管理の内容 (No. 62)

- ・面材耐力壁の管理は、釘の種類、長さ、間隔だけでなく、へりあきの確保やダクトなどの孔あけルールが重要である。

6.10.3 耐力壁の品質管理方法 (No. 63)

- ・耐力壁の検査は施工時又は施工完了時に行い、耐力壁の施工管理の内容が満たされていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.11 水平構面

6.11.1 水平構面の仕様 (No. 64)

- ・水平構面は、2階以上の床構面と屋根構面に分けられる。それぞれの仕様を特記仕様書等で確認し、施工計画書にまとめる。

6.11.2 水平構面の施工管理の内容 (No. 65)

- ・構造用合板の施工管理は、水平構面の仕様だけでなく、へりあきの確保やダクトなどの孔あけルールが重要である。

6.11.3 水平構面の品質管理方法 (No. 66)

- ・水平構面の検査は施工時又は施工完了時に行い、水平構面の施工管理内容が満たされていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.12 防腐・防蟻

6.12.1 防腐・防蟻の仕様 (No. 67)

- ・木質材料の防腐・防蟻処理方法は、ヒノキ等の耐久性の高い樹種を用いる方法、保存処理材を用いる方法、および薬剤の現場塗布等の方法がある。
- ・防腐・防蟻処理の有無およびその仕様を特記仕様書等により確認し、施工計画書にまとめる。

6.12.2 防腐・防蟻の品質管理方法 (No. 68)

- ・防腐防蟻の検査は、高耐久木材・保存処理材を使用する場合と薬剤の現場塗布で異なる。

参考文献

本手引きの作成においては、以下の資料を参考としました。

- ・ 地域工務店が取り組む中大規模木造建築物の施工管理マニュアル
R4 年度版（令和 5 年 2 月 （一社）JBN・全国工務店協会）
- ・ 中大規模木造建築のプレカット図の読み方セミナーテキスト
（令和 6 年 2 月 （一社）中大規模木造プレカット技術協会、（公社）日本建築士会連合会）
- ・ 施工計画書ひな形集(改訂版)（令和 4 年（一社）日本建設業連合会関西支部 IT 専門部会）
- ・ 中大規模木造建築の担い手講習テキスト（令和 3 年 10 月 日本集成材工業協同組合）
- ・ 公共建築木造工事標準仕様書 令和4年版（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
- ・ 木質工事特記仕様書（令和 3 年（一社）中大規模木造プレカット技術協会）
- ・ 木造軸組接合部標準図（令和 3 年（一社）中大規模木造プレカット技術協会）

ウッド・チェンジ協議会 低層小規模グループ参加企業等名簿

主査・委員長：大橋 好光（東京都市大学名誉教授）

委員：（参加企業・団体）

（一社）中大規模木造プレカット技術協会	https://www.precut.jp/
（一社）JBN・全国工務店協会	https://www.jbn-support.jp/
（一社）日本木造住宅産業協会	https://www.mokujukyo.or.jp/
日本マクドナルドホールディングス（株）	https://www.mcd-holdings.co.jp/
（株）セブン-イレブンジャパン	https://www.sej.co.jp/
SMB建材（株）	https://www.smb-kenzai.com/
（株）シェルター	https://shelter.inc/
住友林業（株）	https://sfc.jp/
（株）竹中工務店	https://www.takenaka.co.jp/
東急建設（株）	https://www.tokyu-cnst.co.jp/
ナイス（株）	https://nice.co.jp/
ポラス（株）	https://www.polus.co.jp/
三菱地所（株）	https://www.mec.co.jp/
ライフデザイン・カバヤ（株）	https://lifedesign-kabaya.co.jp
中国木材（株）	http://www.chugokumokuzai.co.jp
銘建工業（株）	https://www.meikenkogyo.com/
事務局：（公財）日本住宅・木材技術センター	https:// www.howtec.or.jp/
（株）アルセッド建築研究所	https://www.alsed.co.jp/

非住宅・木造低層小規模建築物施工管理図書作成の手引き ～発注者の満足度の高い現場運営と施工管理図書の活用に向けて～

令和6年3月発行

発行 公益財団法人 日本住宅・木材技術センター

〒136-0075 東京都江東区新砂3-4-2

TEL 03-5653-7662 FAX 03-5653-7582

<https://www.howtec.or.jp/>

編集・制作／株式会社アルセッド建築研究所

本手引きは令和5年度 林野庁補助事業

「工務店等支援体制の構築」にて作成しました。

本手引きの文章・写真・表等の無断複製・転載を禁じます。